

2023(令和5)年度 看護学部シラバス

看護学科 (2022年度以降の入学生)

基礎 (教養)					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22HUM101	Science Basics	1	22HUM116	社会学概論	1
22HUM102	データサイエンス	1	22HUM117	家族社会学	1
22HUM103	情報リテラシー	1	22HUM118	日本国憲法	1
22JUN104	看護学セミナー	1	22HUM119	文章表現法	1
22JUN105	キリスト教学	1	22HUM120	Humanities Basics	1
22JUN106	純心平和学	1	22HUM121	文化人類学	1
22NBA107	看護倫理	3	22HUM122	コミュニケーション論	1
22HDE108	心理学概論	1	22NBA123	看護情報学	1
22JUN109	宗教学	2	22NBA124	臨床心理学	3
22JUN110	叡智の探究	1	22LAN125	英語 I	1
22HUM111	運動理論・実技	1	22LAN126	英語 II	1
22ART112	人間とアート	2	22LAN127	看護英語	2
22ART113	合唱音楽	2	22LAN128	Listening & Speaking	2
22ART114	美術療法	3	22LAN129	Reading & Writing	2
22ART115	音楽療法	3			

専門 (専門基礎分野)					
22NBA201	形態機能学 I	1	22NBA212	疾病治療論 IV	2
22NBA202	形態機能学 II	1	22NBA213	疾病治療論 V	2
22NBA203	形態機能学 III	1	22NBA214	医療概論	1
22NBA204	形態機能学演習 (解剖見学含む)	1	22NBA215	保健医療福祉行政論	2
22NBA205	病理学	2	22NBA216	保健医療福祉行政展開論	2
22NBA206	薬理学	2	22NBA217	公衆衛生学	1
22NBA207	栄養生化学	1	22NBA218	健康教育学	1
22NBA208	感染予防学	1	22NBA219	保健統計学 I	1
22NBA209	疾病治療論 I	1	22NBA220	保健統計学 II	2
22NBA210	疾病治療論 II	1	22NBA221	疫学	2
22NBA211	疾病治療論 III	2			

専門 (看護の実践)					
22NPR301	看護学概論	1	22NPR326	精神看護学概論	2
22NPR302	基本援助技術	1	22NPR327	精神看護学援助論	2
22NPR303	生活援助技術	1	22NPR328	精神看護学演習	3
22NPR304	診療援助技術	2	22NPR329	家族看護学	3
22NPR305	看護とコミュニケーション	1	22NPR330	終末期・緩和看護学	3
22NPR306	看護展開論	2	22NPR331	がん看護学	3
22NPR307	フィジカルアセスメント	2	22NPR332	補完代替医療と看護	3
22NPR308	暮らしの理解	1	22NPR334	公衆衛生看護支援技術論	3
22NPR309	地域・在宅看護学概論	2	22NPR335	公衆衛生看護支援技術演習	3
22NPR310	地域・在宅看護学 (生活援助技術)	2	22NPR336	対象別公衆衛生看護論	4
22NPR311	地域・在宅看護学 (医療関連技術)	3	22NPR337	地域活動支援演習	4
22NPR312	在宅看護過程	3	22NPR338	基礎看護技術実習	1

2023(令和5)年度 看護学部シラバス

専門（看護の実践）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NPR333	公衆衛生看護学概論	2	22NPR339	基礎看護展開実習	2
22NPR313	成人の生活と健康	2	22NPR340	暮らしの理解体験実習	1
22NPR314	成人慢性期看護学	2	22NPR341	地域・在宅看護学実習	3
22NPR315	成人急性期看護学	3	22NPR342	成人慢性期看護学実習	3
22NPR316	成人看護学概論	1	22NPR343	成人急性期看護学実習	3
22NPR317	老年看護学概論	1	22NPR344	老年生活支援実習	3
22NPR318	老年生活機能援助論	2	22NPR345	老年退院支援実習	3
22NPR319	老年健康回復援助論	2	22NPR346	小児看護学実習	3
22NPR320	小児看護学概論	2	22NPR347	リプロダクティブヘルス看護学実習	3
22NPR321	小児看護学援助論	2	22NPR348	精神看護学実習	3
22NPR322	小児看護学演習	3	22NPR349	統合実習	4
22NPR323	リプロダクティブヘルス看護学概論	2	22NPR350	学校・産業保健実習	4
22NPR324	リプロダクティブヘルス看護学援助論	2	22NPR351	公衆衛生看護学実習	4
22NPR325	リプロダクティブヘルス看護学演習	2			

専門（看護の発展）					
22NAD401	医療安全学	3	22NAD409	看護キャリア論	4
22NAD402	多職種連携論	4	22NAD410	看護叡智探究論Ⅰ（基礎）	1
22NAD403	看護管理学	4	22NAD411	看護叡智探究論Ⅱ（看護の基礎）	2
22NAD404	災害看護学	3	22NAD412	看護叡智探究論Ⅲ（看護の専門）	3
22NAD405	国際看護学	3	22NAD413	看護叡智探究論Ⅳ（看護の統合）	4
22NAD406	医療経済論	4	22NAD414	看護研究の基礎	2
22NAD407	看護行政と看護の展望	4	22NAD415	看護研究ゼミナール	3,4
22NAD408	臨床判断演習	4	22NAD416	看護研究の実践	4

授業科目名	Science Basics	担当教員名	学内教員:南 幸子 外部講師:藤森 裕基(化学)・黒須 奉行(生物)・飯島 亮(数学)				
コード	22HUM101	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
Science Basicsでは、高校までに学習した生物・化学・数学の振り返りをしながら、私たちの身体、人々をとりまく環境、地域の自然といった身近な現象を題材とし、Scienceの法則・原理を理解し、看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりをします。 人間と相互に影響しあう自然環境を理解し、自然科学に関する基礎知識とそれに基づく広い視野からの科学的分析力を養うことが目標です。 具体的には、①体内で起きる化学反応、②細胞の働きや遺伝情報、③力と運動、④薬液の滴下数から投下時間をもとめたり、特定の濃度の輸液を用意するなどです。看護の仕事に欠かせない分野である生化学・生理学・など、看護師として必要な科学的な見方・考え方のもととなる基本的な知識を身に付けます。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 身のまわりの物質とその成分・性質について説明ができる。				○			○
2 からだを作る原子・分子と化学変化について説明ができる。				○			
3 からだの仕組みや機能について説明ができる。				○			
4 生命活動、エネルギーと代謝について説明ができる。				○			○
5 細胞の増え方と遺伝について説明ができる。				○			
6 からだの中の環境とその維持について説明ができる。				○			○
【授業計画】							
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1 6/12 5限	イントロダクション 授業の目的・概要説明 数学や生化学・生理学は、看護の仕事に欠かせない分野です。人間の体に関する「なぜだろう」、「どうなっているのだろう」と疑問を持つことから始めよう。 グループワークのためのオリエンテーションと複数の項目から興味のある分野を選択し学習テーマの決定。	南	予習(30分):シラバスを熟読する。 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
2 6/23 1限	【数学】 計算:足すと10になる計算、いろいろな筆算、四則計算の順序、倍数と約数 数の表現:分数、約分、通算、少数、割合、速さ、濃度について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(30分):スタートアップトレーニング(数学)P46～P51の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
3 6/23 3限	【化学】 科学的に人体をとらえる 「もの」は何でできているの。 物の量はどうか表す? からだをつくる物質、元素、原子・分子等について学ぶ。	外部講師 藤森	予習(30分):看護系で役立つ化学の基本P1～P30 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
4 6/23 5限	【生物】 第1章 生物の最小単位 第2章 体液の仕組みと働き すべての生き物は細胞で構成されている。この章では細胞の構造と機能について学ぶ。また、人体を構成している水や電解質の働き、浸透圧について学ぶ。	外部講師 黒須	予習(30分)看護系で役立つ生物の基本P4-P13の予習 :復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
5 6/30 1限	【数学】 複数の値の関係:平均、比、比例反比例について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(30分):スタートアップトレーニング(数学)P52～P61の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
6 6/30 3限	【化学】放射線はなぜ体に悪いの? 毒にも薬にもなる「放射線」について学ぶ。	外部講師 藤森	予習(30分):看護で役立つ化学の基本P31～P44の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
7 6/30 5限	【生物】 第3章 遺伝子情報を担うDNA 第4章 遺伝と遺伝性疾患のしくみヒトのからだのしくみ この章では、DNAの正体とその働き、遺伝性疾患と遺伝の基礎的な知識について学ぶ。	外部講師 黒須	予習(30分):看護系の役立つ生物の基本P15-P32 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
8 7/7 1限	【数学】 いろいろな単位:単位の表し方、接頭語、長さ、重さ、面積、体積について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(30分):スタートアップトレーニング(数学)P62～P67の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
9 7/7 3限	【化学】「もの」の成り立ち 化学結合の基礎をおさらいしよう。	外部講師 藤森	予習(30分):遺伝情報とタンパク質について予習する。看護系の役立つ化学の基本P45～P56 復習(25分):授業終了後の振り返りを行う。				
10 7/7 5限	【生物】 第5章 代謝総論①化学エネルギーと代謝 第6章 代謝総論②化学反応と酵素 この章では、代謝に必要な酵素の働き、と化学反応について学ぶ。	外部講師 黒須	予習(20分)看護系の役立つ生物の基本P33-P46の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				
11 7/14 1限	【数学】 数量関係:図・グラフで見る数・量、様々なグラフ、グラフの読み取り、グラフの作成について学びます。	外部講師 飯島	予習(30分):スタートアップトレーニング(数学)P70～P74の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。				

12 7/14 3限	【化学】 「水」ってすごい・・・生命活動を支える「水」の話。 体の中の「水」・・・浸透現象と・塩基について学びます。	外部講師 藤森	予習(20分)看護系で役立つ化学の基本:P57～P78の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。
13 7/14 5限	【生物】 第7章 糖の代謝 第8章 脂質の代謝 第9章 タンパク質・アミノ酸の代謝について学ぶ。	外部講師 黒須	予習(30分):看護系で役立つ生物の基本P47-P64の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。
14 7/28 1限	【化学】体は何からできているの？ 生き物を科学的に見てみよう。有機化学とはについて学ぶ。	外部講師 藤森	予習(30分)看護系で役立つ化学の基本:P79～P86 の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。
15 7/28 5限	【生物】 7～9章のまとめ	外部講師 黒須	予習(30分):看護系で役立つ生物の基本P65-P74の予習 復習(30分):授業終了後の振り返りを行う。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】 A4サイズのノートを準備する。授業前に数回、ノートの提出を求める。次回の授業前に返却する。不足のあるときは、補講時間に指導する。			
【成績の評価方法】 1 定期試験(100%)			
【履修申請上の条件】 記載事項: 特になし			
【教科書】 看護系で役立つ化学の基本 有本淳一 第2版 化学同人 看護系で役立つ生物の基本 西沢いずみ 第2版 化学同人 スタートアップトレーニング(数学)MCメディカ出版			
【参考書】 ニューステージ生物図表(浜島書店)			
【オープンな教育リソース】 記載: 特になし			
【担当教員の実務経験】 外部講師:藤森裕基(化学) 黒須奉行(生物) 飯島亮(数学) 南幸子:臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験を活かし、看護に必要な基本的な看護の専門的知識を学ぶための基盤づくりの授業を展開する。			
【オフィスアワー】 月～金曜日の昼休み・放課後			
【教員連絡先】 南 幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】 記載: 特になし			

授業科目名	データサイエンス	担当教員名	高橋 利光			
コード	22HUM102	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル復習 Microsoft Office Word/Excel+R29:T36 復習 アンケート+A18-1調査(習熟度確認)・演習 					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					①	②
1 Windowsの基本的な知識を身に付け、操作方法を習得する。						○
2 基本的な情報モラル、Web利用方法を習得する						○
3 情報資源・ネットワーク環境を利用して、情報を収集、分析、活用できるようになる						○
4 Microsoft Office Wordを利用し、基本知識・操作の習得から文書作成ができる						○
5 Microsoft Office Excelを利用し、基本知識・操作の習得と表計算、グラフ作成、基本的な関数を使用することができる						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	ガイダンス ・講義概要・講義計画の説明 ・アンケート調査(今までのPC使用状況など) ・コンピュータの基礎① Windows 基本説明	高橋	予習(60分):シラバスを確認する。PCを使用し、どんなことがしたいのか目的をイメージする(例:タイピングが速くなりたいなど)。 復習(90分):授業に配布する資料「1回目講義資料」の確認とタイピング練習			
2	コンピュータの基礎② ・Windows 基本と操作方法の説明・演習 ・利便性が高いアプリの紹介・使用説明	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(コンピュータの基礎)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料「2回目講義資料」の確認とタイピング練習			
3	情報モラルとインターネットの活用方法 ・WEBサイトを利用し、効率の良い情報収集・検索方法の説明 ・基礎的な情報モラルとITルールについて動画閲覧	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(情報モラルとインターネットの活用方法)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料「3回目講義資料」の確認とタイピング練習			
4	文書作成① ・Microsoft Office Wordの概要・機能説明 ・文書作成・演習	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Word概要と機能)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習			
5	文書作成② ・Microsoft Office Word 機能の復習と操作方法 ・文書作成・演習	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Word基礎操作)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習			
6	表計算ソフト利用① ・Microsoft Office Excelの概要説明と操作 ・表計算方法・演習	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Excel概要と機能)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習			
7	表計算ソフト利用② ・Microsoft Office Excelの基礎操作 ・数式と関数使用・演習	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(Microsoft Office Excel操作と関数表)」を確認する 復習(90分):授業に配布する資料の確認とタイピング練習			
8	情報モラル復習 ・Microsoft Office Word/Excel 復習 ・アンケート調査(習熟度確認)・演習	高橋	予習(60分):前回の授業終了時に配布する「予習資料(総復習資料)」を確認する 復習(90分):1回～8回の講義資料を確認する。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)		○	PC操作に慣れるため、授業の始まり10分間、タイピング練習を行う。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】	<ul style="list-style-type: none"> 課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 					

<p>【成績の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席と授業での取り組み(40%) ・各授業の演習課題提出(40%) ※演習課題は、提出するだけではなく提出物の内容を見て評価する。 ・小レポート(20%) ※レポート課題を2回提示する。 <p>合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用(無)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>講義プリントを配布。</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>大学、高等学校、専門学校の情報処理講義を経験</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>授業内容についての質問やコメントは講義開始前もしくは終了後、教室で行う。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>totakahashi@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。毎回、次回講義の「予習資料」を配布する。</p>

授業科目名	情報リテラシー	担当教員名	高野 卓美					
コード	22HUM103	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
インターネットの普及により社会にはさまざまな情報があふれている。その中からいかに信用性の高い、あるいは目的にかなう情報を取捨選択するか、情報をいかに安全に取り扱うか、または自分の情報を守るかなど、情報をとりまく社会の問題点について検討していく。また、現代社会ではSNSによって意図とせずに誤解を生んだり非難の対象となる例が多く見受けられ、加害者や被害者にならないための情報に関する基本的な知識(情報リテラシー)が必要とされている。本授業では現在の情報化社会に必要な情報リテラシーを学び、その知識を正しく使う方法について考える。また、パソコンを使用してデータサイエンスで学習した基礎知識をもとにExcelを使った統計技法、Wordでのレポート作成、PowerPointのスライドショーなどの操作を学ぶ。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 情報化社会に必要なPCの基本操作ができる。								○
2 Microsoft Wordを使用しレポート作成ができる。								○
3 Microsoft Power Pointを使用し図やグラフを取り込んだスライドショーの作成ができる。								○
4 Microsoft Excelの機能を使用しデータの基本統計量を調べる。								○
5 SNSのモラルやメールのマナーなど情報リテラシーを学び、自分の考えを述べる。								○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	Word① ・ページ番号、ヘッダーフッター ・段落、箇条書き、表、改ページ	高野	予習(40分): ①テキスト「第2章」のWordの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。					
2	Word② ・図形、変更履歴、コメント	高野	予習(40分): ①テキスト「第2章」のWordの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(30分) ①課題を行いGoogleクラスルームにアップする。					
3	PowerPoint① ・スライド挿入、スライド移動、削除 ・図解	高野	予習(40分): ①テキスト「第3章」のPowerPointの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。					
4	PowerPoint② ・グラフ ・背景色、アニメーション	高野	予習(40分): ①テキスト「第3章」のPowerPointの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(30分) ①課題を行いGoogleクラスルームにアップする。					
5	Excel① ・Excelの基本操作の復習(列幅変更、セルの罫線、四則演算、絶対参照、グラフなど)	高野	予習(40分): ①テキスト「第4章」のExcelの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(30分) ①課題プリントを作成し、Googleクラスルームにアップする。					
6	Excel② ・データベース機能(抽出、並べ替え)、重複データ削除、ピボットテーブル	高野	予習(40分): ①テキスト「第4章」のExcelの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(30分) ①Googleクラスルームで小テストを行う。					
7	Excel③ ・統計機能(分析ツール使用)	高野	予習(40分): ①テキスト「第4章」のExcelの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 復習(30分) ①Googleクラスルームで小テストを行う。					
8	インターネットと情報セキュリティ ・SNSモラルやメールのマナーについて知り、感想を発表する ・PDFファイルの使い方、作成方法、メールへの添付を学ぶ	高野	予習(40分): ①テキスト「第6章」のインターネットと情報セキュリティの該当箇所を読み、分からないことを抽出する。 ②配布された動画を見て感想をまとめる。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	・情報リテラシーの動画視聴(URL配布)				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
・フィードバックとして、課題を回収後、次の授業の中で解答の解説を行う。								
【成績の評価方法】								
課題:20% 小テスト:20% 定期試験:60% 合計:100%								
【ルーブリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
特になし								

<p>【教科書】</p> <p>医療・看護系のための情報リテラシー Office 2019対応版 東京図書</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>一般企業、省庁にてOffice製品を使用した書類作成、サポート業務、マニュアル作成などの実務経験を活かし、間違えやすいポイントや修正方法を含め簡単明瞭な指導を行う。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日 8:30～9:00 実習教室(事前に連絡を取る) ・学務課を通して対応する
<p>【教員連絡先】</p> <p>tkouno@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>教科書に沿った実習を行うため、毎回教科書は予習を行い持参してくる。</p>

授業科目名	看護学セミナー	担当教員名	山本 君子・宮本久雄・伊藤菜穂
コード	22JUN104	区分 (必修・選択)	必修
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
<p>本科目は、看護学を学ぶ上での導入科目として位置づいている。大学生に期待される基礎的な学びの態度・方法・知識などを修得し、高校生から大学生へのスムーズな移行を図る。具体的には、保健看護医療福祉の分野から、個人またはグループで関心のあるテーマを選び、関連した文献を読み、グループディスカッションなどを通し、考察を深め、プレゼンテーション、レポート作成を行う。レポート作成を通し、著作権や個人情報保護などの法令遵守の意識を持ち、人権、個人情報、著作権について説明できるようにする。また、研究についての倫理を学び、不正(捏造・改ざん・盗用)について説明できるようにする。</p> <p>学生主体型授業展開をし、自ら必要な知識を得て、各自の課題に気づきその課題に向けての解決策について体系的に考えることができるようにする。また、学ぶために必要な聴く・読む・書く・調べる・整理する・要約する・まとめる・表現する・伝える・考えるなどについて授業を通して学修する。さらに、卒業後のキャリア生活を見据え、期待される看護職とはどのような存在であるのかということ早期より考察する力をつける。</p>			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			
			ディプロマ・ポリシー (1) (2) (3) (4) (5)
1	キリスト教の愛の精神について自分の考えを説明できる。		○
2	大学での学修方法が説明できる。		○
3	教科書や文献の活用方法と授業中のノートの整理方法や工夫する方法を述べるができる。		○
4	図書館とデータベースを活用する方法および資料収集方法、基本的なルールについて説明できる。		○
5	科学的・論理的な視点でレポート作成できる。		○
6	社会人として求められるコミュニケーション能力について記述できる。		○
7	看護学を学ぶ意義を記述できる。		○
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1回 4月17日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス 生徒から学生への変換「大学で学ぶことの心構え」 大学で学修することの意義を学ぶ ・課題図書:自分が関心を持った「闘病記」を選択し読む(5月15日に持参する) 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):授業内容についてテキスト(大学生 学びのハンドブック)の該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、これからの自己の考えをまとめる。</p>
2回 4月17日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーについて ・グループワークの進め方 ・自己表現と対人コミュニケーション 他者紹介:学生間でインタビューを行いその内容をまとめ、他者に紹介を行う グループ内で感想を語りあい、他者紹介を振り返る 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):自己表現とコミュニケーションに必要な話の順番、話の間のとり方、傾聴などについての資料を検索し準備する。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
3回 4月24日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成時の書籍、資料、文献収集方法など(図書館) ・研究についての倫理の基礎(捏造・改ざん・盗用)について 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):事前に図書館を見学し、気づいた点や分からない点等をまとめる。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。課題図書の「闘病記」の検索等に取り組む。</p>
4回 4月24日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・本や資料を音読し、文章の読み方、言葉の調べ方など(図書館) 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):自分の関心・興味のある書籍や文献について説明できるように準備する。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
5回 5月1日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方の基本事項-① ・レポートとは何か ・レポートの形式や書き方の基本事項について 著作権や個人情報保護などの法令遵守、人権、個人情報、著作権について 【講義】 	担当:伊藤 (山本)	<p>予習(30分):授業内容についてテキスト(看護学生のための「読む力」「書く力」LESSONBOOK)の該当する箇所を熟読する。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
6回 5月1日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿っての、レポート作成について ・ゲストスピーカー(谷田部さん)闘病体験者との交流 【講義】 	担当:伊藤 (山本)	<p>予習(30分):闘病体験者への質問を考える。</p> <p>復習(15分):ゲストスピーカーの闘病体験者との交流を通して、自己の学びをまとめる。</p>
7回 5月15日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書の患者闘病記及びゲストスピーカー(谷田部さん)闘病体験者との交流を通しての学びをグループ間で話し合う。 ・グループ間で話し合った内容を発表できるようにまとめる。 	担当:山本	<p>予習(30分):課題図書「闘病記」のレポート(1000字以内)にまとめる。5月22日の発表会終了後、レポート提出する。</p> <p>復習(15分):グループ間で話し合った内容をパワーポイントで発表資料を準備する。</p>
8回 5月15日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書の患者闘病記及びゲストスピーカー(谷田部さん)闘病者との交流を通しての学びの発表原稿作成する。 	担当:山本	<p>予習(30分):グループ間で話し合った内容をパワーポイントで発表資料を作成する。</p> <p>復習(15分):発表会原稿を完成する。</p>
9回 5月18日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」 【講義】 	担当:宮本	<p>予習(30分):J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」について書籍や文献を読む。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
10回 5月18日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」 【講義】 	担当:宮本	<p>予習(30分):J. バニエと知的ハンディの人々の協団体「ラルシュ」の書籍や文献を読む。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
11回 5月22日(月) 13:00~14:10	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書の「闘病記」及びゲストスピーカー(谷田部さん)闘病者との交流を通しての学びの発表会 1グループ~6グループ(発表時間 7分程度 質疑応答5分程度) 	担当:山本	<p>予習(30分):課題図書「闘病記」と闘病者との交流での学びを発表するため準備。</p> <p>レポート及び発表資料提出する。</p> <p>復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。</p>
12回 5月22日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書の患者闘病記及びゲストスピーカー(谷田部さん)闘病者との交流を通しての学びの発表会 7グループ~13グループ(発表時間 7分程度 質疑応答5分程度) 	担当:山本	<p>予習(30分):課題図書「闘病記」と闘病者との交流での学びを発表するため準備。</p> <p>レポート及び発表資料提出する。</p> <p>復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。</p>
13回 5月29日(月) 13:00~14:10	<ul style="list-style-type: none"> ・看護と倫理-① 看護職の倫理綱領について 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):授業内容についてのテキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」を熟読し、本文①~⑩の中で、あなたが一番関心のある本文についてレポート(800~1000字以内)にまとめる。</p> <p>復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。</p>
14回 5月29日(月) 14:40~16:10	<ul style="list-style-type: none"> ・看護と倫理-② 各自がまとめてきた「看護職の倫理綱領」について、グループ間で発表し合う。 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):授業における自己の学びを他者に伝えるための発表資料を準備する。</p> <p>復習(15分):発表会を通して自己の学びをまとめる。</p>
15回 6月5日(月) 13:00~14:30	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活攻略マップを作成 グループ間で発表し合い、各自マップを作成する。 ・まとめ ・学びの発表 【講義】 	担当:山本	<p>予習(30分):これからの大学生活をどのように過ごすのかについてレポート(800~1000字以内)にまとめる。授業後レポート提出する。</p> <p>復習(15分):発表会を通して自己の学びをまとめる。</p> <p>★授業終了後課題:テーマ「看護学を学ぶ意義」サブテーマ「私の目指す看護師像」についてまとめる。</p> <p>1000~1500字程度のレポート作成。</p> <p>★提出日は授業終了1週間後(6月12日(月))17:00学務課窓口横 ポストに入れる。</p>

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	DVD活用 iPad
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
【課題のフィードバック】 リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。		
【成績の評価方法】 ・授業7回目・13回目・15回目レポート(30点)、発表会参加度(30点)総合評価する。 ・授業終了後課題レポート(40点) 評価基準は、「到達目標1～5」に示している「視点ならびに根拠の明確化の程度」で作成した評価表を用いて評価する。(定期試験は実施しない)		
【履修申請上の条件】 特になし		
【教科書】 1. 世界思想社編集部:大学生 学びのハンドブック[5訂版], 世界思想社, 2021. 2. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK, 日本看護協会出版, 2021. 3. 峰村淳子・石塚睦子編:よくわかる 看護職の倫理綱領 第3版, 照林社, 2022.		
【参考書】 1. 梶谷佳子、河原宣子、堀 妙子編集:看護学生のための よくわかる大学での学び方、金芳堂、2018。 2. メヂカルフレンド社編集部:New看護学生プレトレーニング 看護を学ぶ前にもう一度整理しておきたい基礎知識、メヂカルフレンド社、2019。 3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版、2020。		
【オープンな教育リソース】 公益社団法人日本看護協会ホームページ https://www.nurse.or.jp/episode/		
【担当教員の実務経験】 看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者、コミュニケーションの知識のある者、図書館の知識のある者を中心に、看護学セミナーを教授する。		
【オフィスアワー】 火・木の12:10～13:00		
【教員連絡先】 k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 この科目は、看護学の基礎的知識・技術・態度について学びます。また、クラスで協同するグループワークも取り入れていますので積極的な参加が必要です。 進捗は、1週間に2時間ずつ進みます。必ず、教科書や図書館の資料などを活用し、予習、復習を丁寧に行うことにより、看護学への学問的な関心が高まります。後期に位置する専門科目の履修に重要な科目です。		

授業科目名	キリスト教学	担当教員名	宮本 久雄					
コード	22JUN105	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
<p>看護に職業と人生の意義を学生一人ひとりが見出すことを授業の目的とする。 そのための最も基本的な自らの成熟を励まし促す方策として「他者論」を提示する。 すなわち、「他者論」とは、他者が誰であり、他者と出会い共に生きることの自覚の深まりである。 この「他者論」のテーマをめぐって、授業では物語的方法をとる。 そこでは他者と真に出会い、他者に供えつつ共に生きた人々の物語を紹介していきたい。 その人々は、宗教・科学・文学・死生学などの分野に生きた人々である。 例えば、知的ハンディを負った子供たちと生きたJ・バニエ、水俣病患者の苦姿を共苦した石牟礼道子、カルカッタで弱い病者などに献身したマザー・テレサ、 愛の福音を全人類に向けて語ったイエス・キリストです。 授業では、彼らの物語資料、テキスト、言葉そして彼らを具体的に示すDVDを用い、学生諸君に解り易いように解説します。 その授業内容を若者学生が、全心身に体現できるように。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 授業において「他者の物語」をよく聞き身につけ、他者の尊厳と権利を守る為奉仕するその意味を述べるができる。				○				
2 「他者の物語」とは、他者のために生きた人格(イエス、マザーテレサなど)の物語り、豊かな人間性の悟りであるそのことを述べるができる。				○				
3 「他者の物語」の傾聴は、自己が他と関わる人格の育みの根本となり、看護の根本となる具体的な内容を述べるができる。				○				
4 こうして地域社会のいろいろな人々と出会い、人々の心身共なる健康の育成に貢献する看護の三原則cure、care、他者のcarryの人間力を豊かにし、国際社会でも活躍できることを具体的に説明できる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1 4/12	授業の方法:物語り論と3つのC DVD「チェルノブイリ」(47分)をみる。 NP『チェルノブイリの祈り』	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
2 4/19	DVD「十一年後の安全」(79分)を見る。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
3 4/26	イエスのたとえ、たとえの文学ジャンル「善きサマリア人」(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
4 5/10	「善きサマリア人」(2)、「ぶどう園の主人と働き人」	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
5 5/17	「無慈悲な僕」(エンブレム)、レアクションペーパー	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
6 5/24	マザー・テレサの生涯と働き;DVDを見る。生涯の説明。 マザー・テレサのことば(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
7 6/7	マザー・テレサのことば(2) 日本のハンセン病患者の母、井深八重 DVD(46分)をみる。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					
8 6/14	井深八重の生涯	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		DVDなどの活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
レポートの書き方の説明と予行実習をする。 リアクション・ペーパーについてのコメントを行う。		
【成績の評価方法】		
<ul style="list-style-type: none"> ・前期のレポート(70%) ・リアクション・ペーパー(10%) ・授業中にテキストを読んでもらう時の態度など(20%)、他 合計100% 		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
【参考書】		
『関わるということ』 宮本(科目担当者)のキリスト教文化センター室にあるので、欲しい人には安価で配布する。(1000円)		
【オープンな教育リソース】		
10月21日、聖母祭でシンポジウムあり。(第1会議室、テーマ「いのち」) 14:00～16:00 間中先生、塚本先生の発表がある。出席乞う。		
【担当教員の実務経験】		
神学研究・実践者として、東大25年、上智大8年、本学5年目の実務経験を通し、各学生のレベルを見極めながら、特に看護師となって成長する上で物語論を工夫している。		
【オフィスアワー】		
木曜日9時半～12時10分		
【教員連絡先】		
電話・FAX 03(3463)2536		
【備考】		
授業後にレポート提出(1200字前後)。講義の中で自分に興味・関心のあるテーマを自由に選び、手書き原稿で提出する。		

授業科目名	純心平和学	担当教員名	大竹聖美・井上救・田中路						
コード	22JUN106	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択				
			○						
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。								
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】									
「マリア様、嫌なことは私が喜んで」という学園標語は、ひとりひとりが小さな平和を実現してゆくために、「他人の立場に立って愛の心で」行動するための指針となっている。「純心平和学」は、学園創設者であるSr.江角ヤスの平和への希求を一人ひとりが実現するための手がかりとなるものである。平和へのアプローチは多様で、さまざまな視点から平和について考え、取りくむことが可能である。本学の感性教育・純心教育の伝統に立って、音楽・美術・絵本を通して平和を実現する人になります。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 学生個々人が自分なりの興味・関心・問題意識から「平和」について積極的に考える糸口を発見し、自分なりの平和についてのアプローチを見出すことができるようになる。					○				
「マリア様、嫌なことは私が喜んで」を日々、積極的に、喜んで実践し、周囲の人々に喜んでもらえる＝自分の身近なところから平和を作り出していくことができる、すなわち、建学2の精神を日々実践できるようになる。					○				
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	オリエンテーション・授業ガイダンス:担当教員紹介、授業の概要、目標、進め方、評価方法等説明。グループ分け、テーマごとの授業外学修の説明	大竹 井上 田中	本日の配布物を参照し、授業で指示された課題に取り組む						
2	純心平和学:学園創設者であるSr.江角ヤスの平和への希求	大竹 井上 田中	第一回目の授業で配布された資料を参照し、授業で指示された課題に取り組む						
3	A班:絵本と平和①: 絵本とはなにか	A班:大竹	*配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリプロで絵本を50冊読む						
	B班:美術と平和① 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その1)	B班:井上	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること						
	C班:音楽と平和①: 讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム演奏体験	C班:田中	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる 【復習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する						
4	A班:絵本と平和②: 共感すること・分かち合うこと	A班:大竹	*授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する						
	B班:美術と平和② 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その2)	B班:井上	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること						
	C班:音楽と平和②: トーンチャイム演奏発表/リスニング・ウォーク	C班:田中	【予習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)						
5	A班:美術と平和①: 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その1)	A班:大竹	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること						
	B班:音楽と平和①: 讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム演奏体験	B班:井上	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる 【復習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する						
	C班:絵本と平和①: 絵本とはなにか	C班:田中	*配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリプロで絵本を50冊読む						
6	A班:美術と平和②: 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その2)	A班:大竹	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること						
	B班:音楽と平和②: トーンチャイム演奏発表/リスニング・ウォーク	B班:井上	【予習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)						
	C班:絵本と平和②: 共感すること・分かち合うこと	C班:田中	*授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する						

7	A班:音楽と平和①:讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム演奏体験	A班:大竹	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる 【復習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する
	B班:絵本と平和①:絵本とはなにか	B班:井上	*配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリプロで絵本を50冊読む
	C班:美術と平和① 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その1)	C班:田中	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること
8	A班:音楽と平和②:トーンチャイム演奏発表／リスニング・ウォーク	A班:大竹	【予習】トーンチャイムの楽譜を読み自分のタイミングを確認する 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)
	B班:絵本と平和②:共感すること・分かち合うこと	B班:井上	*授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する
	C班:美術と平和② 「平和を象徴する美術」 作品紹介と制作(その2)	C班:田中	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			*第3回～第8回の授業は、A・B・Cの三つの班に分かれて実施される。 *それぞれの班ごとに、「絵本と平和①②」「美術と平和①②」「音楽と平和①②」の授業を順番に受ける。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
*絵本・美術・音楽でそれぞれ課題が出され、フィードバックされる。フィードバックの方法は各担当教員から説明がある。			
【成績の評価方法】			
授業参加度(課題への取り組み): 30% プレゼンテーション: 30% 提出物: 40% 合計:100%			
【ルーブリック評価の活用(無)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
授業中に指示			
【参考書】			
授業中に指示			
【オープンな教育リソース】			
https://alc.chiba-u.jp/cl/ (千葉大学アカデミックリンクセンター<『児童文学事典』電子版>)			
【担当教員の実務経験】			
特になし			
【オフィスアワー】			
大竹:月・水・金の昼休み／井上:月・金の昼休み／田中:火12:10～12:50、金12:10～12:50			
【教員連絡先】			
大竹: kootake@g.t-junshin.ac.jp			
井上: sinoue@g.t-junshin.ac.jp			
田中: m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	心理学概論	担当教員名	小俣 沙知					
コード	22HDE108	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
この授業では、実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深める。心理学誕生と発展の歴史や研究方法に始まり、主に心理学の基礎となる領域について、これまでの研究成果を概観しながら紹介を行っていく。人間理解に繋がる手掛かりとなるよう考察する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 人間の心理と行動について学び、自己と他者の理解を深め、心理学の基礎的知識を用いて自己と他者について説明することができる。				○				
2 心とからだのつながり、ストレス、心身の発達について説明できる。				○				
3 心理学の基礎的知識を習得するとともに、人のこころの働きやより広い視野を持って人間を理解し、人間についての自分の考えを述べるることができる。				○				
4 人のこころの働きの基本と個人差を理解するとともに、対人支援について説明できる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション 「心理学」の目的について学ぶ	小俣	課題:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加する 予習:心理学について調べまとめておく(30分) 復習:心理学の学修の目的について理解し、対人支援に必要な心理的な視点について自分の考えをまとめる(90分)					
2	認知(環境の認知、感覚、知覚など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:人の感覚を通して知覚する認知についてまとめてくる(30分) 復習:認知について理解を深め、錯視・錯覚などの認知について自分の考えをまとめる(90分)					
3	感情(感情の仕組み、情動など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:人の感情について調べまとめておく(30分) 復習:感情の仕組みについて理解を深め、感情について自分の考えをまとめる(90分)					
4	感情(感情の仕組み、情動など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:欲求について調べまとめておく(30分) 復習:欲求の意味を理解し、欲求不満の対処について自分の考えをまとめる(90分)					
5	性格(性格の分類など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:自分らしさについて調べまとめておく(30分) 復習:性格の分類について理解を深め、性格の構成について自分の考えをまとめる(90分)					
6	性格(自己理解と他者理解、性格判断の偏見など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:他者を理解するときの手がかりを調べまとめておく(30分) 復習:性格診断から自己理解を深め、自分らしさがどのようなものか性格診断の偏見を踏まえて自分の考えをレポートにまとめる(90分)					
7	社会心理学(対人影響、同調など集団における個人への影響など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習:社会心理学について調べまとめておく(30分) 復習:集団における個人への影響の理解を深め、他者との連携場面での対人影響について自分の考えをまとめる(90分)					
8	レポート課題提出 確認テスト	小俣	予習:これまでの講義内容についてまとめておく(30分) 復習:講義で学んだことについて理解を深め、実践の場でどの様に活用できるかについて考えをまとめる(90分)					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
フィードバックとして、解答の解説を授業内に行う。								
【成績の評価方法】								
授業参加度:20% 確認テスト:40% 課題レポート:40%								
1. どの程度、積極的に授業時に参加したかを「授業参加度」として評価する。								
2. 確認テストでは各回で講義した内容に関しての全体の理解度を確認する。								
3. 課題レポートでは、対人支援における他者理解で心理学の基礎的な理論が応用できているかの視点を重視する。								
【ルーブリック評価の活用(無)】								

【履修申請上の条件】 特になし。
【教科書】 授業内で適宜、資料等を配布していく。
【参考書】 「看護学生のための心理学」(長田久雄著) 医学書院
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】 金曜日 午前
【教員連絡先】 somata@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	宗教学	担当教員名	徳田 安津樹				
コード	22JUN109	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
<p>今日、世界各地で多発している紛争や衝突には、「宗教」が重要な要素として関わっている。また、多文化社会化が進む現代にあつては、身近な関係性のなかでさえ、多様な宗教的背景を有する「他者」と関わることなしに生きていくことは想定しがたい。ここには、必ずしも一般に「宗教」と見なされていない慣習や信念も関係しており、とりわけ現代では、スピリチュアリティといった曖昧な領域が勢いを増しているなど、「宗教」がきわめて多面的な姿をとっている。この授業では、宗教伝統の教えや歴史的展開についての基本的な知識を獲得するとともに、「宗教学」の基本的な考え方を学びつつ、現代世界における「宗教」の様々な形態を捉える。また、「宗教」を暴力と寛容という観点から再考し、多様な宗教的背景を持つ「他者」との共生のあり方を検討する。「宗教」と「宗教学」を学ぶことを通じて、いかに「他者」と向き合うか、いかにすれば「他者」と対話的な関係を構築できるかを考えることを目指す。</p>							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー		
			①	②	③	④	⑤
1 様々な宗教伝統についての基礎知識を、世界各地で起きている出来事や身近な問題に適用し、説明することができる。					○		
2 宗教学の基本的な考え方を説明することができる。					○		
3 宗教や宗教学についての知識や考え方を踏まえながら、自分と異なる立場に立っている他者との関わり方について、自分の意見をまとめ、表明することができる。			○				
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	世界の様々な宗教 ・世界各地にはどのような「宗教」があるのかを概観し、その分類方法を学ぶとともに、われわれがどのようなものを「宗教」として捉えているのかを考察する。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):宗教について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。 復習(15分):事前に振り返った考え・印象と比較しながら、さまざまな宗教とその分類方法について考えをまとめる。				
2	宗教と宗教学 ・宗教概念論を通じて、現代の宗教学の基本的な考え方を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、宗教概念論について考えをまとめる。				
3	ユダヤ教とキリスト教 ・三つの一神教を整理しつつ、ユダヤ教とキリスト教の概要と基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。また、キリスト教について今まで学んだことや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、ユダヤ教・キリスト教について考えをまとめる。				
4	イスラーム(1)ムハンマドの生涯と教え ・ムハンマドの生涯を概観することを通じて、イスラームの成立と基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、イスラームについて考えをまとめる。				
5	イスラーム(2)イスラームの現在 ・多様化したイスラームの諸相と、現代イスラームに関連して生じている問題について学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、イスラームの現代的なあり方について考えをまとめる。				
6	ヒンドゥー教 ・ヒンドゥー教の概要と多様な実践を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、ヒンドゥー教について考えをまとめる。				
7	仏教(1)ブッダの生涯と教え ・ブッダの生涯を見ることを通じて、仏教の成立との基本的な教えを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、仏教について考えをまとめる。				
8	仏教(2)仏教の現在 ・仏教の歴史的展開と、現代の多様化した実践を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、仏教の現代的なあり方について考えをまとめる。				
9	儒教 ・儒教的な世界観や死生観を概観し、その日本に対する影響を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、儒教について考えをまとめる。				
10	神道 ・神道の概要を捉え、特に近現代における神道の位置と歴史的展開を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):神社や神道について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。 復習(15分):事前に振り返った考え・印象と比較しながら、神道について考えをまとめる。				

11	日本の新宗教 ・近現代の日本で成立した新宗教を概観し、その基本的な特徴を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):日本の新宗教について知っていることや、どんな考え・印象を持っているかを振り返っておく。 復習(15分):事前に振り返った考え・印象と比較しながら、日本の新宗教について考えをまとめる。	
12	現代世界における宗教の様々な形態 ・現代の世界と日本において宗教がどのような形で存在しているかを学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、現代における宗教の様々なあり方について考えをまとめる。	
13	宗教と暴力 ・宗教が暴力や戦争とどのように関係しているかを、各宗教伝統の教えや、具体的な事例を通して学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、宗教と暴力の問題について考えをまとめる。	
14	宗教と寛容 ・宗教的寛容に関する主要な概念と思想を学ぶ。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):事前に配布する資料を読み、疑問点をまとめておく。 復習(15分):事前に整理した疑問点を踏まえながら、宗教と寛容の問題について考えをまとめる。	
15	まとめ ・これまで宗教や宗教学について学んだことを振り返りつつ、他者といかに関わるかという問題について、自分の意見をまとめる。 ・プロジェクターを用いて授業を行う。	徳田	予習(30分):これまでの授業で学んだことを踏まえ、共生という問題について自分なりの意見を整理しておく。 復習(15分):事前に整理した意見と比較しながら、共生という問題について考えをまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)				特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
毎回提出してもらった課題・リアクションペーパーに対するフィードバックを、次回の講義で行う。				
【成績の評価方法】				
授業参加度(25%)、課題・リアクションペーパー(25%)、中間レポート(20%)、最終レポート(30%)。 課題は「到達目標」の1と2の達成度を、中間レポートおよび最終レポートは「到達目標」の3の達成度を、それぞれ評価基準とする。				
【ルーブリック評価の活用(無)】				
【履修申請上の条件】				
特になし。				
【教科書】				
指定しない。必要な資料やプリントは授業中に配布する。				
【参考書】				
島菌進、福嶋信吉、葛西賢太、藤原聖子編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年 『いま宗教に向き合う』シリーズ1~4巻、岩波書店、2018年 上記以外にも授業内で適宜紹介していく。				
【オープンな教育リソース】				
特になし。				
【担当教員の実務経験】				
特になし。				
【オフィスアワー】				
質問などがある場合は、授業後に受け付ける。				
【教員連絡先】				
atokuda@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし。				

授業科目名	叡智の探究	担当教員名	若松 功一郎					
コード	22JUN110	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
今から約2400年前、古代ギリシャの人々が、叡智(本当に正しいこと)や倫理(人間の生き方)について考えはじめたとき、哲学という営みが生まれました。それから400年後、キリスト教を信じた人々は、これらの哲学をさらに発展させ、キリスト教の教義を作りあげていきました。本講義では、古代から中世までの哲学の歴史を概観しながら、キリスト教の精神について理解を深めることを目指します。哲学的・キリスト教的な問いかけに受講生の皆さんが個人で向き合うだけでなく、グループワークなどを通じて、こうした事柄について自分の言葉で思考する練習をしてみましょう。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 キリスト教精神とはどのようなものかについて、自分の言葉で説明することができる。				○				
2 「善」、「愛」といった哲学的・キリスト教的な事柄に関する知見を、自らの看護に応用することができる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	イントロダクション	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
2	ソクラテスの問答法——対話を通じた他者理解——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
3	プラトンのイデア論——状況によらない「善」があるか——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
4	プラトンにおける愛——「善」への希求としての「愛」(エロース)——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
5	アリストテレスの政治学——社会の中の「善」——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
6	プロティノスの流出論——「善」はどこからくるのか——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
7	福音書における愛①「隣人になる」こと——善きサマリア人の喩——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
8	福音書における愛② 喩話の持つ機能——放蕩息子の喩——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
9	パウロにおける「愛」①——パウロの回心——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
10	パウロにおける「愛」②——十字架の神学——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
11	ヨハネにおける「愛」——「神は愛である」——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
12	アウグスティヌスの原罪論——自分だけの力で正しく生きられるのか——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
13	トマス・アクィナスにおける「愛」——認識できないものを愛することができるか——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
14	マイスター・エックハルトの「愛」——見知らぬ人を自分と同じように愛せるか——	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分)					
15	まとめと議論	若松						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート								
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義の際に行う。								
【成績の評価方法】								
毎回の課題(50%): Googleフォームを通じてオンラインで提出。 平常点(50%): グループワークへの積極的な参加等を評価する。 合計:100%								
【ルーブリック評価の活用(無)】								

【履修申請上の条件】 特になし。
【教科書】 特に指定しない。
【参考書】 『聖書』(新共同訳)を読み、キリスト教の世界に親しんでおくとよいでしょう。
【オープンな教育リソース】 特に指定しない。
【担当教員の実務経験】 特に指定しない。
【オフィスアワー】 質問は授業後に受けつけます。
【教員連絡先】 ko.wakamatsu@aoni.waseda.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	運動理論・実技	担当教員名	下川 学					
コード	22HUM111	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
				○	○			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
本科目では、基礎体力の向上に必要な栄養・食育教育を重視し、心身の健全な育成に生涯にわたって影響力を持つスポーツについて実践していく。また、リーダーシップなどの社会性を養うとともに、生涯スポーツ参加への重要性を学修する。講義は、運動理論として健康とスポーツについての関連について学修し、学びを深める。実技は、スポーツの技能、体力づくりの方法、ルール等の技術向上と体力の増進および健康づくりを体験的に学修する。履修者が多い場合の授業形態は、実技と課題を隔週ごとに行うこととする。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1	国民栄養の現状や国民健康・栄養調査等から健康問題についての解決策を述べるができる。					○		
2	体育方法学の面から運動処方、行動変容について説明できる。					○		
3	卓球の実践を通して心と体を一体としてとらえ、ルールが説明でき、技術が向上する。					○		
4	卓球の第1目標は、フォアハンドでラリーができる。第2目標は、バックハンドでラリーができる。第3目標は、ダブルスでゲームができる。					○		
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション (課題):健康観	下川	・シラバスを一読しておくこと。(60分) ・実技は第2体育館で行う。					
2	(理論)課題:健康や寿命に関すること① (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド	下川	・与えられた課題について確認しておくこと(60分) ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ストロークについて確認しておくこと(60分)					
3	(理論)課題:健康や寿命に関すること② (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド	下川	・与えられた課題について確認しておくこと(60分) ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ストロークについて確認しておくこと(60分)					
4	(理論)課題:国民健康・栄養調査①栄養に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的な動きについて復習しておくこと。(60分)					
5	(理論)課題:国民健康・栄養調査②栄養に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的な動きについて復習しておくこと。(60分)					
6	(理論)課題:国民健康・栄養調査③体型に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ、サービス	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと。(60分)					
7	(理論)課題:国民健康・栄養調査④体型に関すること (実技)卓球:フォアハンド、バックハンド、ツッツキ、サービス	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと。(60分)					
8	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑤運動に関すること (実技)卓球:ストローク、サービス、ラリー	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・シングルのルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。					
9	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑥運動に関すること (実技)卓球:ストローク、サービス、ラリー	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・シングルのルールについて予習(10分)、サービスの方法の復習(60分)。					
10	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑦睡眠に関すること (実技)卓球:ゲーム(シングル)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールについて予習しておくこと。(60分)					
11	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑧睡眠に関すること (実技)卓球:ゲーム(シングル)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールについて予習しておくこと。(60分)					
12	(理論)課題:運動処方① (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと。(60分)					
13	(理論)課題:運動処方② (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと。(60分)					
14	(理論)課題:行動変容① (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ペアとの連携について再確認をしておくこと。(60分)					
15	(理論)課題:行動変容② (実技)卓球:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について確認しておく。(60分) ・ペアとの連携について再確認をしておくこと。(60分)					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
次回の授業時に行う。		
【成績の評価方法】		
授業への取り組み(60%)、レポートや試験(40%)などにより総合的に評価する。		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
シラバスの内容は受講生のレベルに応じて対応する。実技は第2体育館で行い、課題は教室で行う。体調に留意して授業に臨むこと。		
【教科書】		
使用しない。必要に応じて資料を配付する。		
【参考書】		
使用しない。必要に応じて資料を配付する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
特になし		
【オフィスアワー】		
メールで対応する		
【教員連絡先】		
mshimokawa@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	人間とアート	担当教員名	井上 救				
コード	22ART112	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
アート(芸術)は、古来より人々の生活の中に係わりを持ち、常に寄り添いながら時代と共に形やその価値を変えて多様化している。本授業では、このようなアートの存在意義を踏まえ、アートの中の主に美術に関するいくつかの事例を考察、探求し、理解を深めて行く。さらに、美術の分野から、現代社会に深く浸透している「デザイン」についても実践などを通して、その役割や意義、活用方法を学ぶ。このような多様なアートの一端にふれることで人間にとっての感性的世界の重要性を体得できる。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 人類が生み出したさまざまなアートについて理解し、説明ができる					○		
2 自らの生活の中にアートを見出し、生かすことができる					○		
3 自ら表現することの喜びを見出し、また他者の表現を尊重することができる					○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	導入:授業ガイダンス 「アート」についての考察① アートとは何か	井上	予習(30分):シラバスを熟読してくる				
2	「アート」についての考察② アートの価値	井上	予習(30分):前回示した作家の作品を事前に学習してくる				
3	「アート」についての考察③ アートの中の美術	井上	予習(30分):第2回目の授業で示した作家の作品を事前に学習してくる				
4	「デッサン」の力 ・デッサン力について多角的に考える ・日本の特徴的な入試形態「石膏デッサン」	井上	予習(30分):第3回目の授業で示した事前課題を学習してくる				
5	「デザイン」の役割① ・文字(タイポグラフィ、ロゴタイプ)	井上	予習(30分):第4回目の授業で示した事前課題を学習してくる				
6	「デザイン」の役割② ・絵(ピクトグラム、ダイアグラム)	井上	予習(30分):第5回目の授業で示した事前課題を学習してくる				
7	「デザイン」の役割③ ・ユニバーサルデザイン	井上	予習(30分):第6回目の授業で示した事前課題を学習してくる				
8	「クリエイティブ」にももの考える(アートの発想力) ・紙を利用する	井上	予習(30分):第7回目の授業で示した事前課題を学習してくる				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			google Forms等の積極的利用				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション		○					
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
事前課題についての説明は毎回の授業で行う							
【成績の評価方法】							
授業参加度:20% 課題提出:60% 発表:20% 合計:100%							
【ルーブリック評価の活用(無)】							
1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。 2. 事前課題および授業課題の提出を「課題提出」として評価する。評価の内訳は、課題の主旨に即しているか、表現の工夫がみられるか等を基準として内容の総合評価とする。 3. 「発表」は内容だけでなく、発表に向かう姿勢も評価される。							
【履修申請上の条件】							
特になし							
【教科書】							
特になし							
【参考書】							
必要に応じ、授業内で紹介							
【オープンな教育リソース】							
特になし							
【担当教員の実務経験】							
グラフィックデザイナーとしての職務経験あり							
【オフィスアワー】							
未定							
【教員連絡先】							
sinoue@g.t-junshin.ac.jp							
【備考】							
特になし							

授業科目名	合唱音楽	担当教員名	田中路			
コード	22ART113	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
<input type="radio"/>	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
<input type="radio"/>	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
<input type="radio"/>	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
<input type="radio"/>	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
<input type="radio"/>	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
歌うという行為は、楽器を奏すること以上に人間の身体に直接結びつき、合唱することは、集団を作るという人間の最も基本的な行為に根差したものであるといえる。本授業は、他者の声に耳を傾け、響きを共有する意識を持った合唱表現の探求を目的とする。原則として毎回の授業では、合唱音楽の歴史を概観し(講義、約30分)、その上で楽曲の内容、響きを感じながら合唱表現を行う(演習、約60分)。尚、歌唱は講堂で行い、履修者をA・Bグループに分けてそれぞれ隔週で行う。歌唱演習を行わないグループは、他者の声に耳を傾けること、響きを共有することについての課題に取り組む。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 自分の声を見つめ、声楽的な発声法に習熟する。						○
2 他者の声に耳を傾け、他パートと協調しながら音楽表現を工夫することができる。						○ ○
3 合唱音楽の歴史、様式について理解し、歌唱楽曲の特徴を説明することができる。				○		
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	合唱の基礎 グレゴリオ聖歌(Ave Maria)、東京純心大学大学歌	田中	復習(30分):復習用参考音源を鑑賞する。			
2	ルネサンス・バロックの合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
3	古典派の合唱音楽	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
4	ロマン派の合唱音楽	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
5	近現代の合唱音楽・ポピュラー音楽	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
6	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の分析	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
7	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の歌唱	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。			
8	本授業のまとめ:ミニコンサート	田中	予習(60分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):ミニコンサートの反省を行う。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			Googleclassroomにおいて予習、復習資料を共有する。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク		○				
【課題のフィードバック】						
レポートにコメントを入れて返却する。						
【成績の評価方法】						
平常点(授業時間外の練習、授業態度、学修意欲)40%、レポート60%。採点基準は以下の通りである。課題:「自らの生活や専門分野での活動を音楽における響き合いと関連づけて記述することができる」、レポート:「課題作品について、作品の背景、作曲家の特徴について調べ、自らの言葉で解釈を述べるができる」						
【ルーブリック評価の活用(無)】						

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>楽譜が読めることが望ましいが、ピアノや音源で予習をする意欲のあるものはその限りではない。 本授業では声を合わせることを目的とするため、履修者は必ず予習として次回学習曲目の理解を深め、担当パートの練習を各自で行っておくこと。</p>
<p>【教科書】</p> <p>必要に応じて資料を用意する。</p>
<p>【参考書】</p> <p>皆川達夫著『合唱音楽の歴史』全音楽譜出版社、1965年。 岡田暁生著『西洋音楽史—「クラシックの黄昏」』中公新書、2005年。 菊池成孔・大谷能生著『憂鬱と官能を教えた学校【バークリー・メソッド】によって俯瞰される20世紀商業音楽史』上・下 河出文庫、2010年。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火曜及び金曜 12:10～12:50</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>講義は授業計画通り行う。演習は原則として授業計画に準ずるが、履修者の学修進度によりその限りではない。</p>

授業科目名	社会学概論	担当教員名	池本 紗良					
コード	22HUM116	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
社会学は「社会」を対象とした学問であり、いずれのテーマも身近で興味深い。しかし、「身近」であるため、客観的に学ぶことは難しい。本講義では、社会学の基礎的な概念や理論をふまえながら、現代社会の諸相を客観的に学ぶことを目指す。具体的には、社会学の成立・理論から、コミュニケーション、医療・ケア、ライフコース、社会調査、階層、労働・産業、家族、地域・都市など、受講生にとって身近なトピックを扱い、「社会とは何か」、「社会学とは何か」を考える。また、今日的な医療・看護の諸問題にも適宜触れながら、医療・看護の従事者にとって不可欠な思考法や教養を身に付け、ひいては日常を社会や歴史と結び付けて考える「社会学的想像力」を身に付けることを目的とする。 なお、本講義は、受講生のアクティブ・ラーニングを促すため、受講生同士のディスカッションや個人ワークを重視する。主体性および思考力の涵養のためにも、積極的な授業参加が求められる。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 社会の成り立ちを理解し、身近な出来事や人間関係等を社会や歴史と結びつけて説明できる。				○				○
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。								○
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参加・応用できる。					○			○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	社会学とは何か ・社会学の成立と展開 ・さまざまな専攻分野	池本	予習(60分):社会学概説書を読んでおく。 課題(60分):興味のある専攻分野の関連書籍または論文を講読する。					
2	社会学の根本命題 ・社会学の基礎概念 ・さまざまな集団とその性質	池本	予習(60分):自身が所属している集団を列挙し、それぞれ自分にとってどのような位置づけかを考えておく。 課題(60分):社会学の基礎概念について復習する。					
3	方法論的集合主義 ・「自殺」を社会学する ・社会構造とはなにか	池本	予習(60分):「自殺」問題がどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「自殺」を「社会構造」の観点から説明できるようにする。					
4	方法論的個人主義 ・「美容整形」を考える ・相互行為とはなにか	池本	予習(60分):「美容整形」が社会でどのように語られているのかを調べておく。 課題(60分):「美容整形」を「相互行為」の観点から説明できるようにする。					
5	社会化・ライフコース ・社会化とはなにか ・ライフコースの概念	池本	予習(60分):各ライフステージ(児童期、成人期、老年期など)がどのような段階なのかを考えておく。 課題(60分):「社会化」について説明できるように復習する。					
6	教育(1) ・学校の社会的機能	池本	予習(60分):学校教育でどのような社会化があったのかを振り返ってみる。 課題(60分):「再生産」について説明できるように復習する。					
7	教育(2) ・社会階層、格差と平等 ・世代間移動と再生産	池本	予習(60分):身近にある格差を列挙し、それらはなぜ生じていて、是正されないのかを検討しておく。 課題(60分):学校の社会的機能と合わせて教育格差を考える。					
8	労働と経済生活(1) ・疎外 ・労働と産業	池本	予習(60分):「働き方改革」の内容について調べておく。 課題(60分):今日的な「労災」にどのようなものがあるか調べる。					
9	労働と経済生活(2) ・感情労働 ・仕事と生活の調和	池本	予習(60分):「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」について説明できるように調べておく。 課題(60分):ジェンダーの観点からWLBを説明できるように復習する。					
10	医療をめぐる社会学的視座(1) ・健康と病気	池本	予習(60分):健康リスクを抱える人びとは、どのような属性の人が多くか、研究論文や調査報告書等で調べておく。 課題(60分):貧困と健康の関係について説明できるように復習する。					
11	医療をめぐる社会学的視座(2) ・障害	池本	予習(60分):「障害」の捉え方について調べておく。 課題(60分):医学モデルと社会モデルの違いについて説明できるようにする。					
12	政治と統治(1) ・ナショナリズムとはなにか ・愛国心と国家	池本	予習(60分):「国家」の枠組みがどの場面で機能しているのかを考えてみる。 課題(60分):「国家」の枠組みがどのような機能を持っているのかを復習する。					
13	政治と統治(2) ・移民問題	池本	予習(60分):現代日本において「移民」がどのように扱われているのかを調べる。 課題(60分):なぜ「移民」が日本では受け入れられないのかを考える。					
14	社会調査の理論と方法(1) ・社会調査の考え方 ・量的調査	池本	予習(60分):これまで自身が回答したことのある「アンケート」の内容を思い出し、整理しておく。 課題(60分):量的調査の特徴を整理しておく。					
15	社会調査の理論と方法(2) ・質的調査 ・社会調査の倫理	池本	予習(60分):量的調査と比較して、質的調査(例、インタビュー調査)の特徴を考えておく。 課題(60分):量的・質的調査のメリット、デメリットを整理する。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・個人へのフィードバックは、課題コメントやGoogleClassroomを 		
【成績の評価方法】		
<p>小テスト:30% 定期試験:70% 合計:100%</p> <p>「小テスト」は授業後のコメントシートに基づいて評価する。 ・定期試験は期末レポートで評価する。期末レポートは提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。</p>		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
なし		
【教科書】		
なし		
【参考書】		
『社会学で描く現代社会のスケッチ』(友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編、みらい、2019年) 『社会学入門』(盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功二編、ミネルヴァ書房、2017年) 『社会学のつばさ——医療・看護・福祉を学ぶ人のために』(早坂裕子・広井良典・天田城介編、ミネルヴァ書房、2010年)		
【オープンな教育リソース】		
なし		
【担当教員の実務経験】		
なし		
【オフィスアワー】		
なし。メールで対応する。		
【教員連絡先】		
sikemoto@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。翌週分のテキストを事前に配布する。		

授業科目名	家族社会学	担当教員名	池本 紗良			
コード	22HUM117	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	<p>「家族」は、この100年で見て大きく変動しており、現代では多様化が急速に進行している。それゆえ、「家族とはなにか」、「今後、家族はどのように変化するか」といった問いに対し、明確に答えることは難しい。そこで本講義では、ライフコースの視点から家族を学び、各ライフステージにおける家族の諸相をみていく。具体的には、家族社会学の基本概念と日本社会における家族変動、ライフコースの基本概念を学んだうえで、各ライフステージ(児童期、青年期、成人期、壮年期、高齢期)および移行期における家族について、テキストならびに映像資料等を用いて学んでいく。</p> <p>なお、本講義は、受講生のアクティブ・ラーニングを促すため、受講生同士のディスカッションや個人ワークを重視する。主体性および思考力の涵養のためにも、積極的な授業参加が求められる。</p>					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
				①	②	③
1 家族の成立・変動過程を理解し、現代家族が抱える諸問題について関心を持てるようになる。				○		○
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。						○
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参加・応用できる。					○	○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	「家族」とは何か ・家族の定義、家族・親族・世帯 ・家族の多様なかたち	池本	予習(60分):テキストのなかで関心のある章を読み、家族の定義について考える。 課題(60分):自身の親族ユニバーズを図示しておく。			
2	近代家族の誕生 ・家族をとらえる基本概念 ・伝統家族から近代家族へ	池本	予習(60分):テキスト第1章を読み、家族変動について理解する。 課題(60分):伝統家族と近代家族の違いについて説明できるよう復習する。			
3	恋愛と結婚(1) ・未婚化・晩婚化 ・ロマンティックラブイデオロギー	池本	予習(60分):テキスト第2章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):ロマンティックラブイデオロギーの成立と今後の展望について説明できるよう復習する。			
4	恋愛と結婚(2) ・離婚と再婚の動向 ・ステップファミリー	池本	予習(60分):テキスト第6章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):離婚を経験した子どもたちの適応課題と中長期的影響を検討し、復習する。			
5	子ども・若者と家族 ・現代日本における家庭教育 ・社会階層と教育	池本	予習(60分):教育格差について調べておく。 課題(60分):なぜ教育格差が生じるのか、説明できるようにする。			
6	仕事と家族 ・女性活躍とはなにか ・ワークライフバランス	池本	予習(60分):テキスト第7章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):女性の職業キャリア、「M字型就労」について説明できるよう復習する。			
7	介護と家族(1) ・介護保険制度	池本	予習(60分):高齢期の家族が抱える問題を調べておく。 課題(60分):医療・看護職として、高齢者が抱える問題の解決にむけてどのようにかかわることができるか考える。			
8	介護と家族(2) ・家族介護の現状 ・介護の社会化、再家族化	池本	予習(60分):テキスト第4章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):医療・看護職として、家族介護問題の解決にむけてどのようにかかわることができるか考える。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)		○				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】	<p>・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。</p> <p>・返却課題やGoogleClassroomを活用して、個人にもフィードバックする。</p>					
【成績の評価方法】	<p>小テスト:30% 定期試験:70% 合計:100%</p> <p>・「小テスト」は授業後のコメントシートに基づいて評価する。 ・定期試験は期末レポートを以て評価する。期末レポートは提示した条件をすべて満たしていることを前提に内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。</p>					
【ルーブリック評価の活用(無)】						

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>なし</p>
<p>【教科書】</p> <p>なし</p>
<p>【参考書】</p> <p>『入門家族社会学』(永田夏来・松木洋人編、新泉社、2017年) 『よくわかる家族社会学』(西野理子・米村千代編、ミネルヴァ書房、2019年) 『現代家族を読み解く12章』(日本家政学会編、丸善出版、2018年)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>なし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>なし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>なし。メールで対応する。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>sikemoto@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。</p>

授業科目名	日本国憲法	担当教員名	石黒 麻利子			
コード	22HUM118	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本講義では、憲法の歴史、憲法の存在意義、憲法と法律の違い、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違、日本国憲法が公布されるまでの経緯、日本国憲法の基本原理(国民主権、基本的人権の尊重、平和主義)、人権各論、新しい人権、人権を巡る諸問題、統治機構の制度的特徴と国際比較、憲法改正の手續きと憲法改正に関する論点を学び、看護専門職としてなぜ日本国憲法を学ぶ必要があるのかを理解し、人権に配慮した法的思考方法を会得する。また、日本国憲法が、個々人の社会生活、医療の現場、看護を实践する上でどのような役割を果たしているのかについて具体的な事例研究をとおして考察する。さらに、看護専門職として臨床で遭遇する人権問題について検討し、紛争防止・解決策を会得する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】

	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容と特徴を説明できる	○	○			
2 日本国憲法の定める国民主権の意義・内容を説明できる	○	○			
3 日本国憲法の定める基本的人権の尊重の意義・内容を説明できる	○	○			
4 日本国憲法の定める平和主義について意義・内容を説明できる	○	○			
5 日本国憲法の定める統治機構の制度的特徴を説明できる	○	○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容	石黒	予習(60分)六法とは何か調べる、日本国憲法を読んでおく 復習(60分)課題レポートの復習を行う
2	憲法の歴史、日本国憲法誕生の経緯	石黒	予習(60分)ポケット六法の大日本帝国憲法と日本国憲法を読み比べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
3	日本国憲法の三大原理、個人の尊重、法の支配	石黒	予習(60分)日本国憲法の三大原理とは何か調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
4	平和主義 憲法9条	石黒	予習(60分)個別的自衛権と集団的自衛権の意味、違いを調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
5	人権(1)総論	石黒	予習(60分)ポケット六法の日本国憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習(60分)課題レポートの復習を行う
6	人権(2)精神的自由	石黒	予習(60分)精神的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
7	人権(3)プライバシー権、自己決定権と医療	石黒	予習(60分)プライバシー権とは何か、医師の説明義務と自己決定権の関係を調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
8	人権(4)刑事手続きにおける権利	石黒	予習(60分)罪刑法定主義とは何かを調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
9	人権(5)経済的自由	石黒	予習(60分)経済的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
10	統治機構(1)権力分立の原理	石黒	予習(60分)権力分立とは何か、なぜ必要か調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
11	統治機構(2)国会	石黒	予習(60分)ポケット六法の日本国憲法第四章国会を読んでおく 復習(60分)課題レポートの復習を行う
12	統治機構(3)内閣	石黒	予習(60分)ポケット六法の日本国憲法第五章内閣を読んでおく 復習(60分)課題レポートの復習を行う
13	統治機構(4)裁判所	石黒	予習(60分)ポケット六法の日本国憲法第6章司法を読んでおく 復習(60分)課題レポートの復習を行う
14	統治機構(5)地方自治、憲法改正	石黒	予習(60分)憲法改正がなぜ問題になるのか調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う
15	日本国憲法と医療の関係	石黒	予習(60分)日本国憲法が医療にどのように関係するのか調べる 復習(60分)課題レポートの復習を行う

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	パワーポイントを使用。講義内容を踏まえた課題を与えレポートを作成させる。次の講義で講評し、多様な考え方があることを理解させ、さらに問題意識を深める。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。フィードバックとして、課題レポートについて講評を加える。		
【成績の評価方法】		
定期試験70%、課題レポート20%、授業参加度10%で総合評価する 定期試験はポケット六法持ち込み可(但し、書き込み、付箋があるときは持ち込み不可) 【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ポケット六法令和5年版 有斐閣		
【参考書】		
特になし		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
東京三弁護士会(東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会)医療ADRあっせん仲裁人、東京地方裁判所民事調停委員、東京地方裁判所調停協会幹事、公益財団法人日弁連交通事故相談センター東京支部委員、同示談あっせん・あっせん人、損害保険料率算出機構自賠責保険(共済)審査会委員、第二東京弁護士会仲裁センター運営委員会委員、東京三弁護士会医療関係事件検討協議会委員、文部科学省COE研究員		
【オフィスアワー】		
講義実施日14:40~16:10		
【教員連絡先】		
mishiguro@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
パワーポイント原稿の撮影禁止、私語禁止、課題レポートは用紙縦置き・横書き・右上に学籍番号・氏名、違反者は減点		

授業科目名	文章表現法	担当教員名	村松 香代子					
コード	22HUM119	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
現代はSNSの発達により、話し言葉と書き言葉の区別がつけられない若者が増えている。書き言葉により、きちんとした文章を書く訓練は必須である。本授業では、文章で表現するための基礎的な技術と方法を習得することを目的とする。自分の「考え」を他者に的確に伝える能力は、グループワーク、発表、レポート、卒業研究等に必須である。言葉を効果的に働かせ、相手に「伝える」言葉のあり方を考える。また、日本語の表現法の視点からも他者に的確に要点が伝わる表現方法を学んでいく。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
1 テキスト批評や参考文献の扱い等、基礎的な形式を踏まえて、問題提起+解答+解答を導く議論が成り立っているレポートが書ける。				①	②	③	④	⑤
2 理解や納得させるのみならず、共感・共鳴を読みを呼び、心に届くオリジナルな文章が書けるようになる。				○	○	○	○	○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	まずはウォーミングアップ。自己紹介の仕方を考え、実際に自己紹介をしてみよう。	村松	実習や履歴書等の場で必要となる自己紹介について、心がけたいことを文章上で実践して身につけていく。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
2	「レポートの大原則」大学で学ぶための基礎的技術であるレポート・論文の書き方を学んでいこう。	村松	予習(60分):「私の名前の由来・誕生エピソード」という共通の題名で20分程度で書ける文章にまとめる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
3	「伝わり方のレベル」どうしたら相手に伝わる文章を書くことができるか。自分の意見を育てよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「私にとっての不思議な話」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
4	「考えたつもりから脱却しよう」視点を変えてみよう。連想と深化で、考えを適切に進めよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「私にとっての不思議な出来事」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
5	「描写とは」自分が知見した物事を正確に伝えること。看護日誌に必要な描写を学んでみよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「一瞬の隣人」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
6	「論理的な文章」論理的とはどういうことか。論理を作るポイントとなる3つの方法を学んでいく。	村松	予習(60分):エッセイ題名「青年の主張—私、言いたいことがあるんです—」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
7	「参考文献」参考文献とは何のためのものなのか。参考文献をどう使うのか、どのように書くのか学んでいこう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「こころのワクチン、わたしのごはん」を執筆するための構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
8	「書評レポート」読書感想文との違い。書評レポートに必要な構成を失敗例から学んでいこう。	村松	予習(60分):この授業のまとめ。 復習(30分):授業内容を各自見返す。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	授業の後半に毎回「柔軟体操」として、こちらが指定したテーマで短い文章をノートの端に書いてもらう。起承転結は構わない。優劣も問わない。20分程度でまとめる要領が良い。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク			○					
【課題のフィードバック】								
課題のフィードバックは翌週の講義で行う。毎回のテーマで書いた文章について、講評を行い。各受講生に適した指導を行う。								
【成績の評価方法】								
授業時間内に示すテーマに基づいた短文の提出60%(出来不出来は問わない)と積極的な発言30%、その他10%総合的に評価する。								
【ルーブリック評価:(無)】								
【履修申請上の条件】								
特になし								
【教科書】								
授業前に適宜プリントを配布する								
【参考書】								
特になし								
【オープンな教育リソース】								
特になし								
【担当教員の実務経験】								
小説・エッセイの執筆。翻訳。								
【オフィスアワー】								
出校曜日。								
【教員連絡先】								
kmuramatsu@g.t-junshin.ac.jp								
【備考】								
特になし								

授業科目名	Humanities Basics	担当教員名	田尻 真理子			
コード	22HUM120	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】 「私・今・ここ から 共同体・歴史・世界へ」 人文諸学科のうち、ことに歴史、地理、古典に関する基礎を、日常生活の諸問題を契機として学ぶ。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
1 大学生に求められる人文諸学の基礎知識＝教養が身につく。					①	②
					③	④
					⑤	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション、授業概要、評価方法、情報カード作成方法の復習 授業の進め方(自由連想法)(田尻)	田尻	【予習】(30分):シラバスを熟読し何を習得するのかを確認する。 【復習】(0分):フロイト、精神分析、無意識、B6 (授業時の作成方法を使って)			
2	【イヒ(飯)】「ごはん」の特異性—ユネスコ無形文化遺産としての和食—倭食—稲作 伝来と照葉樹文化—治水と弘法大師—仏教(田尻)	田尻	【予習】『魏志倭人伝』、『古事記』、『日本書紀』、ユネスコ B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)			
3	【カミ(神)】日本の「カミ」—アニミズム的世界観—アニミズムと「かわいい」文化—神 道と国家宗教— 一神教と多神教—世界の四大宗教(田尻)	田尻	【予習】神仏習合、本地垂迹(説)、廃仏毀釈、クールジャパン B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6 カードに纏める(120分)			
4	【カミ(上)】二院制(上院/下院、衆/参議院)—上下関係と敬語—東西問題と南北 問題(田尻)	田尻	【予習】ペレストロイカ、連帯、ベルリンの壁、テロリズム B6 【復習】授業時指示されたキーワードをB6カードに纏める(120分)			
5	【ウエ(上)・シタ(下)】二つの国家—上下逆転・「さかさまの世界」—コペルニクスと コペルニクスの転回—トリックスター —ユングと元型(田尻)	田尻	【予習】南北朝、朝鮮戦争、高度経済成長、毛沢東、蒋介石、コペルニクス、カーニバルB6 【復習】同上 (120分)			
6	【シタ(舌)】宗教と食事—戦争と平和—『美味礼賛』—『饗宴』—エロス—アガペー —共食(田尻)	田尻	【予習】カースト制度、ハラル、過ぎ越し、ラマダーン、ウルのスタンダード、魯山人、プラトン 【復習】同上(120分)			
7	【イス(椅子)】言語の恣意性—構造主義と脱構築— 一つと三つのイス—反/ミメー シス—イデア論とプラトン—経験論とアリストテレス(田尻)	田尻	【予習】コンセプチュアルアート、アリストテレス、第六回授業時配布資料(プラトン『国家』、「洞窟の比喩」) 熟読と図解化 【復習】授業時指示されたキーワード B6 (120分)			
8	【ガス(瓦斯)】『てんしき』—『ガルガンチュアとパンタグリユエル物語』—風刺の機能 —『デカメロン』—ベスト—サリン—チクロンB—ホロコースト(田尻)	田尻	【予習】ラブレール、ボッカチオ、地下鉄サリン事件、ヒトラー、ナチス B6 【復習】授業時指示されたキーワード B6 (120分)			
9	【ガイ(害)】3.11—鴨長明—リスボン地震と西欧近代—日本の近代国家形成— modernの意義と時間意識—3.11とmodernismの終焉(田尻)	田尻	【予習】『方丈記』、吉田兼好、『徒然草』、清少納言、『枕草子』、随筆、終末論 【復習】授業時指示されたキーワード B6 (120分)			
10	【世界戦略】アメリカの「ソフトパワー」をキーワードとして現代史を考える(増田)	増田	池内恵の論文「必須教養は『アメリカの世界戦略と現代史』」を熟読してくる。(授業外学修時間4時間)			
11	【移民社会】「人の移動」をキーワードとしてアメリカ社会の多様性を考察する(増田)	増田	テキストの I 「アメリカとはそもそもどんな国か」を熟読してくる。(授業外学修時間4時間)			
12	【田園国家】「サラダボウル」「メルティングポット」をキーワードとしてアメリカの国土に ついて(増田)	増田	テキストの II 「アメリカ的とはどういうことか」を熟読してくる。(授業外学修時間4時間)			
13	【国際通貨】「ドル」をキーワードとしてアメリカの政治・経済を考察する(増田)	増田	テキストの III 「私たちにとってアメリカとは何か」を熟読してくる。(授業外学修時間4時間)			
14	【宗教・思想】「ピューリタン」「プラグマティズム」をキーワードとしてアメリカ市民の発 想を考察する(増田)	増田	松尾式之著「人々の根幹 宗教・思想」「アメリカ市民の発想(常識)」「アメリカの歴史」を熟読してくる。 (授業外学修時間4時間)			
15	総括、質疑応答、レポート作成時の諸注意(増田・田尻)	増田・田尻	第1回から第14回までの講義内容についての疑問点、質問等を纏めてくる。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			g-suitのクラスルームを利用して資料配布			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート		○				
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】 一回から九回までの授業外学修は予習・復習ともに指示されたキーワードをB6カードに纏める。使用するリファレンスブックは主として参考書①～⑨を用いる(授業内に指示)(120は、【予習】【復習】を合わせた時間)。 その成果を、毎授業冒頭(ないし最後)に、小テストで確認する。小テストに添削および全体に向けてのフィードバック。						
【成績の評価方法】 授業内小テスト30% 授業時の発言・質問等積極性20% 期末レポート50%課題:○○% 合計:100%						
【ルーブリック評価の活用(無)】						

【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 『アメリカ』 橋爪大三郎・大澤真幸、河出新書
【参考書】 授業内で指示
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】
【教員連絡先】 田尻:mtajiri@g.t-junshin.ac.jp / 増田:hmasuda@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 二回から九回の授業外学修で使用する参考図書は以下の通り(いずれも図書館2回レファレンスブック(参考図書)コーナーにある。 大きな時事問題、事件、自然災害等発生の折には内容に変更が生じる場合もある。 一回から九回で配布されるハンドアウトは教科書にかわるものであるため、大切に保管すること。紛失した場合等は友人の物を複写するなどして対処すること。

授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子 毅				
コード	22HUM121	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
本講義は文化人類学の初学者に対しなされるものである。文化という言葉を聞くとなんかイメージするだろうか。学生やサラリーマンに問えば、武士、忍者、パワースポットとしての神社、アニメの聖地巡礼などと答える者が多い。だが、自分たちが何気なく日頃行っていることうそのものが「文化」であると理解する者は少ない。そこで本講義では誰もが暮らしの中で体験してきた各種のお話、およびその中で語られてきた地域の「祭り」や成人式などをはじめとする「通過儀礼」といった宗教行事などを中心に説明を試みることにしたい。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 無理な理論の運用を目指すのではなく、何気ない日常的なシーンに着目出来るようにする。					○		
2 1を通して、他者との相互理解の回路を開く上で不可欠となる「知」の存在に配慮することが出来るようになる。					○		
3 2を通して今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上でのリテラシー能力を獲得させる。					○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	プロローグ:文化はどこにあるか	金子毅	予習(30分)、復習(45分)::プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義)				
2	人類学の歴史	金子毅	予習(30分):復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学)				
3	文化の調べ方	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント3(調査法)				
4	様々なお話 その1	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話)				
5	様々なお話 その2	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説)				
6	様々なお話 その3	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント6(神話と儀礼)				
7	お話は語る その1	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪)				
8	お話は語る その2	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント8(予兆と禁忌)				
9	お話は語る その3	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント9(占いと呪術)				
10	お話は語る その4	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント10(妖術と邪視)				
11	お話は語る その5	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント11(年中行事と祭り)				
12	お話は語る その6	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物)				
13	お話は語る その7	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三)				
14	お話は語る その8	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦)				
15	お話は語る その9	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストを実施する予定である。							
【成績の評価方法】							
課題レポート70%、小テスト20%、これに授業への参加度10%を加えた総合的な評価を行なう。							
【ルーブリック評価の活用(無)】							
【履修申請上の条件】							
文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。							
【教科書】							
使用しません。代りに毎時プリントを配布する							

【参考書】 受講時に随時指示します。
【オープンな教育リソース】 特にありません。
【担当教員の実務経験】 特にありません。
【オフィスアワー】 質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。
【教員連絡先】 tkaneko@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	原口 大平			
コード	22HUM122	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
<p>コミュニケーション不足による誤解が重大なトラブルや問題に発展することもある。本科目では、言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの理論を学び、敬語表現や挨拶、感謝などが、より良いコミュニケーションに直結することを知る。また「傾聴」「説得」「感情表現」など、人間関係を豊かにするヒントとなるコミュニケーションの方策を学ぶ。さらに認知行動療法等の心理学的要素(ABC理論・自己肯定・アサーション)も取り入れ、自らの心を守る考え方を構築し、生活の中でも実践する。そして理論だけでなくワークや発表も組み込み、自己表現やチームワークを体感することでコミュニケーションの理解を深める。これにより、看護実践に必要なコミュニケーション技術に関する基本的な理論と方法を修得し、看護を効果的に提供する能力を養うことを目標とする。コミュニケーション論は、言語学、心理学、生理学などが関わる学際的な学問であるため、今後の学びに活かしていく。</p>						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 礼儀を重んじ、敬語に慣れ、よりよい人間関係を築ける。				○		
2 建設的かつ解りやすく、言いたい事を伝えることが出来る。				○		
3 自己概念を持ち、自己紹介が出来る。				○		
4 自己理解から他者理解を深め、円滑にコミュニケーションがとれる。				○		
5 客観的かつ心理学的にも事象を捉え、自他ともに良好な関係を築ける。				○		
【授業計画】						
	授業外計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	コミュニケーション概要・提出小レポートの書き方 1. コミュニケーションとは何か・敬語のおさらい 2. なぜコミュニケーションが必要なのか 3. 理論と感情論について知る (以降、授業資料はパワーポイントで作成したものを活用)	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):講義の内容を各自見返す 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
2	コミュニケーションのルール違反について 1. ルール違反に合った時の考え方(ABC理論と自己肯定) 自己概念・自己理解 1. 自己理解を深める 2. ディスカッションを通して自分と他人の違いを知る	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施予習 復習(60分):ディスカッションの感想を提出。 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
3	社会スキルとアサーション 1. 様々な社会スキルの事例 2. アサーションについて	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):アサーションチェックで自分の特徴を知る。 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
4	考えを整理して伝える 1. 伝え方を考える(PREP法) 2. 構成を順序立てて話をする(グループ内でチェックワーク)	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):PREP法を実践してみて、課題点や注意点を探る。 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
5	社会スキルとアサーションを鑑みたディスカッション(ワーク)→第2回のテーマを反映予定 1. 各チーム毎に言語、非言語を意識したコミュニケーションを図る 2. 自ら情報を発信し、かつ相手を承認しながらテーマについての見解を出す	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):今日のディスカッションの内容を解りやすくまとめて結果を提出。 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
6	【チームによるプレゼン】の為のディスカッション(ワーク) 1. 次回のプレゼン内容について、アイデアを持ち寄る 2. 持ち寄ったアイデアをひとつに絞る。次回チームで発表する。	原口	予習(30分):敬語ドリルを実施 復習(60分):次回の発表に向けて内容、構成、発表順、担当者を決めて練習しておく。 課題(120分):授業中に課題を提示する。			
7・8	【チームによるプレゼン】(発表当日のみ2コマ連続授業) 1. チーム毎のプレゼンテーション 2. ディスカッションし、話をまとめ、聴衆に伝える	原口	予習(60分):今日のプレゼン内容を確認する。 復習(120分):グループの発表が良かったかをチェックし提出。 課題(240分):授業中に課題を発表する。			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート		○	予習では「敬語ドリル」を実施。冒頭で答え合わせと解説をしてから講義に入ります。基本的にディスカッションやプレゼンを含め、対話は敬語とします。また授業では動画を取り入れて学生の理解を深めます。最終日にはグループ発表を実施。課題作成時にもコミュニケーションが必要となります。			
④:グループワーク		○				
⑤:プレゼンテーション		○				
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
授業内ディスカッション終了後に、取り組みへの感想まとめを含めて提出						
【成績の評価方法】						
授業への取り組み・小レポート:(40%) グループ発表会参加度:(30%) 定期試験:(30%) 総合評価する。						
【ルーブリック評価の活用(無)】						

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>「大学1年生からのコミュニケーション入門」 著者:中野美香 発行所:ナカニシヤ出版 「社会人の敬語ドリル」 編者:語研編集部 発行所:株式会社 語研</p>
<p>【参考書】</p> <p>特になし</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>ナレーター・アナウンサーの経験を基に、話し方、伝え方、企業研修などで講師を務める。 近年はプレゼンの他にもウェビナーに関する伝え方も研修課題としている。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>授業内容についての質問やコメントへの答えは、講義開始前もしくは終了後に教室で行う。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>授業への質問・問い合わせ先: tharaguchi@g.t-junshin.ac.jp 個人連絡先: tenkyunow@yahoo.co.jp</p>
<p>【備考】</p>

授業科目名	看護情報学	担当教員名	高柳 良太			
コード	22NBA123	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
看護の現場でさまざまに用いられている看護用語やカルテ用語について、看護情報のIT化を踏まえて、どのように用語の体系化がされ、扱われているのか理解する。また、医療者の共通言語としての医療・看護用語の活用方法や利用上の問題について、プライバシーの概念、情報の共有、セキュリティ、守秘義務、個人情報の保護、情報の開示などの観点から学び、看護情報の取り扱い方を理解する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 データ・情報・知識およびそれらの関係が概念化できる。					○	○
2 データ・情報・知識の観点から看護のさまざまな局面について論じることができる。					○	○
3 医療情報システムの概要を知り、情報を取り扱う上での留意点を説明できる。					○	○
4 関連する各種の法律・権利関係について理解し、説明することができる					○	○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	授業内容説明 科目概要/評価方法 看護情報学とは	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
2	看護情報学 データ・情報・知識・形式知・暗黙知	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
3	看護情報学 用語の標準化 情報セキュリティ	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
4	看護情報学 個人情報保護法をはじめとする関連法規と医療・看護	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 授業中に出题される中間課題に取り組み提出すること			
5	医療情報システムについて 1	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
6	医療情報システムについて 2	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
7	医療情報システムと看護	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分): 授業中に出题される課題に取り組み提出すること			
8	医療情報と倫理	高柳	予習(30分): 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分): 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分): 最終課題に取り組み提出すること			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	LSM(GoogleClassroom)を利用し、学生からのリアクションはできるだけタイムラグなく受け入れ、レスポンスを返すようにしている。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
原則提出締め切り後の講義時の最初に解説を行う。		
【成績の評価方法】		
<p><評価基準></p> <p>講義を元に出題される評価レポート課題においては、以下の各内容を評価基準とする。</p> <p>「情報やデータの概念、特徴および医療におけるそれらの特徴を論述し説明できる」</p> <p>「医療・看護における情報システムについて、その成り立ちやシステムの特徴、セキュリティ上重視すべきことが具体的に論述し説明できる」</p> <p>「情報倫理、及び関連する法規の内容について具体的に論述し説明できる」</p> <p><割合></p> <p>授業内課題(数回)50%、最終レポート課題50%で、総計60%以上を単位認定の条件とする。</p>		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
講義中に教員が資料を配付		
【参考書】		
<p>エッセンシャル看護情報学 第2版 太田勝正,前田樹海 医歯薬出版 ISBN978-4-263-23586-7</p> <p>《系統看護学講座 別巻》看護情報学(第2版) 中山和弘,瀬戸山陽子,藤井徹也,篠崎恵美子,会田敬志,高木晴良,戸ヶ里泰典 医学書院 ISBN978-4-260-02771-7</p>		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
業務用システム開発担当システムエンジニア(5年)		
【オフィスアワー】		
講義後1時間程度(火曜日) 随時メール等にて連絡は可能		
【教員連絡先】		
rtakayanagi@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
課題、資料についてはGoogleクラスルームにてダウンロード可能		

授業科目名	英語 I	担当教員名	増田 光・高橋 千佳子					
コード	22LAN125	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
「英語I」は、看護学科の必修基礎科目に含まれ、コミュニケーション力の育成を目指して英語を学ぶ。グローバル化が進む今日、学生が将来、海外の医療機関で就業したり、医療ツーリズムなどで海外からの患者に接する、あるいは海外からの医療従事者達と英語でコミュニケーションをとったりする場合などに活躍できるよう、英語力の基礎を築く。聴く、話す、読む、書くといった英語の4技能をバランスよく学ぶ。演習科目であり、クラスを分けて少人数での実践的なコミュニケーション能力も磨く。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことができる。						○		
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聞き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。						○		
3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。						○		
4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。				○		○		○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業の進め方、Unit 1 Introductions (1)	増田・高橋	予習(20分): p.5のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 自己紹介の表現を復習する。					
2	Unit 1 Introductions (2)	増田・高橋	予習(20分): p.9のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自己紹介を英文で書く。					
3	Unit 2 What a life! (1)	増田・高橋	予習(20分): p.11のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 日常生活の表現を復習する。					
4	Unit 2 What a life! (2)	増田・高橋	予習(20分): p.15のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の日常生活を英文で書く。					
5	Unit 3 Free time (1)	増田・高橋	予習(20分): p.17のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 趣味の表現を復習する。					
6	Unit 3 Free time (2)	増田・高橋	予習(20分): p.22のReadingを予習する。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の趣味について書く。					
7	小テスト (Unit 1 - 3) Presentationについて (organizing your ideas)	増田・高橋	予習(20分): p.25のVocabularyを解いておく。 復習(40分): presentationについて復習する。					
8	Unit 4 Places (1)	増田・高橋	予習(20分): p.29のReadingを予習する。 復習(30分): 場所を表す表現を復習する。					
9	Unit 4 Places (2)	増田・高橋	予習(20分): p.31のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の町について書く。					
10	Unit 5 Getting around (1)	増田・高橋	予習(20分): p.35のReadingを予習する。 復習(30分): 道順の表現を復習する。					
11	Unit 5 Getting around (2)	増田・高橋	予習(20分): p.37のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 待ち合わせ場所の道順を書く。					
12	Unit 6 Shopping (1)	増田・高橋	予習(20分): p.41のReadingを予習する。 復習(30分): 買い物の表現を復習する。					
13	Unit 6 Shopping (2)	増田・高橋	予習: 小テストの学習のため予習はなし。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 売りたい商品について書く。					

14	小テスト (Unit 4 - 6) Presentationについて (taking notes)	増田・高橋	予習 (60分): writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。 復習 (30分): presentationについて復習する。
15	Presentation	増田・高橋	予習:最終授業のため、予習はなし。 復習 (2時間以上): プレゼンテーションのフィードバックを振り返る。定期試験に向けて学習する。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			authenticな素材の活用 (DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど)
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ● 小テストを回収後、解答の解説を行う。 ● プレゼンテーションのフィードバックは後日、紙面にて個別に配布する。 			
【成績の評価方法】			
<p>課題:30% 小テスト・プレゼンテーション: 30% 定期試験: 40% 合計 100%</p> <p>1. ライティングの課題提出を「課題」として評価する。授業内でのルーブリックを示し、それに基づいて評価する。 具体的には、内容4、構成3、正確さ3、の計10点として評価する。授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。 2. 小テストは2回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。プレゼンテーションは内容4、伝わりやすさ3、正確さ3の計10点で評価する。 3. 「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。</p>			
【ルーブリック評価の活用 (無)】			
【履修申請上の条件】			
看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。			
【教科書】			
Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1 Miles Craven著、 macmillan education (「英語Ⅱ」と同じ)			
【参考書】			
授業内で適宜、紹介する。			
【オープンな教育リソース】			
特になし。			
【担当教員の実務経験】			
特になし。			
【オフィスアワー】			
増田: 月曜日3,4時限			
【教員連絡先】			
高橋 cmori@g.t-junshin.ac.jp 増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
新型コロナウイルス感染の状況によってはプレゼンテーションなどが中止となる場合がある。2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。			

授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	増田 光・高橋 千佳子					
コード	22LAN126	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
			○	○				
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
前期の「英語Ⅰ」と同じテキストを用いて、基本的には「英語Ⅰ」と同じクラス分けを維持する。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」で培った英語の基礎力に加えて応用力もつける。「英語Ⅱ」も看護学科の必修基礎科目に含まれ、英語の4技能とコミュニケーション能力の育成を目指して英語を学ぶ。「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」を学ぶことで基礎的な文法や語彙が復習でき、場面に応じた会話力がつき、リスニングやライティングを訓練することで、苦手とされるこれらの技能にも抵抗感なく取り組み、自らの言葉で発信できるようになる。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。						○		
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がアップ。						○		
3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。						○		
4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がアップ。				○		○		○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	Introduction 後期授業の進め方、Unit 7 What's happening? (1)	増田・高橋	予習(20分): p.45のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 進行形および家事の表現を復習する。					
2	Unit 7 What's happening? (2)	増田・高橋	予習(20分): p.49のReadingを予習する。 復習(30分): Readingを復習する。課題: 友人への手紙を書く。					
3	Unit 8 People (1)	増田・高橋	予習(20分): p.51のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 人物描写の表現を復習する。					
4	Unit 8 People (2)	増田・高橋	予習(20分): p.55のReadingを予習する。 復習(30分): Readingを復習する。課題: 自分自身の描写を書く。					
5	Unit 9 Having fun (1)	増田・高橋	予習(20分): p.57のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 休日の過ごし方の表現を復習する。					
6	Unit 9 Having fun (2)	増田・高橋	予習(20分): p.61のReadingを予習する。 復習(2時間以上): Reading復習する。小テストのための復習。 課題(30分): 招待状を書く。					
7	小テスト (Unit 7 - 9) Presentationについて (linking your ideas)	増田・高橋	予習(20分): p.65のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 小テストおよびPresentationについて復習する。					
8	Unit 10 Vacation (1)	増田・高橋	予習(20分): p.69のReadingを予習する。 復習(30分): 休暇の過ごし方を表す表現を復習する。					
9	Unit 10 Vacation (2)	増田・高橋	予習(20分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分の町に休暇について書く。					
10	Unit 11 Life stories (1)	増田・高橋	予習(20分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 人生のイベントに関する表現を復習する。					
11	Unit 11 Life stories (2)	増田・高橋	予習(20分): p.77のVocabularyを解いておく。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 自分史を書く。					
12	Unit 12 Hopes and intentions (1)	増田・高橋	予習(20分): p.81のReadingを予習する。 復習(30分): 希望を伝える表現を復習する。					
13	Unit 12 Hopes and intentions (2)	増田・高橋	予習(2時間以上): 小テストのための復習をする。 復習(30分): Reading復習する。 課題(30分): 将来の希望について書く。					
14	小テスト (Unit 10 - 12) Presentationについて (signposting your talk)	増田・高橋	予習(60分): Writing課題から1つを選び、presentationの準備をする。 復習(30分): 小テストの復習、presentationの復習をする。					
15	Presentation	増田・高橋	予習: 最終授業であり、定期試験に向けての学習があるため予習はない。 復習(2時間以上): 定期試験に向けての復習をする。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ● 小テストを回収後、解答の解説を行う。 ● プレゼンテーションのフィードバックは後日、紙面にて個別に配布する。 		
【成績の評価方法】		
<p>課題:30% 小テスト・プレゼンテーション: 30% 定期試験: 40% 合計 100%</p> <p>1. ライティングの課題提出を「課題」として評価する。授業内でルーブリックを示し、それに基づいて評価する。具体的には、内容4、構成3、正確さ3、の計10点満点で評価する。 2. 小テストは2回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。プレゼンテーションの評価は、内容4、伝わりやすさ3、正確さ3の計10点満点で評価する。 3. 「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。筆記だけでなく、リスニングも含まれる。</p>		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。原則的には「英語 I」が履修済であること。		
【教科書】		
Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1 Miles Craven著、 macmillan education (「英語 I」と同じ)		
【参考書】		
授業内で適宜、紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
増田: 月曜日3,4時限		
【教員連絡先】		
高橋 cmori@g.t-junshin.ac.jp 増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。		

授業科目名	看護英語		担当教員名	増田 光・高橋 千佳子			
コード	22LAN127		区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○			
年次/期間	2年次/前期		単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
「医療ツーリズム」という言葉が頻繁に聞かれ、日本での治療を目的として海外から観光客が訪れるようになった。また、在日外国人の数も増加している。看護学生としては、そのような方々と英語でコミュニケーションをとり、看護に必要な語彙が使えることは、おおいに求められている。この科目では、1年次の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で学んだ文法基礎力、語彙力、表現力、リスニング力、ライティング力を基に、看護に特化した英語を学び、英語4技能である読む、書く、聞く、話す力の総合的な向上を目的とする。具体的な内容は、治療を必要とする外国人患者とのコミュニケーション力の養成に重点を置く。様々な医療現場を想定したロールプレイを通し、「医療英語コミュニケーション力」、「医学用語」、「看護に特化した英語表現」を修得することを目標とする。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
ディプロマ・ポリシー							
① ② ③ ④ ⑤							
1 海外で働くナースの様子を動画で視聴することで、看護職として大切な人間への尊厳と権利を擁護する気持ちを述べるができる。							
2 病院の診療科や身体部位など、看護師として必要な語彙の英語名を理解し、使用することができる。							
3 実践的な会話練習により、学んだ知識を活用することができる。							
4 基本的な英文法の復習をすることで、より正確な英語を読み取り、発信することができる。							
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	Introduction 授業の進め方、 アメリカで働く看護師達(動画視聴)	増田・高橋	予習(10分): シラバスを熟読する。 復習(30分): 視聴した動画の内容を復習する。				
2	Unit 1 Meeting colleagues (1)	増田・高橋	予習(20分): p.4 - 6のLanguage、p.8のVocabularyを予習する。 復習(30分): 自己紹介、スケジュールの表現、家系図、面会者への注意書を復習する。				
3	Unit 1 Meeting colleagues (2)	増田・高橋	予習(20分): p.11のVocabularyを解いておく。 復習(30分): 病院の備品について復習する。				
4	Unit 2 Nursing assessment (1)	増田・高橋	予習(20分): p.13のLanguageを予習する。 復習(30分): 患者情報の記入、職業の表現を復習する。				
5	Unit 2 Nursing assessment (2)	増田・高橋	予習(20分): p.14のVocabulary p.16のReadingを予習する。 復習(30分): 病状を表す表現を復習する。				
6	Unit 3 The patient ward (1)	増田・高橋	予習(20分): p.22のVocabulary、p.25のReadingを予習する。 復習(30分): 病院の科の名称、看護師の業務内容の表現を復習する。				
7	Unit 3 The patient ward (2)	増田・高橋	予習(30分): p.27のReadingを予習する 復習(2時間以上): 責任ある看護師とは?について考える。小テストに向けて復習する。				
8	小テスト (Unit 1 ~ 3) 海外の看護師達(動画視聴)	増田・高橋	予習(20分): p.28のVocabularyを解いておく 復習(30分): 小テストの復習をする。視聴した動画の内容を復習する。				
9	Unit 4 Food and measurements (1)	増田・高橋	予習(20分): p.32のメニューを読んでおく。 復習(30分): 食物、数量の数え方の表現を復習する。				
10	Unit 4 Food and measurements (2)	増田・高橋	予習(20分): p.36のVocabularyを予習する。 復習(30分): 食事を注文する表現を復習する。				
11	Unit 5 The body and movement (1)	増田・高橋	予習(20分): p.38のVocabularyを予習する。 復習(30分): 身体部位、身体動作の表現を復習する。				
12	Unit 5 The body and movement (2)	増田・高橋	予習(20分): p.40のLanguage、p.42のReadingを予習する。 復習(30分): 目標設定および患者さんを励ます表現、運動療法の指示を復習する。				
13	Unit 6 Medication (1)	増田・高橋	予習(20分): p.44のVocabularyを解いておく 復習(30分): 薬の種類を復習する。				
14	Unit 6 Medication (2)	増田・高橋	予習(30分): p.47のReadingを予習する 復習(2時間以上): 薬の副作用について復習する。小テストに向けて復習する。				
15	小テスト (Unit 4 ~ 6) 海外の看護師達(動画視聴)	増田・高橋	予習: 最終授業であるため、予習はなし。 復習(2時間以上): 小テストの復習、定期試験に向けての復習。				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①: PBL (課題解決型学習)				authenticな素材の活用(DVD, YouTubeなど)			
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③: ディスカッション・ディベート			○				
④: グループワーク			○				
⑤: プレゼンテーション							
⑥: 実習・フィールドワーク							

<p>【課題のフィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定期試験、小テストを回収後、解答の解説を行う。
<p>【成績の評価方法】</p> <p>授業参加度:30% 小テスト:30% 定期試験:40% 合計 100%</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。 2. 小テストは前期2回、後期2回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。 3. 「定期試験」は前期および後期の試験期間中に実施し、2クラス共通のテストとする。筆記のみ。
<p>【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>看護学科2年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。原則的には「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」が履修済であること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>English for Nursing 1 Ros Wright and Bethany Cagnol著、 Pearson</p>
<p>【参考書】</p> <p>授業内で適宜、紹介する。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>増田：月曜日3,4時限</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp 高橋 cmori@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし。</p>

授業科目名	Listening & Speaking	担当教員名	増田 光				
コード	22LAN128	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を終了し、さらに、英語力をつける意欲がある学生対象に開かれる授業である。科目名にもあるように、英語の4技能の中でも特に、聴く・話すに特化した科目である。聴く力と話す力は連動しているため、双方を強化してゆく。学生の身近な題材の音声教材を視聴した上で、その内容について英語でディスカッションを行う。関連する英文法も復習してゆくと、苦手意識のある学生も受講しやすい。定期試験だけではなく、小テストや課題提出も評価に加える。語学は特に復習が大切なので、地道な復習が求められる。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、異なる考え方にも理解を示すことができるようになる。			○				
2 様々な問題について熟考することで、批判的思考力が養われる。			○				○
3 自分たちの意見をまとめて発表することで、英語での口頭発表能力が高められる。			○				○
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	Introduction 授業の進め方、 Other Introduction (他己紹介)	増田	予習(30分):テキストを購入してUnit 1の英文を読む。 復習(30分):他己紹介の表現を復習する。				
2	Unit 1: Enjoy Your Presentation in English 自己発信の英語を学ぶ	増田	予習(30分): Unit 2の英文を読む。 復習(30分): 英語プレゼンテーションのコツを復習する。 課題(30分): 「英語を学習する理由」についてのプレゼンテーション原稿を書く。				
3	Unit 2: Talking about Yourself パワーポイントの利用	増田	予習(30分): Unit 3の英文を読む。 復習(30分): パワーポイントの使い方を復習する。 課題(30分): 「私と家族」「私と友人」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
4	Unit 3: Express Yourself 50語で語ろう	増田	予習(30分): Unit 4の英文を読む。 復習(30分): 自分について語る方法を復習する。 課題(30分): 「自分が考えていること」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
5	Unit 4: Talking about Hobbies and Interests ダイナミックな話し方	増田	予習(30分): Unit 5の英文を読む。 復習(30分): 趣味や興味について語る表現を復習する。 課題(30分): 「好きなこと」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
6	Unit 5: Talking about Your University データの活用	増田	予習(30分): Unit 6の英文を読む。 復習(30分): デイベートの内容を復習する。 課題(30分): 「私の大学」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
7	Unit 6: Your Future Plan パラグラフの構造	増田	予習(30分): Unit 7の英文を読む。 復習(30分): 英文パラグラフの構造を復習する。 課題(30分): 「自分の将来の計画」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
8	Unit 7: Expressing Appreciation 聞き上手になる	増田	予習(30分): Unit 8の英文を読む。 復習(30分): 謝意や感謝の表現を復習する。 課題(30分): 「感謝と喜びの言葉」のプレゼンテーション原稿を書く。				
9	Unit 8: Social Activities リスナーや目的に応じた工夫	増田	予習(30分): Unit 9の英文を読む。 復習(30分): 聴き手を意識したプレゼンテーションの工夫を復習する。 課題(30分): 「学外の活動」についてプレゼンテーション原稿を書く。				
10	Unit 9: Expressing Your Opinion 明瞭な発音	増田	予習(30分): Unit 10の英文を読む。 復習(30分): 意見の述べ方、賛成意見と反対意見の表現について復習する。 課題(30分): 「私の提案」でプレゼンテーション原稿を書く。				
11	Unit 10: Giving a Presentation about Japan 察しの文化を越えて	増田	予習(30分): Unit 11の英文を読む。 復習(30分): 日本文化に関する語彙を復習する。 課題(30分): 「私が伝えたい日本」でプレゼンテーション原稿を書く。				
12	Unit 11: Old Japanese Sayings スピーチの構造	増田	予習(30分): Unit 12の英文を読む。 復習(30分): スピーチの構造について復習する。 課題(30分): 「私の好きなことわざ」でプレゼンテーション原稿を書く。				
13	Unit 12: Describing Things Japanese ハンドアウトの用意	増田	予習(30分): Unit 13の英文を読む。 復習(30分): 描写の仕方、ハンドアウトの工夫について復習する。 課題(30分): 「日本の物」でプレゼンテーション原稿を書く。				
14	Unit 13: Current Issues in Japanese Society 国際言語としての英語	増田	復習(20分): 日本社会の問題について復習する。 課題(30分): 「日本の社会問題」でプレゼンテーション原稿を書く。 最終プレゼンテーションの練習				
15	プレゼンテーション	増田	復習(20分): プレゼンテーションのフィードバックを振り返る。 課題(2時間以上): プレゼンテーションの内容を最終レポートにまとめて提出する。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD、新聞記事、インターネットや書籍など)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートに対するフィードバックは後日、紙面にて個別に配布する。 ● プレゼンテーションのフィードバックは、最終レポートの返却とともにを行う。 		
【成績の評価方法】		
リアクションペーパー:30% 課題:30% プレゼンテーション:40% 合計 100%		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業終了前にリアクションペーパーを書かせ、授業内容の理解度を評価する。 2. 「課題」については、授業内でルーブリックを示し、それに基づいて評価する。具体的には、内容4割、表現力3割、英語の正確さ3割の合計で評価する。 3. 「プレゼンテーション」は、パフォーマンスと最終レポートの総合評価とする。 		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
看護学科の選択科目である。3科目から1単位以上履修する選択必修科目であるので注意すること。原則として、「英語Ⅰ、Ⅱ」が履修済であること。		
【教科書】		
This is My Presentation! 本名信之、竹下裕子、Anthony Allan著 桐原書店		
【参考書】		
授業内で適宜、紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
月曜日3,4時限		
【教員連絡先】		
hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
積極的に授業に参加する姿勢が求められる。		

授業科目名	Reading & Writing		担当教員名	増田 光				
コード	22LAN129		区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択		
						○		
年次/期間	2年次/後期		単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
この授業では、「きちんとした英文が書けるようになる」を目標に基礎的な英語構文の積み上げからエッセイライティングへと展開してゆく。まず、モデルとなるエッセイを読み、語彙や構文を確認した上で1文ずつのセンテンス・ライティングを行い、課題として毎回、英文エッセイを書いて提出する。エッセイの題材はインターネットや書籍で自ら調査し、必ず出典を明らかにすること。題材の言語は問わないが、英文題材が好ましい。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー	
1	招待状、レシピ、手紙、e-mailなど、様々な種類のwritingに触れることで教養が見につく。						○	
2	モデルとなる英文を読むため、英語読解力がつく。							
3	基本的な英文法の復習をすることで、より正確な英語を読み取ることができる。					○		
4	課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れる。					○		
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	Introduction 授業の進め方、英文読解とライティングの基本、Unit 1大学生のアルバイト	増田	予習(20分): テキストを購入し、通読する。 復習(10分): シラバスを熟読する。Unit 1の復習。					
2	Unit 2 健康志向国民	増田	予習(30分): Unit 2のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「私の健康維持法」でエッセイを書く。					
3	Unit 5 日本にとってアメリカとは	増田	予習(30分): Unit 5のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。					
4	Unit 6 酒と大学生	増田	予習(30分): Unit 6のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「飲酒の功罪」についてエッセイを書く。					
5	Unit 7 帰国子女のカルチャーショック	増田	復習(2時間以上): 小テストに向けて構文や語彙を復習する。					
6	小テスト (Unit 1-2, 5-7)、Unit 8 働き甲斐とは何か?	増田	予習(30分): Unit 8のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。小テストの復習。					
7	Unit 9 アジア vs. 日本	増田	予習(30分): Unit 9のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。					
8	Unit 10 なぜ英語が話せない?	増田	予習(30分): Unit 10のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「日本の英語教育」についてエッセイを書く。					
9	Unit 11 当世親子関係	増田	予習(30分): Unit 11のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。					
10	Unit 12 受験英語の功罪	増田	予習(30分): Unit 12のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「自分の英語学習」についてエッセイを書く。					
11	Unit 13 高齢化社会の行く末	増田	予習(30分): Unit 13のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「高齢化社会」についてエッセイを書く。					
12	Unit 14 不便に耐えよう —— 環境問題	増田	予習(30分): Unit 14のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。					
13	Unit 15 結婚はちょっと	増田	予習(30分): Unit 15のモデルエッセイを読んでおく。 復習(20分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(30分): 「私の結婚観」についてエッセイを書く。					
14	Unit 18 勉強はあとから —— 教育問題	増田	予習(30分): Unit 18のモデルエッセイを読んでおく。 復習(1時間以上): 本文の内容、構文や語彙を復習する。課題発表の練習。					
15	Writing課題の発表	増田	復習(5時間以上): 発表に関するフィードバックを復習する。定期試験の勉強。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD、新聞記事、インターネットや書籍など)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
● 定期試験、小テストを回収後、解答の解説を行う。		
【成績の評価方法】		
授業参加度・課題提出:40% 小テスト:20% 定期試験:40% 合計 100%		
1. 英文課題の提出を「課題提出」として評価する。評価の内容は、文法力(10%)、構成力(10%)、発想力(10%)を基準とする「正確さ」と「内容」の総合評価とする。なお、遅れて提出した場合も受け取るが、8割の評価となる。授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。 2. 小テストは前期2回、後期2回行う。授業で学んだ練習問題の内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。 3. 「定期試験」は前期および後期の試験期間中にReadingと練習問題の内容から出題する。筆記のみ。		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
看護学部の学生の場合は英語選択必修科目の1つとなる。きちんと復習をして、真面目に課題に取り組むことが求められる。		
【教科書】		
Read Better to Write Better Tatsuki Tomioka, James Hill著 KINSEIDO		
【参考書】		
授業内で適宜、紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
月曜日3,4時限		
【教員連絡先】		
hmasuda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
英語を書く力は、「書く」ことで上達するので、とにかく英文を書き、添削されたものを見直して改定してゆくことが大切である。また、インターネットや書籍などを使って調べた題材については、必ず出典を明らかにすること。		

授業科目名	形態機能学 I	担当教員名	本田智子			
コード	22NBA201	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学 I では特に人体を構成する細胞や組織、神経系、感覚器系、外皮系について、各部分名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官系間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					① ② ③ ④ ⑤	
1	人体における生命維持のプロセス、ホメオスタシス、基本的解剖学的用語について説明できる。				○ ○ ○ ○ ○	
2	人体を構成する細胞・組織の特徴と機能について説明できる。				○ ○ ○ ○ ○	
3	神経系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。				○ ○ ○ ○ ○	
4	感覚器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。				○ ○ ○ ○ ○	
5	皮系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。				○ ○ ○ ○ ○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	第1章 人体の成り立ち 解剖学と生理学の定義 生命のプロセス ホメオスタシス	本田	予習(約20分): 1.1~1.3までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
2	第2章 人体の成り立ち 解剖学用語 体腔		予習(約20分): 1.5、1.6までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
3	第3章 細胞レベルの機構 細胞の構成部品 形質膜 細胞の基本的構造 形質膜の構造と特徴 形質膜を横切る輸送		予習(約20分): 3.1~3.3までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
4	第3章 細胞レベルの機構 細胞質 細胞内の構造物の特徴と機能		予習(約20分): 3.4、3.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
5	第4章 組織 組織の分類 上皮組織 結合組織 膜 筋組織		予習(約20分): 4.1~4.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
6	第9章 神経組織(1) 神経系の概観 神経系の組織学		予習(約20分): 9.1、9.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
7	第10章 神経組織(2) ニューロンの電気信号 シナプスにおける信号の伝達 神経伝達物質		予習(約20分): 9.3、9.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
8	第10章 中枢神経系、脊髄神経と脳神経(1) 脊髄の解剖学 脊髄神経 脊髄の生理学		予習(約20分): 10.1~10.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
臨時試験						
9	第10章 中枢神経系、脊髄神経と脳神経(2) 脳の構成、保護、血液供給 脳脊髄液 脳幹と網様体 間脳 小脳	本田	予習(約20分): 10.4~14.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
10	第10章 中枢神経系、脊髄神経と脳神経(3) 大脳 脳神経 感覚野 体性感覚 体性感覚経路 運動経路 大脳の機能分化		予習(約20分): 10.4~10.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
11	第11章 自律神経系 体制神経系と自律神経系の比較 自律神経の構造 自律神経系の機能		予習(約20分): 11.1~11.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
12	第12章 体性感覚と特殊感覚(1) 感覚の概観 体性感覚		予習(約20分): 12.1、12.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
13	第12章 体性感覚と特殊感覚(2) 嗅覚 味覚 視覚		予習(約20分): 12.3~12.5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
14	第12章 体性感覚と特殊感覚(3) 視覚 聴覚 平衡感覚		予習(約20分): 12.5、12.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
15	第5章 外皮系 皮膚 皮膚付属器の構造 皮膚の機能 皮膚創傷の治癒		予習(約20分): 5.1~5.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分): 講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。			
臨時試験						
【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫				
①: PBL (課題解決型学習)		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援				
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○					
③: ディスカッション・ディベート						
④: グループワーク						
⑤: プレゼンテーション						
⑥: 実習・フィールドワーク						

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。 合計:100%</p>
<p>【ルーブリック評価の活用 無】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>桑木 共之、黒澤 美枝子 (監修, 翻訳), その他2名: トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税</p>
<p>【参考書】</p> <p>原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名: カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami (著)、永田 豊 (翻訳): カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特に使用しない</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>科目に関する連絡は原則class room で行う。メール対応は平日の8:30～17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>科目内で行われる2回の臨時試験は成績評定の種になる試験なので、いずれも試験を無断で欠席した場合は試験放棄とみなし、科目の単位取得の意思がないものとする。</p>

授業科目名	形態機能学Ⅱ	担当教員名	本田智子						
コード	22NBA202	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。								
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】	<p>人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学Ⅱでは特に骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系についてについて、各部名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官系間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 骨格系を構成する細胞や組織の特徴や機能、調節について説明できる。					○	○			○
2 筋系を構成する細胞や組織の特徴や機能、反射について説明できる。					○	○			○
3 循環器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。					○	○			○
4 呼吸器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反射、調節について説明できる。					○	○			○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	第6章 骨格系(1) 骨と骨格系の働き 骨の形 骨の構造 骨形成の分類 骨形成 骨折と骨の修復 カルシウムのホメオスタシス	本田	予習(約20分):6.1~6.4までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
2	第6章 骨格系(2) 骨格系の分類 頭蓋 脊柱		予習(約20分):6.5~6.10までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
3	第6章 骨格系(3) 胸郭 上肢帯 上肢骨 下肢体 下肢骨		予習(約20分):6.11~6.15を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
4	第7章 骨の連結 骨の連結の分類 線維性の連結 軟骨性の連結 滑膜性の連結における運動の種類 滑膜生の連結の種類		予習(約20分):7.1~7.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
5	第8章 筋系(1) 筋組織の概説 骨格筋組織 骨格筋組織の収縮と弛緩 骨格筋の物質代謝		予習(約20分):8.1~8.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
6	第11章 筋系(2) 心筋組織 平滑筋組織 骨格筋はどのようにして運動を引き起こすか 主な骨格筋		予習(約20分):8.7~8.11を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
7	第14章 心臓血管系:血液 血液の機能 血液の成分 止血		予習(約20分):14.1~14.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
臨時試験									
8	第15章 心臓血管系:心臓(1) 心臓の構造と構成 心臓内の血液の流れと心臓への血液供給 心臓の刺激伝導系	本田	予習(約20分):15.1~15.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
9	第15章 心臓血管系:心臓(2) 心電図 心周期 心拍出量		予習(約20分):15.4~15.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
10	第16章 心臓血管系:血管と循環(1) 血管の構造と機能、血管内の血流 血流に影響を及ぼす因子		予習(約20分):16.1,16.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
11	第16章 心臓血管系:血管と循環動態(2) 血圧と血圧の調節 循環路		予習(約20分):16.2,16.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
12	第17章 リンパ系と免疫(1) リンパ系 自然免疫		予習(約20分):17.1,17.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
13	第17章 リンパ系と免疫(2) 獲得免疫		予習(約20分):17.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
14	第18章 呼吸器系(1) 呼吸器系の概観 呼吸器系の器官 肺換気		予習(約20分):18.1~18.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
15	第18章 呼吸器系(2) 酸素と二酸化炭素の運搬 呼吸ガスの交換 呼吸調節		予習(約20分):18.4~18.6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
臨時試験									
【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫							
①:PBL(課題解決型学習)		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○								
③:ディスカッション・ディベート									
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション									
⑥:実習・フィールドワーク									

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。 合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用 無】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>桑木 共之、黒澤 美枝子 (監修, 翻訳), その他2名: トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税</p>
<p>【参考書】</p> <p>原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修): 臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名: カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami (著)、永田 豊 (翻訳): カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特に使用しない</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護での臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>科目に関する連絡は原則class room で行う。メール対応は平日の8:30～17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>科目内で行われる2回の臨時試験は成績評定の種になる試験なので、いずれも試験を無断で欠席した場合は試験放棄とみなし、科目の単位取得の意思がないものとする。</p>

授業科目名	形態機能学Ⅲ	担当教員名	本田智子						
コード	22NBA203	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。								
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】	<p>人体を理解するうえで必要な解剖・生理学的知識を養うことを狙いとし、各臓器や組織、器官などの名称や構造上・機能上の特徴や活動のプロセス、作用機序、調節機構、反射などを系統別に学習する。形態機能学Ⅲでは特に泌尿器系、消化器系、内分泌系、生殖器系について、各部分名称、構造上の特徴、機能について学習する。また、各組織、器官や器官系間で行われる調節システムを知ることにより、人が日常生活で受ける様々な変化に対応していることを理解する。あわせて、ホメオスタシスの失調により様々な疾患や症状として現れることを学ぶ。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1	1 消化器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、反射、調節について説明できる。				○	○			○
2	2 内分泌を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、反射、調節について説明できる。				○	○			○
3	3 泌尿器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、反射、調節について説明できる。				○	○			○
4	4 身体における、体液、電解質の特徴や酸塩基平衡について説明できる。				○	○			○
5	5 生殖器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、機能、反応、調節について説明できる。				○	○			○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ	本田	予習(約20分):19.1、19.2までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
2	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約20分):19.3、19.4までを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
3	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約20分):19.5～19.7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
4	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約20分):19.8を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
5	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約20分):19.9、19.10を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
6	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約20分):13.1～13.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
7	第19章 消化器系(1) 消化器系の概観 消化管の管壁と腹膜ヒダ		予習(約30分):13.47～13.11を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約30分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
臨時試験									
8	第21章 泌尿器系(1) 泌尿器系の概観 腎臓の構造	本田	予習(約20分):21.1、21.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
9	第21章 泌尿器系(2) ネフロン機能		予習(約20分):21.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
10	第21章 泌尿器系(3) 尿輸送 貯蔵 排出		予習(約20分):21.4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
11	第22章 体液、電解質と酸塩基平衡(1) 体液区分と体液バランス 体液の電解質		予習(約20分):22.1、22.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
12	第22章 体液、電解質と酸塩基平衡(2) 酸塩基平衡		予習(約20分):22.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
13	第23章 生殖器系(1) 男性生殖器系		予習(約20分):23.1を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
14	第23章 生殖器系(2) 女性生殖器系 女性の性周期		予習(約20分):23.2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
15	第23章 生殖器系(3) 女性の性周期		予習(約20分):23.3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。						
臨時試験									

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーに書かれた講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 中間試験や小テストの解答に関する補足説明を行う。		
【成績の評価方法】		
筆記試験 90%、小テスト10% 本科目では、筆記試験を2回に分けて実施し、2回の合計を評価の90%とする。小テストの10%は、各講義開始前に実施する小テストの合計から算出する。 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用 無】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
桑木 共之、黒澤 美枝子 (監修, 翻訳), その他2名:トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税		
【参考書】		
原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名:カラスケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami (著)、永田 豊 (翻訳):カラスケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税		
【オープンな教育リソース】		
特に使用しない		
【担当教員の実務経験】		
看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。		
【オフィスアワー】		
教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい		
【教員連絡先】		
科目に関する連絡は原則class room で行う。メール対応は平日の8:30~17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
科目内で行われる2回の臨時試験は成績評定の種になる試験なので、いずれも試験を無断で欠席した場合は試験放棄とみなし、科目の単位取得の意思がないものとする。		

授業科目名	形態機能学演習	担当教員名	本田智子			
コード	22NBA204	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことをふまえて演習を行い、人体の構造や生理学的反応についての理解を深める。「体動と循環状態の変動」では座位、立位、歩行などによって脈拍などの循環動態がどのように変化するかを実験的に体験し、その変化について講義で学んだ内容と関連させて調節システムについての学習を深める。「解剖見学実習」では実際の臓器や体内での位置関係を直接確認することで、人体の構造についての理解を深める。「心電図判読」では心電図の基本的な判読方法を学ぶとともに、心電図の波形と心臓の刺激伝導系を関連させながら理解する。「組織観察」は代表的ないくつかの組織を対象に細胞や組織の構造の実際を観察することによって、特徴的な構造と機能の関連性について学ぶとともに、形状や色の違いに関する観察眼を養う。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1 身体の細胞や組織の構造を観察し、機能や役割について説明することができる。				○	○	○
2 人体の胸・腹部にある臓器の構造や位置関係の実際について学ぶ。				○	○	○
3 心電図の判読法を身に付け、心電図から心臓の刺激伝導系と心臓の運動を関連させ考察できる。				○	○	○
4 体動が循環動態に与える影響について、講義で学習したことを基に考察できる。				○	○	○
【授業計画】						
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	演習オリエンテーション	本田	演習前: 科目の内容について確認する。(約15分) 演習後: 配布資料の内容を確認し、注意事項などを把握する。(約20分)			
2	演習1: 体動と循環状態の変動(計画立案1)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 計画書の追加・修正を行う(約15分)			
3	演習1: 体動と循環状態の変動(計画立案2)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 計画書の追加・修正を行う(約15分)			
4	演習1: 体動と循環状態の変動(計画の実施)		演習後: 指定されたレポートを作成する。(約45分)			
5	演習1: 体動と循環状態の変動(計画の実施)		演習後: 指定されたレポートを作成する。(約45分)			
6	演習2: 解剖見学実習(講義)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約25分) 演習後: 指定されたレポートを作成する。(約20分)			
7	演習2: 解剖見学実習(講義)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約25分) 演習後: 指定されたレポートを作成する。(約20分)			
8	演習2: 解剖見学実習(実習)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約25分) 演習後: 指定されたレポートを作成する。(約20分)			
9	演習2: 解剖見学実習(実習)		演習前: 指定された事前課題を行う。(約25分) 演習後: 指定されたレポートを作成する。(約20分)			
10	演習3: 心電図判読		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
11	演習3: 心電図判読		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
12	演習4: 組織観察1 心筋・骨格筋・脊髄・小腸の細胞・組織の観察演習		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
13	演習4: 組織観察1 心筋・骨格筋・脊髄・小腸の細胞・組織の観察演習		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
14	演習4: 組織観察2 肝臓・脾臓・腎臓の細胞・組織の観察		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
15	演習4: 組織観察2 肝臓・脾臓・腎臓の細胞・組織の観察		演習前: 指定された事前課題を行う。(約30分) 演習後: 指定されたレポートの追加・修正を行う。(約15分)			
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫			
①: PBL(課題解決型学習)		○	講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。 授業に関するビデオ・3D画像・拡大用カメラなどを使用した画像の提供 授業時間外の学修の支援			
②: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○				
③: ディスカッション・ディベート		○				
④: グループワーク		○				
⑤: プレゼンテーション						
⑥: 実習・フィールドワーク		○				
【課題のフィードバック】 リアクションペーパーに書かれた演習内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。 Gmailなどを使用して質問対応やフィードバックを行う。						

<p>【成績の評価方法】</p> <p>演習1～4の内容に応じたルーブリック評価表を用いて、各レポートを各25点として評価・集計する。各演習の評点が60%に満たなかった場合、レポートの再提出を行う。 合計:100% 最終評価が60%を切る場合は、講義終了期間後に補講を実施する。</p>
<p>【ルーブリック評価の活用 有】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>形態機能Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい。</p>
<p>【教科書】</p> <p>桑木 共之、黒澤 美枝子 (監修, 翻訳),その他2名:トートラ人体解剖生理学 原書11版、丸善出版、2020 ¥7590+税</p>
<p>【参考書】</p> <p>原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):骨単、エヌ・ディー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):肉単、エヌ・ディー・エス、2004 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):脳単、エヌ・ディー・エス、2005 ¥2600+税 原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):臓単、エヌ・ディー・エス、2005 ¥2600+税 Wynn Kapit、Lawrence M. Elson, 他1名:カラースケッチ 解剖学第4版、廣川書店、2015 ¥4300+税 Kapit、Macey、Meisami (著)、永田 豊 (翻訳):カラースケッチ生理学、廣川書店、2006 ¥4300+税</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特に使用しない</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての勤務経験と解剖生理学やフィジカルアセスメント、成人看護学の教育経験のある教員が、看護としての臨床経験を踏まえ、看護や日常生活の視点を含めながら講義を進める。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>教員が研究室にいる時間帯を常に提示し、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合、研究室に在室しているときには対応可能。 事前予約があるとよい</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>科目に関する連絡は原則class room で行う。メール対応は平日の8:30～17:30までとする。 メールアドレス : thonda@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>各種演習にはテキスト・各演習の関連資料を持参して取り組む。</p>

授業科目名	病理学	担当教員名	高木 正之				
コード	22NBA205	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
病理学は、人体形態機能・生理学・生化学などの基礎科目の知識を土台とする科目である。病理学の基本は、病気の原因、病気の発症・進展の過程、対象に対する影響などを明らかにする。病気の発症に関わる内外的および外的因子、病態を形成する基本的変化のカテゴリー、組織や臓器に特有の器質的、機能的変化について理解し、疾病を総括的に理解する能力を養う。具体的な症例をあげて、疾患の臨床症状、経過、臨床検査結果、画像所見から、診断および治療について理解し、看護過程の基盤的知識の構築をする。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 疾患の本態と疾患の成り立ちを説明できる。				○			
2 細胞・組織の基本的な病的変化、恒常性維持のための細胞・組織・生体の反応を説明できる。				○			
3 病変の原因と病態の基本的概念に基づき疾患を分類できる。				○			
4 解剖学・生理学・生化学の基礎知識を活用し、疾患および病態状態の本質を説明できる。				○			
5 疾患の病態生理の臨床症状・徴候を関連付けられる。				○			
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	ガイダンス、病理学の概要、人体病理学と実験病理学、病理学と臨床医学	高木					
2	細胞・組織とその障害	高木	復習:人体病理学と実験病理学、病理学と臨床医学(30分) 予習:細胞・組織とその障害を読む(30分)				
3	再生と修復	高木	復習:細胞・組織とその障害(30分) 予習:再生と修復を読む(30分)				
4	循環障害1	高木	復習:再生と修復(30分) 予習:循環障害1を読む(30分)				
5	循環障害2	高木	復習:循環障害1(30分) 予習:循環障害2を読む(30分)				
6	炎症1(生体防御、炎症原因、炎症の基本病変)	高木	復習:循環障害2(30分) 予習:炎症1(生体防御、炎症原因、炎症の基本病変)を読む(30分)				
7	炎症2(急性炎症、慢性炎症)	高木	復習:炎症1(生体防御、炎症原因、炎症の基本病変)(30分) 予習:炎症2(急性炎症、慢性炎症)を読む(30分)				
8	免疫とアレルギー	高木	復習:炎症2(急性炎症、慢性炎症)(30分) 予習:免疫とアレルギーを読む(30分)				
9	感染症	高木	復習:免疫とアレルギー(30分) 予習:感染症を読む(30分)				
10	代謝異常1(脂質代謝異常、糖質代謝異常、蛋白質代謝異常)	高木	復習:感染症(30分) 予習:代謝異常1(脂質代謝異常、糖質代謝異常、蛋白質代謝異常)を読む(30分)				
11	代謝異常2(核酸代謝異常、生活習慣病)	高木	復習:代謝異常1(脂質代謝異常、糖質代謝異常、蛋白質代謝異常)(30分) 予習:代謝異常2(核酸代謝異常、生活習慣病)を読む(30分)				
12	腫瘍1(腫瘍の概念、形態)	高木	復習:代謝異常2(核酸代謝異常、生活習慣病)(30分) 予習:腫瘍1(腫瘍の概念、形態)を読む(30分)				
13	腫瘍2(悪性腫瘍の進展と転移、腫瘍の原因と発生機序)	高木	復習:腫瘍1(腫瘍の概念、形態)(30分) 予習:腫瘍2(悪性腫瘍の進展と転移、腫瘍の原因と発生機序)を読む(30分)				
14	先天異常	高木	復習:腫瘍2(悪性腫瘍の進展と転移、腫瘍の原因と発生機序)(30分) 予習:先天異常を読む(30分)				
15	老化、まとめ	高木	復習:先天異常(30分) 予習:老化を読む(30分)				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○					
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
課題に関しては、講義の中で解説します。							

<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験100%</p> <p>【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>予習・復習をきちんとし真面目に授業を受けること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>渡辺照男(編):カラーで学べる病理学、第4版、ヌーヴェル・ヒロカワ、2014</p>
<p>【参考書】</p> <p>1) 坂本穆彦 / 北川昌伸 / 仁木利郎(編集):標準病理学、第5版、医学書院、2015</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>特になし</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>学務課を通じて、メールにて対応。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>学務課へ連絡</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	薬理学	担当教員名	武半優子・太田有紀・木田圭亮				
コード	22NBA206	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を实践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を实践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
薬理学の基本的概念と薬物の特徴、薬理作用に関連する基本的知識を学習する。 人体の生理学および生化学的知識を踏まえたうえで、疾患の治療や症状の緩和に用いられる薬物の種類、名称、作用機序や薬物の特徴などについて学修する。 既に履修した形態機能学や疾病治療論と結びつけて理解する。 またヘルスアセスメントや看護学実習を实践するための基礎的知識を学修する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 薬物の種類(剤形など)、作用する仕組み、薬物の体内動態について理解し、薬物治療に対する看護の役割を説明できる。				○			
2 医薬品の開発および薬害など医薬品に関する法律について説明できる。				○			
3 疾患に対する主な治療薬を分類・列挙でき、その作用機序、薬理作用、有害作用を説明できる。				○			
4 薬物の組み合わせによる相互作用や有害反応または薬害について説明できる。				○			
5 特殊疾患、特殊患者(妊婦、小児、高齢者)に対する薬物治療について説明できる。				○			
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	第1章 薬理学総論 (1) 薬に対する一般知識、薬物の分類、薬と法律	武半 優子	予習(40分):教科書の「薬理学総論」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):教科書と配布プリントを見返し、薬物治療と看護師の役割をまとめる。				
2	第2章 薬理学総論 (2) 薬力学と薬物動態学、投与経路、薬物が作用するしくみ、薬物相互作用	武半 優子	予習(40分):「薬物動態」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):薬物の体内動態についてまとめる。				
3	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物 (1) 自律神経系の基礎知識、神経系の情報伝達、交感神経作用薬および受容体遮断薬	武半 優子	予習(40分):「自律神経系作用薬」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):自律神経の伝達物質と作用についてまとめる。				
4	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物 (2) 副交感神経作用薬、受容体遮断薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬、消化器系に作用する薬物	武半 優子	予習(40分):自律神経と支配臓器の関連性についてわからない箇所を抽出する。 復習(20分):自律神経の受容体作用薬と遮断薬の臨床応用をまとめる。				
5	第9章 循環器系に作用する薬物 (1) 循環器の生理、高血圧治療薬、狭心症・心不全・不整脈治療薬	木田 圭亮	予習(40分):「循環器系作用薬」の項目を読み、関連する解剖生理学を復習する。 復習(20分):循環器の生理と疾患に対する薬物治療をまとめる。				
6	第9章 循環器系に作用する薬物 (2) 利尿薬・脂質代謝異常症治療薬、血液凝固および線溶系の生理および血液に作用する薬物	木田 圭亮	予習(40分):「循環器系作用薬」の項目を読み、関連する解剖生理学を復習する。 復習(20分):循環器系疾患に対する薬物治療についてまとめる。				
7	第8章 中枢神経系に作用する薬物 (1) 中枢神経の生理、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、気分障害治療薬	武半 優子	予習(40分):「中枢神経系薬物」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):中枢の神経伝達物質と疾患との関連性、薬物治療についてまとめる。				
8	第8章 中枢神経系に作用する薬物 (2) パーキンソン病治療薬抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬、認知症治療薬	武半 優子	予習(40分):「中枢神経系薬物」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):中枢神経系疾患の薬物治療についてまとめる。				
9	第10章 生殖器・泌尿器系に作用する薬物 第11章 物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、ホルモン関連薬等	武半 優子	予習(40分):生体の内分泌系の働きとホルモン作用について復習しておく。 復習(20分):内分泌疾患の病態と薬物治療についてまとめる。				
10	第5章 免疫治療薬 免疫の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬/予防接種薬)	太田 有紀	予習(40分):「免疫治療薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):免疫について、また免疫を修飾する薬物の作用機序についてまとめる。				
11	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ、痛風、高尿酸血症治療薬	太田 有紀	予習(40分):「抗アレルギー薬」の項目を読み、分からない事を抽出する。 復習(20分):炎症の機序と各種抗炎症薬の機序についてまとめる。				
12	第3章 抗感染症薬 感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論	太田 有紀	予習(40分):「感染症治療薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):感染症の種類と抗感染症薬の作用機序・耐性等についてまとめる。				
13	第4章 抗がん薬 がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論	太田 有紀	予習(40分):「抗がん薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):抗がん作用のしくみと耐性・副作用についてまとめる。				
14	第10章 呼吸器系に作用する薬物 第12章 皮膚科、眼科薬、臨床薬理学 看護業務に必要な薬の知識	太田 有紀	予習(40分):「呼吸器系作用薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):呼吸器疾患の薬物治療と薬物の剤形と与薬上の注意点をまとめる。				
15	新薬の開発(臨床研究を含む)と薬害 第14章 漢方薬 第15章 消毒薬	太田 有紀	予習(40分):「薬理学総論」の新薬開発、副作用について復習しておく。 復習(20分):新薬の開発過程について、また薬害の事例をまとめる。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
教科書、授業プリント、参考書により自学自習する。授業中または授業終了後に質問を受け付け、その講義内で解説または次回の講義で解説する。		
【成績の評価方法】		
〈評価基準〉 到達目標に明示している内容を問う定期試験を評価基準とする。〈割合〉 定期試験 (100%)		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
①吉岡 充弘ほか。(2018). 系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 第14版. 医学書院.		
【参考書】		
① 板井 建雄ほか。(2018). 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版. 医学書院. ② 古川 裕之ほか。(2015). ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(2) 臨床薬理学. メディカ出版. ③ 時政孝行。(2017). はじめる!つかえる!看護のための薬理学. 南山堂. ④木田圭亮。(2019). ナースが知りたい心不全のキホン. メディカ出版.		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
医師として医学的知識、臨床経験に即し、看護に必要な知識を講義する。 薬剤師として臨床現場で多く処方される薬剤、与薬の知識等、実践に即した講義を行う。		
【オフィスアワー】		
授業終了後～1時間		
【教員連絡先】		
takebay@marianna-u.ac.jp		
【備考】		
特になし。		

授業科目名	栄養生化学	担当教員名	吉田稔・黒須泰行・井元紀子					
コード	22NBA207	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
			○					
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
ヒトはタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどを食物として取り入れ、エネルギー源やからだの構成材料として必要な物質に変換して正常な機能や形態を維持している。栄養素と呼ばれるこれら物質は水と酸素の存在下に酵素反応によって必要な物質に合成される。本講義では3大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の生化学的構造と特性、生体内での代謝とエネルギー産生・貯蓄そして身体にとって重要な水・電解質の特徴と機能を学習する。またこれらの栄養素の働きを理解することは、日常生活での栄養素の過剰摂取に起因する生活習慣病の予防や改善そして健康の維持を考える上で重要である。とくに生活習慣病の予防は食品を介して摂取する栄養素の種類、量、摂取のタイミングが重要であることを理解する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 栄養素の生体内での反応や酵素の役割を説明できる。					○			
2 糖質、脂質、タンパク質の構造、消化、吸収、代謝を説明できる。					○			
3 生体内におけるエネルギー産生の過程を説明できる。					○			
4 遺伝情報とその発現について説明できる。					○			
5 食品の栄養学的特徴と食事摂取基準を説明できる。					○			
6 それぞれのライフステージにおける栄養を説明できる。					○			
7 臨床栄養について学び、主な疾患の栄養管理や食事療法を説明できる。					○			
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	栄養と生化学の基礎 ・消化と吸収、同化と異化反応、細胞の構造、三大栄養素の代謝の概要等を学ぶ。	吉田	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
2	酵素の栄養生化学 ・酵素の性質と酵素反応、酵素と補酵素等について学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
3	糖質の栄養生化学 ・糖質の分類と構造、糖質の消化、吸収、代謝等について学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
4	脂質の栄養生化学 ・脂質、脂肪酸、コレステロールと胆汁酸の構造・消化・吸収・代謝およびリポたんぱく質の構造と代謝等について学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
5	タンパク質の栄養生化学 ・アミノ酸、タンパク質の構造・消化・吸収・代謝等を学ぶ。また血漿タンパク質について理解する。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
6	エネルギーの栄養生化学 ・呼吸とエネルギー産生、糖質・脂質・タンパク質代謝の相互の関連について学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
7	ポルフィリン代謝と異物代謝 ・ヘムの合成と分解、ビリルビンの代謝、生体異物代謝、活性酸素とその除去反応について学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
8	ビタミンと無機質の栄養生化学 ・各種ビタミンの消化・吸収、構造、機能と疾患そして各種無機質の機能等を学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
9	遺伝子の生化学(1) ・核酸の構造と代謝、遺伝子と染色体の構造、遺伝子とタンパク質の合成等を学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
10	遺伝子の生化学(2) ・遺伝子異常と疾患、がんの生化学、遺伝子工学の応用等を学ぶ。	黒須	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
11	食物と栄養 ・食物と栄養、栄養素と栄養価、主要食品の栄養的特徴、食生活指針等を学ぶ。	井元	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
12	栄養摂取基準(1) ・栄養摂取基準、日本人の食事摂取基準の基本的考え方、食事摂取基準の使用の際の留意点、活用に関する基本的考え方、エネルギーの食事摂取基準等を学ぶ。	井元	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
13	栄養摂取基準(2) ・タンパク質・脂質・糖質・食物繊維の食事摂取基準、エネルギー産生栄養素バランス、水溶性ビタミンの食事摂取基準、多量・微量ミネラル等を学ぶ。	井元	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
14	成長・生活と栄養 ・乳幼児の栄養、学童期・青少年期の栄養と問題、中年期・老年期の栄養と問題、妊産婦の栄養、エネルギー必要量と栄養等を学ぶ。	井元	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					
15	栄養療法 ・食事療法、経管栄養、輸液等を学ぶ。	井元	予習(30分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
フィードバックとして小テスト(課題)を実施し、解答の解説を行う。		
【成績の評価方法】		
小テスト:10% 定期試験:90% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
この科目は形態機能学(解剖生理学)と関連しており、予習・復習には解剖生理学の教科書も活用することが望ましい。		
【教科書】		
脊山洋右・島野仁・松島照彦編集:新体系 看護学全書、人体の構造と機能、栄養生化学		
【参考書】		
島山鎮次:系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能 ② 医学書院 小野章史ほか:系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 ③ 医学書院		
【オープンな教育リソース】		
本講義では使用しません。		
【担当教員の実務経験】		
本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。		
【オフィスアワー】		
月曜日 15:00～17:00		
【教員連絡先】		
myosida@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
事前・事後学習をしていただくこと強く望みます。		

授業科目名	感染予防学	担当教員名	竹村 弘・碓井 之雄・國島 広之・大神田 敬・中谷 佳子						
コード	22NBA208	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。								
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】									
この授業は、病原微生物と感染症について学び、感染症の予防および治療のための基本的知識の獲得を目指す。病原微生物として、細菌・ウイルス・真菌などの性質を理解し、それらが引き起こす感染症とそれに伴う生体反応、薬物療法、予防方法を学ぶ。また、近年医療現場で問題となっている、薬剤耐性菌や医療関連感染、新興感染症、再興感染症に関する感染経路やその予防方法を学ぶ。さらに、看護師として患者や自分自身を感染から守るための感染予防に関する一般的な考え方を学ぶ。演習では微生物を可視化し、医療現場で最も重要な感染予防の技術である手洗いについて総合的に学ぶ。病原微生物に関する基本的知識の獲得にとどまらず、その知識を応用した医療現場における感染予防策を理解することを目的とする。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 細菌・ウイルス等の病原微生物の形態学的・生化学的・生理学的な性状について説明できる。						○			
2 病原微生物の特性に応じた感染予防の方法に関する基本的な概念を説明できる。						○			
3 免疫の基本を理解し、宿主となるヒトと病原微生物の相互関係として現れる感染症の成立について説明できる。						○			
4 看護師として、臨床実践で必要とされる感染予防の具体策について説明できる。						○	○		
5 社会生活での感染予防における看護師の役割について説明できる。						○	○		
【授業計画】									
	授業計画（令和4年度実績）	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）						
1	感染・感染症の基本 感染の仕組みと発生病因、感染症の種類について学ぶ。水平感染、垂直感染、内因性感染、日和見感染症、人獣共通感染症、節足動物媒介感染症等の概念について学ぶ。 感染症の検査、敗血症と菌血症の違いなどについて学ぶ。	碓井	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
2	細菌感染症(1) 細菌の形態、グラム染色性、一般的な特徴を学ぶ。 ブドウ球菌、レンサ球菌を中心にグラム陽性菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
3	細菌感染症(2) 腸内細菌科、Clostridioides difficileなど腸管感染症の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。梅毒、淋病、クラミジアなどの性行為感染症について学ぶ。	碓井	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
4	細菌感染症(3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、緑膿菌、レジオネラ菌、マイコプラズマ、クラミジアなど呼吸器感染症、中枢神経感染症(髄膜炎)の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	碓井	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
5	細菌感染症(4) 結核菌、非結核性抗酸菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 結核菌の院内感染対策のグループディスカッションなどを含む。	竹村	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
6	真菌・原虫による感染症 主な真菌、原虫の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	竹村	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
7	免疫と生体防御機構 ヒトのバリア機能、および免疫の種類とそのメカニズムなどを学ぶ。	大神田	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
8	ウイルス感染症(1) ウイルスの特徴を学ぶ。 呼吸器系、消化器系への感染症を引き起こすウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	大神田	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
9	ウイルス感染症(2) 肝炎および血液疾患の原因となるウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。	大神田	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
10	感染症の治療 化学療法と薬剤耐性 抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の特徴、副作用、細菌の薬剤耐性機構などについて学ぶ。	國島	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
11	新興・再興感染症と感染症法 新型インフルエンザ、MERSなどの新興・再興感染症、感染症法で届出が規定された感染症などについて学ぶ。	國島	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
12	感染症の予防(1) 組織による感染予防対策 感染制御チーム、抗菌薬適正使用チームの実際の活動などについて学ぶ。	中谷	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
13	感染症の予防(2) 医療関連感染予防対策① 標準予防策、感染経路別予防策などを学ぶ。 病院施設等で行われている感染予防対策の実践を学ぶ。	中谷	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
14	感染症の予防(3) 医療関連感染予防対策② 滅菌、消毒、洗浄の概念を理解し、各種病原体の滅菌・消毒方法などを学ぶ。 手術部位感染対策、医療環境整備などについて学ぶ。	中谷	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						
15	感染症の予防(4) 職業感染予防対策 ワクチン接種、針刺し・切創などの職業感染対策などを学ぶ。 職業感染対策のグループディスカッションなどを含む。	中谷	予習:教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む(30分)。 復習:授業内容をまとめる(30分)。						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
特になし。		
【成績の評価方法】		
定期試験:100%		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
教科書の該当箇所を予習して授業に臨むこと。 復習としてノートに授業内容をまとめること。		
【教科書】		
吉田真一、他:疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 第14版 系統看護学講座 専門基礎分野(医学書院)		
【参考書】		
染方史郎(金子幸弘):染方史郎の楽しく覚え好きになる感じる細菌学×抗菌薬(じほう) 藤本秀士、他:わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂第3版(南山堂) 医療情報科学研究所編:看護技術がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア) 水口康雄、他:ナースのための微生物学 改訂6版(南山堂)		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
特になし。		
【オフィスアワー】		
特になし。		
【教員連絡先】		
学務課へ連絡をする。		
【備考】		
<ul style="list-style-type: none"> ・2コマまたは3コマ連続の講義となる。 ・現在、臨床で必要とされている最新の知識やトピックスは教科書には記載されていないことが多いので、メモを取りながら授業を聴講し、復習できるよう努めること。 		

授業科目名	疾病治療論 I	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)					
コード	22NBA209	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
疾病治療論Iでは、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患を中心に学習する。特に地域社会や各療養・治療機関で遭遇しやすい代表的疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査・診断を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに習得している形態機能学と結び付けて理解する。□								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 疾病の診断に関する基本と方法および治療について記述できる。					○		○	
2 感覚器及び呼吸器系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。					○		○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	《疾病診断・治療》 ・一般検査、免疫・血清検査など	右田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。					
2	《疾病診断・治療》 ・負荷検査、生理機能検査など	右田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
3	《感覚器系・耳鼻咽喉頭系の疾患の病態と診断・治療》 a. 嗅覚・味覚障害 b. 聴覚障害(難聴、Ménière<メニエール>病)	齋藤	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
4	《感覚器系・耳鼻咽喉頭系の疾患の病態と診断・治療》 c. 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎) d. 腫瘍(舌癌、咽頭がん)	齋藤	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
5	《眼科系の疾患の病態と診断・治療①》 e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)	梯	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
6	《眼科系の疾患の病態と診断・治療②》 e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)	梯	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
7	《皮膚科系の疾患の病態と診断・治療①》 f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)	門野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
8	《皮膚科系の疾患の病態と診断・治療②》 f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)	門野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
9	《呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療①》 a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	井上	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
10	《呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療②》 a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	井上	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
11	《呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療③》 d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核 f. 気胸 g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	井上	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
12	《呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療④》 d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核 f. 気胸 g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	井上	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
13	《呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療①》 a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	丸島	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
14	《呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療②》 a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	丸島	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
15	《疾病診断・治療》 ・画像診断	境野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。		
【成績の評価方法】		
臨時試験:100%		
【 ルーブリック評価の活用 (無) 】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
系統看護学講座 成人看護学[2][12][13][14]医学書院		
【参考書】		
特になし。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
聖マリアナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。		
【オフィスアワー】		
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。		
【教員連絡先】		
連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。		
【備考】		
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。		

授業科目名	疾病治療論Ⅱ	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)			
コード	22NBA209	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	疾病治療論Ⅱでは、中枢神経系・末梢神経系の疾患、骨・関節疾患、筋肉・神経筋接合部の疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。□					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー					
		①	②	③	④	⑤
1	放射線治療、麻酔法、手術療法、リハビリテーションの基本について記述できる。		○		○	
2	栄養の摂取・消化吸収・代謝機能に関連した疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	
【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	《疾病診断・治療》 ・放射線治療	境野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。			
2	《上部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療①》 a. 炎症性疾患(逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症) b. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)	安田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
3	《下部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療②》 a. 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn(クローン)病) b. イレウス c. 排便障害(便秘、下痢)	安田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
4	《疾病診断・治療》 リハビリテーション①	佐々木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
5	《疾病診断・治療》 リハビリテーション②	佐々木	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
6	《上部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療①》 a. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍) b. 腫瘍(食道癌、胃癌)	久恒	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
7	《下部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療②》 a. 炎症性疾患(虫垂炎、痔瘻) b. イレウス c. 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌)	久恒	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
8	《肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療①》 a. 炎症性疾患(肝炎、胆管炎、膵炎)	立石	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
9	《肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療②》 b. 脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変	立石	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
10	《肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・外科的治療①》 a. 胆石症 b. 腫瘍(肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌)	土橋	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
11	《腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・外科的治療②》 a. 鼠径ヘルニア b. 腹膜炎 c. 横隔膜ヘルニア	土橋	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
12	《疾病診断・治療》 ・麻酔法	吉川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
13	《疾病診断・治療》 ・手術療法と生態侵襲(1)開腹術	吉川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
14	《疾病診断・治療》 ・手術療法と生態侵襲(2)開胸術	丹羽	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			
15	《疾病診断・治療》 ・手術療法と生態侵襲(3)開頭術	丹羽	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。		
【成績の評価方法】		
定期試験:100%		
【ループリク評価の活用 (無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
系統看護学講座 成人看護学 [5]医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [15]医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		
【参考書】		
特になし。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。		
【オフィスアワー】		
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。		
【教員連絡先】		
連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。		
【備考】		
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。		

科目責任者が2/3以上授業時間数を担当している場合は、右の欄に「○(マル)」をご入力してください。

入力欄

授業科目名	疾病治療論Ⅲ	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)					
コード	22NBA211	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
疾病治療論Ⅲでは、骨・関節疾患、神経筋接合部の疾患、および血液系や免疫系の疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。また、ヘルスアセスメントや看護技術演習、および看護学実習を行うための基礎的な知識を学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 骨・関節疾患、神経筋接合部の疾患の病態、診断、治療について記述できる。					○		○	
2 血液系および免疫系の疾患の病態、診断、治療について記述できる。					○		○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	《運動機能①》 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 a. 骨折、脱臼、捻挫 b. 骨粗鬆症	市川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。					
2	《運動機能②》 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 c. 腫瘍(骨肉腫) d. 変形性関節症	市川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
3	《運動機能③》 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 e. 腰痛症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) f. 炎症性疾患(骨・骨髄炎、関節炎)	浅野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
4	《運動機能④》 神経障害の病態と診断・治療 g. 脊髄損傷 h. 末梢神経障害	浅野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
5	《血液機能①》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 a. 貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
6	《血液機能②》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 a. 貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
7	《血液機能③》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 b. 白血球減少症 c. 出血性疾患 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP) 免疫性血小板減少性紫斑病(ITP) 播種性血管内凝固(DIC)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
8	《血液機能④》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 b. 白血球減少症 c. 出血性疾患 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP) 免疫性血小板減少性紫斑病(ITP) 播種性血管内凝固(DIC)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
9	《血液機能⑤》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 d. 腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
10	《血液機能⑥》血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 d. 腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	富田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
11	《免疫機能①》アレルギー性疾患の病態と診断・治療 a. 花粉症(アレルギー性鼻炎) b. 蕁麻疹 c. 接触性皮膚炎	今村	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
12	《免疫機能②》アレルギー・免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療 a. アナフィラキシーショック b. 敗血症	今村	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
13	《免疫機能③》自己免疫疾患の病態と診断・治療 a. 全身性エリテマトーデス(SLE)	永淵	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
14	《免疫機能④》自己免疫疾患の病態と診断・治療 b. 関節リウマチ c. Sjögren(シエーグレン)症候群	永淵	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
15	《免疫機能⑤》免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療 c. ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症	永淵	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。		
【成績の評価方法】		
臨時試験:100%		
【ループリク評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
系統看護学講座 成人看護学 [4][10][11]医学書院		
【参考書】		
特になし。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。		
【オフィスアワー】		
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。		
【教員連絡先】		
連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。		
【備考】		
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。		

授業科目名	疾病治療論Ⅳ	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員) 高月病院 教員					
コード	22NBA212	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
疾病治療論Ⅳでは、中枢神経系・末梢神経系・神経筋接合部の疾患、および精神疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。また、ヘルスアセスメントや看護技術演習、および看護学実習を行うための基礎的な知識を学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 中枢神経系、末梢神経系および筋肉・神経筋接合部の疾患の病態、診断、治療について記述できる。					○		○	
2 精神疾患の病態、診断、治療について記述できる。					○		○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ c. てんかん ≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療②≫ a. 脳血管障害(脳梗塞、もやもや病)		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。					
2	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療③≫ g. 頭部外傷 h. 腫瘍(脳腫瘍)		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
3	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ a. 脳血管障害(脳内出血、くも膜下出血) b. 頭蓋内圧亢進症		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
4	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療④≫ b. 変性疾患[パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を含む)] d. 感染症(脳炎、髄膜炎)		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
5	≪筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療≫ a. 筋ジストロフィ b. 重症筋無力症		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
6	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療⑤≫ c. 脱髄疾患(多発性硬化症)		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
7	≪末梢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ a. Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群 ≪末梢神経系の疾患の病態と診断・治療②≫ c. 顔面神経麻痺(Bell(ベル)麻痺) d. 自律神経失調		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
8	・脳の仕組みと精神機能 ・検査、診断基準症状(妄想・幻覚、うつ状態、不安、思路の障害、意志の障害)		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
9	・精神の構造、心理学的側面 (防衛機制、転移、アンビバレンス、エディプスコンプレックス) ・こころのバリアフリー宣言		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
10	≪精神疾患の病態と診断・治療①≫ 気分障害		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
11	≪精神疾患の病態と診断・治療②≫ 統合失調症		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
12	≪精神疾患の病態と診断・治療③≫ 神経性障害、ストレス関連障害		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
13	≪精神疾患の病態と診断・治療④≫ パーソナリティ障害、摂食障害、睡眠障害		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
14	≪精神疾患の病態と診断・治療⑤≫ 器質性精神障害(てんかん)、物質関連障害および嗜癖性障害群		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
15	≪精神疾患の病態と診断・治療⑥≫ 発達障害		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。		
【成績の評価方法】		
定期試験:100%		
【ループリク評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
系統看護学講座 成人看護学 [7]医学書院		
【参考書】		
特になし。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
聖マリアナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。		
【オフィスアワー】		
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。		
【教員連絡先】		
連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。		
【備考】		
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。		

授業科目名	疾病治療論Ⅴ	担当教員名	加藤智啓(聖マリアンナ医科大学教員)					
コード	22NBA213	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
疾病治療論Ⅴでは、内分・代謝異常の疾患、循環器系、生殖器系、体液・腎系の疾患を中心に学習する。また、小児や老化に伴う高齢者特有の疾患、周産期における病態・診断・治療について学ぶ。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。また、ヘルスアセスメントや看護技術演習、および看護学実習を行うための基礎的な知識を学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 内分・代謝異常の疾患、循環器系、生殖器系、内分泌・代謝・腎系の疾患の病態・診断・治療について学ぶ。					○		○	
2 小児や老化に伴う高齢者特有の疾患、さらに周産期における病態・診断・治療について学ぶ。					○		○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ①》 口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュプルング病、鎖肛、ヘルニア、胆道閉鎖症、腸重積症	北川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。					
2	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ②》 先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、骨折、ペルテス病、脊髄損傷	北川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
3	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ⑥》 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、気管支炎、肺炎、髄膜炎、小児感染症、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大、予防接種について	清水	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
4	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ③》 遺伝子病概論(遺伝病、配偶子病、多因子遺伝病、胎芽病、胎児病) 先天性心疾患(VSD、ASD、ファロー四徴症)	勝田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
5	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ④》 白血病、脳腫瘍、神経芽腫	長江	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
6	《小児特有の疾患 病態と診断・治療 ⑤》 二分脊椎、水頭症、てんかん(概論、West症候群)、脳性麻痺	長江	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
7	《内分泌系の疾患の病態と診断・治療 ①》 a. 間脳・下垂体疾患 b. 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎)	月山	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
8	《内分泌系の疾患の病態と診断・治療 ②》 c. 副甲状腺<上皮小体>疾患 d. 副腎皮質・髄質疾患 e. 腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌)	月山	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
9	《代謝異常の疾患の病態と診断・治療 ①》 a. メタボリックシンドローム、肥満症 b. 糖尿病	中村	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
10	《代謝異常の疾患の病態と診断・治療 ②》 c. 脂質異常症 d. 高尿酸血症、痛風 e. ビタミン欠乏症	中村	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
11	《高齢者の加齢的身体変化と病態の特徴》 生理的老化、病的老化、老化学説、老年症候群	中川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
12	《栄養障害と運動機能障害の病態の診断と治療》 a. 低栄養(PEM)、過栄養 b. 骨粗鬆症、骨折 c. サルコペニア d. 高齢者総合機能評価(CGA)	中川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
13	《体液調節の疾患の病態と診断・治療 ①》 a. 水・電解質の異常(脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症)	菱田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					
14	《体液調節の疾患の病態と診断・治療 ②》 b. 酸塩基平衡の異常(アシドーシス、アルカローシス)	菱田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。					

15	《腎臓系・男性生殖器系の疾患の病態と診断・治療 ②》 d. 腎・尿路結石 e. 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌) f. 前立腺(炎症、肥大、癌)	山田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
16	《認知症の診断と治療》 a. アルツハイマー型認知症 b. レビー小体型認知症	星野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
17	《認知症の診断と治療》 c. 血管性認知症 d. 前頭側頭葉変性症	曾我	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
18	《心臓の疾患の病態と診断・治療 ①》 a. 虚血性心疾患(狭心症、急性冠症候群)	黄	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
19	《心臓の疾患の病態と診断・治療 ②》 b. 心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症) c. 心不全(急性心不全、慢性心不全) d. 心タンポナーデ	水越	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
20	《心臓の疾患の病態と診断・治療 ③》 e. 不整脈(上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈) f. 炎症性疾患(感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎) g. 弁膜症(大動脈弁疾患、僧帽弁疾患)	水越	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
21	《血管系の疾患の病態と診断・治療》 a. 大動脈瘤、大動脈解離 b. 閉塞性動脈硬化症 c. 挫滅症候群 d. 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症	宮崎	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
22	《血圧異常の病態と診断・治療》 a. 動脈硬化症 b. 本態性高血圧 c. 二次性高血圧 d. 起立性低血圧	宮崎	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
23	《ショックの病態と診断・治療》 a. 心原性ショック b. 出血性ショック c. 血流分布異常性ショック	水野	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
24	《腎臓系の疾患の病態と診断・治療 ①》 a. 腎炎、慢性腎臓病 b. 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎) c. 腎不全	小波津	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
25	《女性生殖器疾患の病態と診断・治療①》 腫瘍:子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん	横道	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
26	《女性生殖器疾患の病態と診断・治療①》 腫瘍:子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん	横道	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
27	《女性生殖器疾患の病態と診断・治療②》 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫	近藤	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
28	《女性生殖器疾患の病態と診断・治療③》 乳腺炎、乳腺症、乳がん	黒田	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
29	《周産期における疾患の病態と診断・治療① 妊娠期の異常》 切迫流早産、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児機能不全	長谷川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。
30	《周産期における疾患の病態と診断・治療② 産科手術と産科救急》 帝王切開・無痛分娩と産科麻酔、周産期医療 《周産期における疾患の病態と診断・治療③ 産褥期の異常》 子宮復古不全、産褥熱、マタニティーブルーズと産褥うつ	長谷川	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。		
【成績の評価方法】		
中間試験:50% 定期試験:50% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用 (有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>)】		
【履修申請上の条件】		
特になし。		
【教科書】		
系統看護学講座 成人看護学 [3][6][8][9]医学書院 系統看護学講座 母性看護学[2]母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 医学書院		
【参考書】		
特になし。		
【オープンな教育リソース】		
特になし。		
【担当教員の実務経験】		
聖マリアナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。		
【オフィスアワー】		
授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。		
【教員連絡先】		
連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。		
【備考】		
授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。		

授業科目名	医療概論	担当教員名	上谷いつ子・三宅良彦・望月篤・松本伸行・黄世捷			
コード	22NBA214	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
医療を取り巻く変化は大きく、かつ多様化している。医療技術の高度化・複雑化に伴い、医療者自身の価値観による判断・行動が問われる課題は多い。この科目は、医療を学ぶイントロダクションとしての位置づけであり、講義を通して医学、医療、保健、福祉の基本理念を理解する。それぞれの歴史と現況、保健医療福祉システム、関わっている職種の役割・責務を学び、医療と付随する課題や医療の倫理的・社会的側面について考えを深める。また、将来医療に携わるものとしての自覚を持ち、学修する態度を身につけるために、医療の様々な側面を知り、患者の思いや立場に配慮しながら学ぶことの大切さを理解する。医療者としてどうあるべきかを考え、看護専門職者として対象を尊重する価値観・態度を養う。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	
1	社会において医療の基本理念、歴史的背景について説明できる。			○	○	
2	社会における医療の現状および課題を理解し、課題を達成するために必要な専門職の役割について説明できる。			○	○	
3	医療の仕組みを理解し、今後のあるべき将来像および医療者としてのあり方について論じることができる。			○	○	
4	医療者としての対象を尊重する価値観、態度について論じることができる。			○	○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	1. 科目ガイダンス : シラバス、ワークブック、学修ポートフォリオについて説明 2. 医療概論を学ぶ意義と医学・医療の歩み 1) 医療の役割と将来像 2) 医学・医療の歩みと歴史について	1. 上谷 2. 三宅	予習(60分): ①医学・医療の歩みと歴史、ヒポクラテス、ナイチンゲールについて調べ、課題用紙に整理する。 復習(60分): ①講義ノート、ワークブックを整理する。 ②医学・医療の歴史についてまとめる。 * 毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートに記入する			
2	「医の倫理」思想史 1. 古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」まで 2. パターナリズムとインフォームド・コンセント	望月	予習(60分): ①世界医師会のジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言について調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②医の倫理のキーワードについてまとめる。			
3	医療者としてのプロフェッショナリズム 1. プロフェッショナリズム 2. 医療倫理、利益相反	望月	予習(60分): ①プロフェッション、プロフェッショナリズムとはなにかについて調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②医療の専門職としての倫理観、倫理的行動のあり方についてまとめる。			
4	医療の現状と課題① 1. わが国の医療供給体制 2. 医療安全 3. 生命倫理	松本	予習(90分): ①厚生労働省のホームページにアクセスし、国民医療費の動向について最新のデータを調べ、課題用紙に整理する。 *「国民医療費・対国内総生産・対国民所得比率の年次推移」 復習(60分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②日本の医療提供体制や医療安全、尊厳死に関する現状と課題を整理する。			
5	医療の現状と課題② 1. 在宅医療 2. 歯端医療	松本	予習(60分): ①チーム医療の現状と課題について調べ、課題用紙に整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②チーム医療のあり方についてまとめる。			
6	医療の現状と課題③ 1. 医療者と患者	黄	予習(60分): ①患者-医療者関係におけるパターナリズム、相互主体的な関係、パートナーシップについて調べ、整理する。 復習(90分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②患者-医療者関係のあり方について自身の考えを整理する。			
7	医療の現状と課題④ 1. 医療の将来像 ～病院医療から地域在宅医療へ	黄	予習(60分): ①在宅医療、地域包括ケア、看取り等の現状と課題について調べ、課題用紙に整理する。 復習(60分): ①講義ノート・ワークブックを整理する。 ②住み慣れた地域で暮らすことの意味について考えを整理する。 課題(60分) ①第8回の事前課題提示: 次の授業のGWの準備を行う: 自己の考えを整理しておく。			

8	<p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療における看護専門職者の役割事例から学ぶ ～個人ワークとシェア 2. 医療者として看護専門職者としてのあり方グループディスカッション 3. 最終レポート課題について 	上谷	<p>予習(60分): ①これまでの授業を見直し、自分の意見がいえるように、テーマについて整理しておく。 復習(90分): ①グループ討議について参加度、貢献度、協調性等について振り返る(ループリック)。 ②講義ノート・ワークブックを整理し、レポート課題の準備を行う。</p> <p>最終レポート課題(180分) ①これまでの講義の中で興味・関心を抱いたテーマを1つ選び、現状と課題についてリサーチし、自身の考えについてまとめる。 ②「医療者としてのあるべき将来像」について自身の考えをまとめる。 *レポート様式、ル切等については講義中に提示する。</p>
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			授業前の日本医師会HP https://www.med.or.jp/ 、世界医師会HP
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	https://www.wma.net/ 、厚生労働省へアクセスし、事前課題に取り組み、授業に臨む。
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
課題のフィードバックは、授業内で行う。			
毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。			
【成績の評価方法】			
レポート(60%)、課題への取り組み・ポートフォリオ等の提出物(40%)による総合評価			
目標1・目標2・目標3 :授業後のレポート・各授業の学修ポートフォリオを評価する。			
目標3・目標4 :最終レポート課題により評価する。			
【レポート評価基準(ループリック評価)】			
・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、などの項目について評価する。			
・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。			
・ 剽窃行為は禁止 、評価対象外とする。			
【ポートフォリオ評価(ループリック評価)】			
・評価項目:①資料の有無、②整理、③順序性、④学修記録、⑤独自性・工夫、⑥保存性、について評価する。			
【ループリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
適宜資料を配布する。			
参考図書を必要に応じ活用すること。			
【参考書】			
千代豪昭, 黒田研二編集, 学生のための医療概論, 第3版, 増補版, 医学書院, 2019.			
小坂樹徳, 田村京子編著, 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度①現代医療論, 第3版, 2012.			
柳澤信夫著, 現代医学概論, 第2版, 医歯薬出版株式会社, 2016.			
小泉俊三他: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度1 総合医療論 医学書院, 2014.			
厚生労働省編: 厚生統計要覧, 厚生統計協会, 各年.			
厚生労働統計協会編: 国民衛生の動向 2022/2023, 一般財団法人 厚生労働統計協会			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
講師は医師と看護師であり、医療者としての臨床経験は豊富である。臨床での実践を踏まえ、医療全般の現状と課題について講義・演習を行う。			
【オフィスアワー】			
火曜日1限・2限、木3限・4限 昼休み Gmailでの問合せ可能			
【教員連絡先】			
iuetani@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
医学・医療の歴史を知ることは、現状と問題点を理解する上で基礎となる学習である。各種書籍やインターネットでの情報を活用して理解を深め、さらに、各種メディア、一般書で取り上げられる医学・医療に関する問題について常に関心を寄せ、その内容について積極的にアプローチする姿勢を期待している。			

授業科目名	保健医療福祉行政論	担当教員名	上田修代、戸塚恵子、渡辺羊子				
コード	22NBA215	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択		
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】 保健医療福祉行政論では、保健医療福祉行政の理念やしぐみを学ぶ。国民の生活実態に即して、保健・医療だけでなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学修する。社会保障制度では、医療保障、所得保障、公的扶助について学ぶ。社会福祉では、介護保険制度をはじめ、障害者福祉など、病気や障害を持ちながら住み慣れた地域で生活するための法律や制度を学び、必要なサービスや社会資源を適切につなげられるよう、知識を深める。さらに、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子どもと子どもを育てる家庭を支援するための福祉について学修する。							
【授業の到達目標・ディプロマポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 日本における社会保障の理念と目的、社会保障制度について説明できる。				○			
2 保健・医療・福祉に関する法や施策について説明できる。					○		
3 保健医療福祉制度の活用を支援するための看護師の役割について述べるができる。						○	
4 医療福祉に携わる多職種の役割と地域住民との協働のあり方について述べるができる。						○	
5 保健医療福祉を取り巻く現状と課題について説明ができる。					○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	・オリエンテーション 保健医療福祉を取り巻く現状と課題 1) 社会保障・社会福祉とは何か 2) 社会福祉をめぐる問題	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):日本の保健医療制度の身近な課題点を考えてくる。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
2	医療保障制度 1) 社会保険制度:公的医療保険制度	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):第2章「社会保障・社会福祉」を読んでおくこと。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
3	社会保険制度 1) 年金制度 2) 医療保険制度	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):第7章「社会保険制度」の年金制度と医療保険制度を読んでおくこと。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
4	高齢者に関する法や施策 1) 高齢者の福祉 2) 高齢者医療制度 3) 八王子センター元気の活動ボランティアの紹介	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):教科書p175~191、p232~236 を読んでおくこと。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
5	地域包括ケアシステム 1) 高齢者の現状と対策	上田 戸塚(恵) 渡辺 高齢者 ボランティア	予習(90分):八王子センター元気のボランティアの方々の自身の健康に対する思いなどインタビュー内容をまとめておくこと。				
6	2) 地域住民との協働(八王子センター元気の活動ボランティアメンバーへのインタビュー)		復習(90分):八王子センター元気の活動からの学びをノートにまとめる。				
7	地域包括ケアシステム 1) 八王子センター元気の活動インタビューから八王子市高齢者の健康課題を学ぶ(グループワークで話し合い、発表する)	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(90分):八王子センター元気の活動メンバーへのインタビュー内容から何が健康の源になっているのか考えまとめる 復習(90分):グループワーク学修を振り返り、ノート等にまとめておく。				
8	地域包括ケアシステム 1) 地域包括ケアシステム構築のプロセス 2) 多職種連携	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):関連する項目を熟読しておくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
9	介護保険制度 1 1) 介護保険制度の創設 2) 介護保険制度のしくみ	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):教科書p237~241読んでおくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
10	介護保険制度 2 1) 介護保険の利用手続き 2) 保険給付、サービス利用 ケアプラン作成 演習	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(90分):教科書p242~252まで読んでおくこと。 復習(120分):介護保険制度のケアプラン作成等、講義内容を振り返りノート等にまとめておく。 また、これまでの学修の復習をしておくこと。				
11	・小テスト(1回目~10回目までの確認テスト) 地域福祉の推進 1) 地域福祉の定義と理念 2) 地域共生社会への取り組み	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(120分):1~10回目までの講義内容を振り返り小テストに臨む学習を行っておく。 第4章「地域福祉の推進」を読んでおくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
12	子ども家庭福祉に関する法や施策 1) 子ども家庭福祉 障害児・医療的ケア児の支援 1) 障害者総合支援 2) 医療的ケア児の支援 地域で生活する子どもへの保健師の支援に関する事例提示	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):教科書p130~149、p158~174まで読んでおくこと。 復習(120分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
13	地域で生活する子どもへの保健師の支援に関する事例のグループワーク 1) 事例から捉える、子ども家庭福祉の法や制度を学ぶ 2) 地域で生活する子どもへの保健師の支援内容と法や制度との関連を学ぶ(グループワークで話し合い、発表する)	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(120分):前回提示された事例を熟読し、事例の中で分からなかった法や制度を調べ、また事例中 このような保健師の支援があったか等まとめておくこと 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
14	障害者に関する法や施策 1) 障害者福祉制度 2) 難病福祉	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):教科書p153~158読んでおくこと。難病福祉について調べておくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。				
15	公的扶助 1) 生活保護、生活困窮者対策 2) 雇用保険制度 3) 労災保険制度	上田 戸塚(恵) 渡辺	予習(60分):教科書p194~209、p253~267まで読んでおくこと。 復習(120分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。課題レポートに取り組む 課題レポートを授業内で提示するので、期日までに提出すること。 時間外学修時間は60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題のフィードバックは、個別もしくは授業内で実施する。		
【成績の評価方法】		
課題レポート 20% 小テスト:20% (当日受けることができない場合は、レポートとする) 定期試験:60% 合計:100% 課題提出遅延は、減点対象となる。		
【ルーブリック評価の活用 (有)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③「社会福祉と社会保障」 MCメディカ出版 図説 国民衛生の動向2022/2023厚生労働統計協会		
【参考書】		
ナーシング・グラフィカ「公衆衛生」健康支援と社会保障② MCメディカ出版 国民衛生の動向2022/2023 厚生労働省統計協会 必要時授業内で紹介		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
上田修代:保健所、市町村保健センター保健師として従事し、母子、精神、成人・高齢者、難病などの分野で健康課題を抱える住民への支援、新型コロナウイルス感染症などの感染症対策の実務経験を活かし講義を行う。 戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。 渡辺羊子:病院、保健所、市町村保健センター、職員健康管理部門などの実務経験を踏まえ、保健医療福祉制度が国民にどのように活用されているかいろいろな視点で教授する。		
【オフィスアワー】		
上田修代:(未定) 戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00 渡辺羊子:火～金 昼休み12:10～13:00		
【教員連絡先】		
上田修代:(未定) 戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 渡辺羊子:ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	保健医療福祉行政展開論		担当教員名	戸塚恵子・渡辺羊子・上田修代							
コード	22NBA216		区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択					
					○						
年次/期間	2年次/後期		単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】										
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。										
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。										
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。										
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。										
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。										
【授業の概要】											
保健医療福祉行政展開論では、保健医療福祉行政論を踏まえ、保健師として公衆衛生看護を实践するうえで必要な知識である保健医療福祉制度、行政のしくみ、行政と保健師活動等について理解を深める。個別支援については、高齢者支援等、生活支援をはじめ、介護保険サービス、ケアプランについて学びを深め、制度や社会資源を活用したケアマネジメントの実際について演習を通して学修する。また、保健医療福祉計画の策定、実施、評価など策定プロセスについて学修する。さらに、演習を通して、保健事業の企画・立案、実施、評価などのプロセスを体験し、保健師に求められている施策化能力の基礎を養う。											
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】											
							ディプロマ・ポリシー				
							①	②	③	④	⑤
1 保健医療福祉行政について説明できる。								○			
2 地域保健行政における保健師活動の役割が理解できる。									○		○
3 対象者に適した社会資源を選択し、ケアマネジメントの過程が説明できる。								○	○		
4 保健師活動における関係機関、多職種連携の意義が説明できる。										○	
5 保健医療福祉計画策定から評価に至るプロセスについて理解できる。								○			
【授業計画】											
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)								
1	オリエンテーション 1) 保健医療福祉行政について 2) 行政における保健師の役割と活動 * 実務経験の中から事例等紹介	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 教科書 第3章を熟読し、公衆衛生行政に関する主な法律をまとめておくこと。 【復習】(90分): 行政における保健師の役割と活動についてまとめておくこと。								
2	介護保険制度とケアマネジメント 1) 介護保険におけるケアプラン グループごとに高齢者・認知症・障害者の事例について、支援方法(社会資源・福祉用具・住宅改修等を含む)を検討し、国際福祉機器展における見学プランを検討する。	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 教科書 第5章C熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容の確認テストを実施すること。								
3	国際福祉機器展の見学 事例に適した福祉機器(住宅改修・福祉用具、福祉車両等)を検討しながら見学する。	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 国際福祉機器展の見学のための行動計画を立案しておくこと。								
4	要介護者・介護者・福祉職に紹介したり、提案できるものを探索する視点で見学する。	戸塚(恵) 渡辺 上田	【復習】(90分): 国際福祉機器展を見学した学びをまとめておくこと。								
5	国際福祉機器展から得た学びの共有 1) 高齢者・認知症・障害者事例ケアプラン作成① 国際福祉機器展の見学で得た学びから、事例のケアプランを検討する。	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 国際福祉機器展を見学した学びから、事例のケアプランを作成しておくこと。 【復習】(90分): 意見交換をし、気が付いたこと、不足していたことをワークシートに追加しておくこと。								
6	ケアプラン作成と発表 1) 高齢者・認知症・障害者事例ケアプラン作成② 国際福祉機器展の見学で得た学びから、事例のケアプランを検討する。 発表準備 2) ケアプラン発表と講評	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 事例のケアプラン発表に向け、準備をしておくこと。 【復習】(90分): 意見交換をし、気が付いたこと、学びをまとめておくこと。								
7	地域保健行政と保健師活動 1) 地域保健体系における都道府県と市町村の役割分担 2) 関係機関・多職種との連携 * 実務経験の中から事例等紹介	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 教科書 第4章を熟読し、都道府県型保健所・政令市保健所・市町村保健センターの役割や業務についてまとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容の確認テストを実施すること。								
8	保健医療福祉計画と評価 1) 地方公共団体の保険医療福祉計画 2) 保健計画の策定のプロセス 3) 保健医療計画の推進と評価 * 実務経験の中から事例等紹介	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(60分): 教科書 第6章を熟読し、保健計画策定プロセスについてまとめておくこと。 【復習】(90分): 授業全体の復習と課題レポートを行うこと。 * 授業外学習時間は、30時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。								
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫							
①: PBL (課題解決型学習)			○								
②: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○								
③: ディスカッション・ディベート											
④: グループワーク			○								
⑤: プレゼンテーション			○								
⑥: 実習・フィールドワーク			○								
【課題のフィードバック】											
課題のフィードバックは、授業内で行う。 リフレクションシートへの質問には、次回の授業もしくは個別にフィードバックする。											

<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験60%、課題レポート30%、グループワーク貢献度10%として評価する。 ※課題レポートについて、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。 合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用（有）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>1. 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 藤内修二他 医学書院</p>
<p>【参考書】</p> <p>1. ナーシンググラフィカ「社会福祉と社会保障」メディカ出版</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>戸塚恵子: 社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。 渡辺羊子: 病院、保健所、市町村保健センター、職員健康管理部門などの実務経験を踏まえ、保健医療福祉制度が国民にそのように活用されているかいろいろな視点で教授する。 上田修代: 保健所、市町村保健センター保健師として従事し、母子、精神、成人・高齢者、難病などの分野で健康課題を抱える住民への支援、新型コロナ感染症などの感染症対策の実務経験を活かし講義を行う。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>戸塚恵子: 月～金(水を除く) 昼休み12:10～13:00 渡辺羊子: 火～金 昼休み12:10～13:00 上田修代: 未定</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>戸塚恵子: ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 渡辺羊子: ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 上田修代: 未定</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	吉田 稔			
コード	22NBA217	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	公衆衛生学では、健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ここでは健康に関係する様々な要因を認識し、健康障害を予防するための一生を通じた様々な保健活動や産業活動に起因する疾病予防について学ぶ。さらに健康は環境、病因そして宿主(ヒト)のバランスの下で成立している。とくに人間の生命維持に不可欠なのは内部環境(人体の恒常性)に加え、外部環境(自然的環境、人為的環境)の保持である。しかし、我々を取り巻く外部環境は近年、多様化を模様し、人々の疾病構造や健康問題にも大きく影響を与えている。健康を取り巻く要因について個人レベル・集団レベルで学び、疾病の予防の在り方についても総合的に考える。□					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					①	②
1 健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明することができる。						○
2 我が国の健康状況の実態と疫学的概念を説明できる。						○
3 感染症の成立とその対策を説明できる。						○
4 種々な保健とその活動の意義について説明できる。						○
5 生活環境および住居環境に関する健康問題を説明できる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	「公衆衛生を学ぶにあたって」 ・公衆衛生の定義と役割や健康の概念を理解する。とくに「健康」については、グループ討論で理解する。	吉田	事前学習:「健康とは何か」を考え、完結にまとめる。(15分) 事後学習:講義とグループワークを踏まえて、「健康」を定義する。(10分) 復習(20分):授業内容を整理する。			
2	「ヘルスプロモーションと公衆衛生の歴史」 ・ヘルスプロモーションの基本理念と目的、意義を理解する。公衆衛生の歴史を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
3	「現代の健康問題」 ・健康日本21の目的を踏まえて、現代社会の生活基盤、ライフスタイルと健康との関係について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
4	「疫学」 ・疫学の概念、疫学研究方法、疫学の効果指標を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
5	「感染症とその予防」 ・感染症の現状、主な感染症とその対応、感染症対策のシステム、感染症患者の看護と保健活動について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
6	「母子保健」 ・母子保健の統計、地域母子保健対策の体系、主な母子保健施策について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
7	「学校保健」 ・学校保健の概要、目的、学校保健行政の内容(保健・安全・体育・給食)について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
8	「成人保健」 ・成人保健の意義と目的、健康問題の現状と課題、制度とシステムについて理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
9	「高齢者保健」 ・高齢者保健の目的と地域保健の役割、高齢者を支えるシステム・制度について理解する。 高齢者特有の健康に関する問題や社会での問題について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(5分):授業内容を整理する。			
10	「地域保健とソーシャル・キャピタル」 ・地域の保健活動、地域住民に対する保健サービス、その実現のための地域保健法を理解する。また保健活動におけるソーシャル・キャピタルの意義について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
11	「産業保健」 ・産業保健の目的と特徴、労働衛生関係法令の概要、職業性疾患とその予防対策について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
12	「食品保健」 ・食品保健の目的・制度について理解する。 健康栄養、食品管理、食中毒に関する課題について理解する	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
13	「環境保健」 ・地球環境の保全、我が国の公害問題、大気汚染に関する問題について理解する。 そして環境保全に関する基本理念や施策を定めた環境基本法を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
14	「生活環境と健康」 ・温熱要素と温熱指数、上水道と下水道、悪臭、騒音に関する健康や生活環境に関わる課題を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			
15	「住居環境と健康」 ・室内空気環境、シックハウス症候群・化学物質過敏症に関する健康問題を理解する。ごみ・廃棄物問題について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
フィードバックとして小テストまたは課題を実施し、解答の解説を行う。		
【成績の評価方法】		
課題:10% 中間テスト:40% 定期試験:50% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用 (無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
・公衆衛生がみえる2022-2023、メディックメディア		
【参考書】		
・「厚生指標・臨時増刊号ー国民衛生の動向ー」厚生統計協会(財) ・公衆衛生がみえる2020-2021、メ		
【オープンな教育リソース】		
本講義では使用しません。		
【担当教員の実務経験】		
本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。		
【オフィスアワー】		
月曜日 15:00～17:00		
【教員連絡先】		
myosida@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
事前・事後学習をしていただくこと強く望みます。		

授業科目名	健康教育学	担当教員名	渡辺羊子・戸塚恵子・新任教員					
コード	22NBA218	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
この教科では、健康づくりのために重要な方法の一つである健康教育の方法と実際を学ぶ。健康教育学の対象者は、妊産婦から子ども、成人、高齢者まであらゆる人々が対象となり、健康教育を行う場面も学校、企業、地域など様々である。対象者のニーズに合わせた健康教育が実施できるよう、知識と技術を学修する。また、健康教育では対象者が健康問題に気づき、主体的に自己の健康課題の解決に取り組む態度や、行動する力を育むことができるような援助技術を学修する。具体的には、健康教育の概念、コミュニティ・オーガニゼーション、自主グループやネットワーク、住民参加など地域力の向上を目指した健康教育の実施方法や媒体、企画・評価などについて、講義や演習を通して学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 健康教育の基本理念を述べることができる。					○			
2 健康行動に関する理論を述べることができる。					○			
3 あらゆる人々に応じた健康教育を述べることができる。						○		
4 あらゆる活動場面に応じた健康教育を述べることができる。						○		
5 健康教育の企画、指導案、評価の方法を述べることができる。					○			
6 対象や場の特徴をふまえた健康教育の企画をグループで行うことができる。						○		
7 健康教育の実演(発表)を実施することができる。						○		
【授業計画】								
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス 健康教育の理念 ・健康 ・健康教育の考え ・健康教育の目的、定義、理念 【講義】	渡辺	予習(60分)「個人の健康・集団の健康とは何か」を、考えノートにまとめる。 復習(60分)授業の振り返りを行い要点をノートにまとめる。					
2	健康教育の基礎理論 ・KAPモデル、健康信念モデル、行動変容ステージモデル、自己効力感等 【講義】	渡辺	予習(60分)「どうしたら行動に移すことができるのか」を、3つ以上考えノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
3	健康づくりにおける健康教育 ・保健・医療からの健康教育(健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、治療(悪化防止)、リハビリテーションと健康教育) ・健康づくりの考え方 ・健康づくりと国の動き 【講義】	渡辺	予習(60分)今まで学習してきた「健康づくり」関連することを調べ、調べた内容をノートにまとめる。授業内で確認問題を行うため、2回目までの復習をしておく。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
4	集団、個別の健康教育・健康相談 ・個別への健康教育・健康相談、集団への健康教育 ・コミュニティ・オーガニゼーション、自主グループ、ネットワークと健康教育 ・住民参加と健康教育 【講義】	渡辺	予習(60分)地域(身の回り)にどのような「健康に関するグループ」が存在しているか3つ以上調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
5	健康教育を行う対象と場 ・学校保健における健康教育 ・高齢期にある人々を対象とした健康教育 ・成人・働く人々を対象とした健康教育 ・親と子どもを対象とした健康教育 【講義】	渡辺	予習(60分)小中高高校生、母子、成人、高齢者の健康問題を新聞、教科書、統計資料等から調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
6	行動変容をうながすための健康教育 ・健康教育における心構え、マナー 【講義・ロールプレイ】	渡辺	予習(60分)「接遇マナー」について調べ、ノートにまとめる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
7	健康教育の方法 ・媒体、企画、指導案、評価、プレゼン方法につて 【講義】	渡辺	予習(60分)メディア、広報、掲示等身の回りにおける健康教育の資料を集めてくる。 復習(60分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノートにまとめる。					
8	健康教育の企画書作成 【演習】	渡辺・戸塚 ・上田	予習(60分)グループで健康教育を行うにあたり、テーマを考え参考となる資料を持参する。					
9			復習(180分)グループで企画書作成を仕上げをする。					
10	健康教育の指導案作成 【演習】	渡辺・戸塚 ・上田	予習(60分)指導案を考え、グループ演習がスムーズに進むようノートに要点をまとめる。					
11			復習(180分)グループで指導案作成を仕上げる。					
12	健康教育の媒体作成、発表の準備 【演習】	渡辺・戸塚 ・上田	予習(60分)媒体を考え、グループ演習がスムーズに進むようノートに要点をまとめる。					
13			復習(180分)グループで媒体作成と発表準備をする。					
14	健康教育の発表 【演習】	渡辺・戸塚 ・上田	予習(120分)発表の練習					
15			復習(60分)課題レポート「健康教育の演習からの気づきと学び」を800～1000字でまとめる。 *授業外学習時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
課題のフィードバックは授業内で行う。 知識の確認をするために、授業内に確認問題を実施する。		
【成績の評価方法】		
<p><評価基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「到達目標」に明示している、1・2・3・4を定期試験の評価基準とする。 ・「到達目標」に明示している、5・6・7は演習参加状況、発表内容で評価する。 ・課題レポートと演習は、ルーブリックを用いて自己評価・他者評価を行う。 <p><割合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験40%、課題レポート20%、演習の指導案、媒体作成、プレゼンの内容40% * 課題レポートは、遅れて提出した場合も受け取るが減点対象とする。 		
【ルーブリック評価の活用 (有)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
・医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版 2002		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・最新保健学講座<別巻1>健康教育論 宮坂忠夫 メヂカルフレンド社 2013 ・実践行動変容のためのヘルスコミュニケーション 奥原剛 大修館書店 ・健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか 近藤克則 医学書院 2022 ・行動科学—健康づくりのための理論と応用 畑栄一・土井由利子編 第2版.南江堂.2009 ・健康行動理論による研究と実践 一般社団法人日本健康教育学会 2019 他 適宜紹介		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
渡辺羊子: 大学病院の看護師の実務経験、地域保健(保健所・市保健センター)と学校保健(大学保健室)における多様な場で保健師として、実務経験を活かした授業を展開する。 戸塚恵子: 臨床看護、保健師(保健所・市町村保健センター)において行ってきた健康教育や保健指導の実務経験をもとに授業を展開する。 新任教員:		
【オフィスアワー】		
渡辺羊子: 火～金 12:10～13:00 戸塚恵子: 月・火・木・金 12:10～13:00 新任教員: 未定		
【教員連絡先】		
渡辺羊子: ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 戸塚恵子: ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 新任教員: 未定		
【備考】		
看護職は、いろいろな対象者や場面での健康問題に対し健康教育が欠かせません。今後、専門分野の看護を習得していきますが、実践に必要な健康教育の基礎を身に付けてください。健康教育のデモンストレーション演習もあります。学生の皆さんは、主体性をもって積極的に参加してください。		

授業科目名	保健統計学 I		担当教員名	吉田 稔			
コード	22NBA219		区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○	○		
年次/期間	1年次/後期		単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】	統計学は集団に関する数量的研究方法を対象とする科学であり、集団の特徴を数値で把握し、活用する学問である。この集団の取り扱いの違いにより記述統計学と推測統計学(推計学)に分けられ、集団の特徴が健康に関連するものであるものが保健統計学である。看護の領域でも、根拠に基づく看護evidence-based nursing (EBN) が求められている。統計学はその根拠を導き出す手法であり、医療現場で得られたデータの性質の把握やデータ間の比較のために解析に用いられる。集団における健康事象に関するデータ収集や解析に関する基礎的知識としての統計学を身につけるとともに、統計解析正しく行うための基礎的な考え方についても学ぶ。さらに疾患の原因の探索や予防法の評価に疫学が用いられており、統計的手法は疫学を学ぶための基礎となる。□						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー	
					①	②	③
1. 統計学の基礎的な考え方を説明できる。						○	
2. 基本統計量(平均、標準偏差など)の意味を理解し、計算方法と利用方法を説明できる。						○	
3. 確率分布、検定と推定、回帰分析について説明できる。						○	
4. 分析すべき問題に対し、適切な統計学的手法を用いて計算できる。						○	
5. 論文に記載された統計処理の意味を理解できる。						○	
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	統計学の基礎 ・母集団と標本、統計調査の種類を理解する。	吉田	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。				
2	データの整理 ・度数分布とヒストグラム、中心的傾向を示す指標、散らばりを示す指標を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
3	確率分布 ・正規分布、標準正規分布の応用、標本平均の分布、 χ^2 分布、t分布、F分布を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。				
4	区間推定 ・平均の区間推定、分散の区間推定を理解する	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
5	2群の平均値の比較-t検定- ・対応のない2群の差の検定と対応がある2群の差の検定を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
6	F分布検定-等分散検定- ・F分布を応用した等分散の検定と分散分析(3群以上の平均値の一様性を検定)を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
7	独立性の検定- χ^2 検定- ・2群の割合の差の検定、Yatesの補正、Fisher直接確率検定について理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
8	2つのデータの関わり合いを示す指標 ・ピアソン相関係数と回帰直線について理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)				エクセルを用いて統計解析をおこなう。			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○				
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】	フィードバックとして小テストまたは課題を実施し、解答の解説を行う。						
【成績の評価方法】	課題:10% 定期試験:90% 合計:100%						
【ルーブリック評価の活用(無)]							
【履修申請上の条件】	授業中に電卓を使用するので電卓を持ってくること。						

【教科書】 標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院
【参考書】 加納克己・高橋秀人共著:基礎医学統計学 改定第7版、南江堂 石村貞夫、劉晨、石村友二郎共著:やさしく学ぶ統計学 Excelによる統計解析 東京図書
【オープンな教育リソース】 本講義では使用しません。
【担当教員の実務経験】 本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。
【オフィスアワー】 月曜日 15:00～17:00
【教員連絡先】 myosida@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 事前・事後学習をしていただくこと強く望みます。

授業科目名	保健統計学Ⅱ	担当教員名	吉田 稔				
コード	22NBA220	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。 ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。 ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。 ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。 ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
統計は国民の健康状態の把握や健康に影響を及ぼす諸因子の解明などにも用いられ、我が国の保健衛生の向上に役立てられている。このような統計には人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計、医療統計などの衛生関連統計も含まれる。得られた統計データは国や都道府県などの衛生行政施策の基礎となるほか、外国との比較にも活用されている。ここでは毎年発行される「国民衛生の動向」をもとに保健統計データから我が国の健康(衛生)状態の現状や健康づくり対策などについて学ぶ。□							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 主な保健統計の概要を理解し、その目的を説明できる。					○		
2 人口静態・動態統計に関する統計調査より得られた統計指標から、健康の状況を説明できる。					○		
3 国民生活基礎調査、患者調査より得られた統計指標から、疾病の状況を説明できる。					○		
4 感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、医療経済統計など統計データから健康や疾病の課題を説明できる。					○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	人口静態統計 ・日本の人口、年少人口と老年人口、労働人口、配偶者人口、将来推計人口の現状と動向を理解する。	吉田	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。				
2	人口動態統計 ・出生、人口の増減、死亡、婚姻と離婚の現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
3	主要死因の統計 ・我が国の悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎、外因死(不慮の事故・自殺)の現状と動向を理解する。死因の国際比較によって我が国の健康課題を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。				
4	生命表 ・平均寿命と平均余命、健康寿命の現状と動向そして平均余命の計算方法を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
5	健康状態と受療状況 ・国民生活基礎調査による自覚症状、通院者、悩みストレスの状況や患者調査による推計患者数、受療率、平均在院日数の現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
6	感染症発生動向調査および食中毒統計 ・我が国における5類感染症疾患のうち全数把握対象疾患と定期対象疾患感染者の現状と動向を理解する。 ・食中毒統計調査に基づく食中毒事件に関する原因、患者数・死者数などの現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
7	国民健康・栄養調査 ・健康増進法に基づいて実施される国民生活基礎調査による身体状況、栄養摂取状況、生活習慣に関する現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(60分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
8	その他の統計調査ー医療経済統計ー ・国民医療費に関わる統計、介護サービス施設・事業調査に関する統計を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)							
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○					
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク							
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
フィードバックとして小テストまたは課題を実施し、解答の解説を行う。							

<p>【成績の評価方法】 課題:20% 小テスト:30% 定期試験:50% 合計:100%</p>
<p>【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】</p>
<p>【履修申請上の条件】 公衆衛生学の履修し、単位を修得していること。</p>
<p>【教科書】 ・「厚生指標・臨時増刊号－国民衛生の動向－」厚生統計協会(財)</p>
<p>【参考書】 ・標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院 ・公衆衛生がみえる2022-2023、メディックメディア</p>
<p>【オープンな教育リソース】 本講義では使用しません。</p>
<p>【担当教員の実務経験】 本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。</p>
<p>【オフィスアワー】 月曜日 15:00～17:00</p>
<p>【教員連絡先】 myosida@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】 事前・事後学習をしていくこと強く望みます。</p>

授業科目名	疫学	担当教員名	吉田 稔						
コード	22NBA221	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択				
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。								
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】	疫学とは人間集団を対象とし、その集団における健康に関連する状態や事象の分布や頻度を測定し、それに関わる要因を推測し、病気の予防・健康の増進に応用を研究する学問である。従来、疫学は急性感染症の流行を明らかにすること目的として発達した学問であったが、昨今は非感染性疾患および環境汚染に基づく健康障害、社会環境の変化に起因する疾患などの幅広い健康問題の原因解明に用いられるようになった。疫学を学習し、疫学的な考え方を身に付けることで、集団を対象とした健康や疾病に関する情報、とくに統計的な調査を正しく理解する力を養う。□								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 疫学の概念や考え方を説明することができる。						○			
2 疫学研究法とそのバイアスについて説明できる。						○			
3 スクリーニングの目的と意義について説明できる。						○			
4 疫学手法を用いて発生原因の探究ができる。						○			
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	はじめに ・疫学の考え方と歴史上の疫学の業績について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
2	疫学で用いられる指標-疾病頻度の指標- ・頻度の測定としての割合・率・比、罹患率、有病率、致命率、死亡率を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
3	疫学で用いられる指標-曝露効果の指標- ・相対危険、寄与危険の意味や相対危険、寄与危険の役割を理解する。オッズ比を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
4	疫学で用いられる指標-曝露効果の指標- ・相対危険、寄与危険の意味や相対危険、寄与危険の役割を理解する。オッズ比を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
5	疫学的研究法-記述疫学- ・主な記述要因とその目的、仮説の設定方法について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
6	疫学的研究法-分析疫学- ・生態学的研究、横断研究について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
7	疫学的研究法-分析疫学- ・症例対照研究による分析、症例および対照の選定、症例対照研究の長所・短所を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
8	疫学的研究法-コホート研究- ・コホート研究による分析、コホート研究の長所・短所を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
9	疫学的研究法-介入研究- ・介入研究の特徴、無作為割付と盲検法、クロスオーバー法、効果判定、地域介入研究を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(5分):授業内容を整理する。						
10	疫学研究における誤差 ・偶然誤差と系統誤差、精度と妥当性を理解する。選択バイアス、情報バイアス、交絡因子とその制御方法について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
11	疫学における因果関係の立証 ・因果関係の判定について理解する。 アウトブレイク時の流行調査の基本 ・アウトブレイクの定義、流行曲線による発生パターンの把握について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
12	スクリーニング ・スクリーニングの目的、検査の評価(感度と特異性)と評価におけるバイアスを理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
13	疫学の応用-生活習慣の疫学- ・生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布、危険因子を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
14	疫学の応用-社会疫学と政策疫学- ・社会疫学における社会格差の指標と健康関連について理解する。 ・政策疫学におけるハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチを理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						
15	疫学の応用-臨床疫学とEBN- ・臨床疫学と役割を理解する。EBM/EBNの定義とプロセスを理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】 フィードバックとして小テストまたは中間テストを実施し、解答の解説を行う。		
【成績の評価方法】 小テストまたは中間テスト:50% 定期試験:50% 合計:100% 【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】 保健統計学 I の単位を修得していることが望ましい。		
【教科書】 標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院		
【参考書】 柳川 洋、坂田清美 編集:「疫学マニュアル」南山堂 大木秀一 著:「基本からわかる 看護疫学入門」医歯薬出版		
【オープンな教育リソース】 本講義では使用しません。		
【担当教員の実務経験】 本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。		
【オフィスアワー】 月曜日 15:00～17:00		
【教員連絡先】 myosida@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】 事前・事後学習をしていただくこと強く望みます。		

授業科目名	看護学概論	担当教員名	天野雅美					
コード	22NPR301	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
<p>本科目は、看護の基盤を学修するにあたり理解しておきたい看護の歴史や概念について学修する。フローレンス・ナイチンゲールの活躍を原点として、看護の歴史の変遷を概観し、看護が看護学として発展した経緯や先人の活躍を学修する。特に主要な看護理論家の看護概念を学び、看護の定義を理解する。更に、自らの日常生活を振り返り、看護の対象である人間が生活する意味を理解することを目指す。看護の捉え方を示し看護学の概念を構成している人間、健康、環境、看護および看護の機能と役割について学習し、看護学の基本を理解する。個々の課題の取り組みをもとにして、グループワークで見分を広げ、発表会やレポートを通して看護観を養う。本科目の履修により、看護への興味を増し、関心が深まることで学習への動機づけを図る。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 看護の歴史の変遷を説明できる。								○
2 看護の概念を説明できる。				○				
3 看護の専門性、看護の機能・役割を述べる事ができる。							○	
4 看護の本質を考察できる。								○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス:看護学、基礎看護学、科目概要、看護を学ぶ意義 看護の歴史の変遷①:歴史を学ぶ意義	天野	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト1. 序章、第4章Aを読み、看護学を学ぶ動機と看護職のイメージや仕事内容をノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護を学ぶ意義と看護の歴史の変遷について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
2	看護の歴史の変遷②:看護職が活躍する場(発表)、医療・福祉・介護施設	天野	予習(90分):看護職が活躍する場について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
3	看護の対象①:人間の特徴、基本的欲求、人間と発達、人間と生活、学習支援	天野	予習(90分):テキスト1. 第2章を読み、看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的特徴をノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護の対象について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
4	看護の対象②:人間と生活(発表)	天野	予習(90分):人間と生活について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
5	健康のとらえ方①:健康に影響を与えるもの、健康の定義、健康・障害・生活との関連	天野	予習(90分):テキスト1. 第3章を読み、国民の健康状態と生活について、ノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、健康のとらえ方について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
6	健康のとらえ方②:健康に影響を与えるもの(発表)	天野	予習(90分):国民の健康について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
7	看護の提供者①:看護職の資格と養成制度、教育課程の変遷、	天野	予習(90分):テキスト1. 第4章BCDを読み、看護職の資格と養成制度をノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護の提供者について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
8	看護の提供者②:看護の資格と教育(発表)	天野	予習(90分):看護の資格と教育について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
9	看護の専門性①:看護のマネジメント、チーム医療	天野	予習(90分):テキスト1. 第6章を読み、看護サービスとは何かについてノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
10	看護の専門性②:看護方式(発表)	天野	予習(90分):看護方式についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
11	看護における倫理①:倫理の原則、ICN看護師の倫理綱領、日本看護協会の看護者の倫理綱領	天野	予習(90分):テキスト1. 第5章を読み、看護における倫理とは何かについてノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
12	看護における倫理②:倫理的事例(発表)	天野	予習(90分):倫理的事例についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
13	看護の理論①:看護の構成要素	天野	予習(90分):テキスト1. 第1章を読み、看護とは何かについてノートにまとめる。 復習(60分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					
14	看護の理論②:私たちが考える看護の構成要素(発表)	天野	予習(90分):看護の理論についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(60分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。					
15	看護の国際化と看護:看護における国際化の視点、国際社会における看護の対象、多様な文化と看護、国際協力活動と看護 看護の役割と機能・課題:看護の将来ビジョン	天野	予習(90分):テキスト1. 第7章を読み、看護の国際化の現状、看護専門職とは何か、期待される看護者像をノートにまとめる。 復習(60分):授業の第1回～第15回までの学びをノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	•Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> •課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 •レポート・レスポンスシートにコメントを入れて返却する。 		
【成績の評価方法】		
<p>7回のグループ課題35% (5点×7回=35点)、1回の個人レポート:65% (65点) 課題やレポートの取り組み内容が6割に満たない場合は、課題の再提出を課す。 合計:100%</p>		
【ルーブリック評価の活用 (有)】		
【履修申請上の条件】		
•特になし。		
【教科書】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論, 医学書院, 2023. 2. フローレンス・ナイチンゲール著, 小玉香津子, 尾田葉子訳:看護覚え書きー本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会, 2023. 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯横ます, 小玉香津子訳:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版, 2023. 		
【参考書】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮脇美保子編:新体系看護学全書 基礎看護学[1] 看護学概論, メヂカルフレンド社. 2. 松木光子編著:看護学概論, ヌーベルヒロカワ. 		
【オープンな教育リソース】		
•特になし。		
【担当教員の実務経験】		
•看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。		
【オフィスアワー】		
•B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00		
【教員連絡先】		
•mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること		
【備考】		
•本科目の単位修得が、2学年への進級要件となっている。		

授業科目名	基本援助技術	担当教員名	安藤幸枝・高山由利江・天野雅美・本田智子					
コード	22NPR302	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
<p>具体的には、人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、一般的な手順に加え、科学的根拠を踏まえた技術の修得をめざす。技術項目は看護技術に共通しているコミュニケーション、感染予防技術、観察の技術、環境調整の技術、ボディメカニクスと安楽な体位の援助技術などである。特に、コミュニケーションや感染予防の技術は全ての援助技術に共通する援助技術であり、看護師として対象である患者の生活を支援する上で最も基本となる技術である。看護技術は、安全・安楽・自立という看護の原理原則に則り、対象者の個性をふまえて実施される。単に技術を実施するのではなく、演習を通して対象者とのコミュニケーション、対象者の観察、エビデンスをふまえた安全で安楽な技術の修得をめざす。授業ではワークシートや援助計画書等を使用し、援助前から計画的に学修し、振り返りができるようにする。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 看護技術の概念を説明できる。					○			
2 看護の共通技術となるコミュニケーションに必要な知識と方法を説明できる。				○		○		
3 日常生活援助技術の基本となる対象者の安全、安楽を守る技術を実施できる。					○	○		
4 患者・看護者の役割体験から学んだ内容を述べるができる。				○		○		
5 自己の看護技術を振り返り、課題を述べるができる。					○	○		
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	<p>ガイダンス: 演習での学習方法と実習室の使い方を学ぶ (演習の進行、身だしなみ・実習室の使用法、評価等)</p> <p>1. 看護技術の概念 看護技術の基本原則と習得のプロセス 2. 対象理解のための観察 対象者の全体をみるとは 3. コミュニケーション① コミュニケーションに関する基礎知識 <講義> コミュニケーションの意義と目的、構成要素、 関係構築のためのコミュニケーション</p>	安藤	予習(15分): シラバスを熟読する。 復習(30分): 授業内容を振り返り、資料やノートを整理する					
2	<p>4. 感染防止の技術 <講義> スタンダードプリコーションと感染経路別予防策</p>	安藤	予習(15分): 指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分): 授業内容を振り返り、整理する					
3	<p>5. 環境調整技術 ① <講義> 療養生活の環境と援助の実際</p>	高山	予習(15分): 指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分): 授業内容を振り返り、整理する					
4・5	<p>4. 感染防止の技術② 【演習】 患者・医療者双方を守る安全の技術(手洗い・PPE) 流水による手洗い、手指衛生、マスク・アイガード・エプロン・ 手袋の装着と脱着</p>	安藤他	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む					
	<p>3. コミュニケーション② 【演習】 関係構築のためのコミュニケーション</p> <p>5. 環境調整技術 ② 【演習】 療養生活の環境と援助の実際</p>	安藤、高山他	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む					
6	<p>6. 活動・休息援助技術 ① <講義> 基本的活動の基礎知識(ボディメカニクスとよい姿勢、体位) 運動機能の低下した人への援助に関する基礎知識 移動を援助する方法</p>	天野	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、整理する					
7	<p>6. 活動・休息援助技術 ② 7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ① <講義> 休息の援助に関する基礎知識(睡眠の援助 含む) 体位保持(ポジショニング) 巻法</p>	天野	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、整理する					
8・9	<p>6. 活動・休息援助技術 ③ 【演習】 ボディメカニクスを活用による体の動きの体感 【演習】 体位変換 左右への移動 仰臥位から側臥位 側臥位から仰臥位 仰臥位からファーラー位 仰臥位から長坐位 長坐位から端坐位 端坐位から立位 端坐位から仰臥位</p>	天野他	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む					
	<p>7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ② 【演習】 ポジショニング・巻法 仰臥位 側臥位 半側臥位 ファーラー位 氷枕・氷嚢の作成</p>	天野他	予習(30分): 指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(15分): 授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む					

10・11	5. 環境調整技術 ②・③ 【演習】 臥床患者のシーツ交換と環境整備	高山	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む (事例にあわせた)援助計画書の立案 復習(15分):授業内容を振り返り、ワークや援助計画書の整理をする 【課題】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
12・13	6. 活動・休息援助技術 ④⑤ 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー① 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー②	天野他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(15分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む	
14・15	【技術確認】 臥床患者のシーツ交換 基本技術のまとめ	高山・安藤他	予習(60分):技術確認は、事例をもとに、学生間で援助計画書を立案し、技術の練習をする。 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	Webでの事前課題や確認課題の配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できるよう工夫をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
事前課題は、講義・演習に使用し、授業内や次回授業時に、適宜フィードバックをおこなう。				
【成績の評価方法】				
総合評価は、筆記試験80%、技術確認20%とする。 合計100% 技術確認は、個人の援助計画書と取り組み度合いを加味して評価する。 評価視点は、授業内で伝える。【ルーブリック評価(無)】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
茂野 香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I, 医学書院, 2023. 任 和子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【3】 基礎看護技術 II, 医学書院, 2023. 医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア, 2018.				
【参考書】				
講義・演習の中で適宜紹介する				
【オープンな教育リソース】				
特になし 必要時、クラスルームで事前に確認する動画コンテンツ等は紹介する				
【担当教員の実務経験】				
看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する				
【オフィスアワー】				
注意事項…事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。 ➤ メール受付時間 : 平日 9:00~19:00 ➤ メールタイトル(件名) : ①科目名「基本援助技術」②学籍番号 ③氏名を記載する。 ➤ 宛名とメール内容 : ④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。				
【教員連絡先】				
安藤:yando@g.t-junshin.ac.jp、高山:ytakayama@g.t-junshin.ac.jp、天野mamano@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
1年次後期の基礎看護技術実習に向けて、本科目を履修しておくことが望ましい。 演習前には、援助計画書を記載する。 身支度を整え、手洗いを済ませた状態で、演習を開始する。 演習室に入室する場合は、規定の演習室の使用方に準じる。 Webサイトへの登録・入室の方法は、初回ガイダンス時に説明するため、事前に大学のGmailに登録しておくこと。				

授業科目名	生活援助技術	担当教員名	天野雅美・高山由利江・安藤幸枝・本田智子			
コード	22NPR303	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
<p>本科目は、看護を必要としている人々に対して、的確な看護判断のもとで、確実に実践できる基礎的能力を養うものである。</p> <p>具体的には、人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、一般的な手順に加え、科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。</p> <p>技術項目は対象の日常生活を支える清潔の援助(寝衣交換、部分浴、清拭、洗髪)、排泄の援助、栄養と食事援助、観察の援助技術であり、生活援助に関わる技術を中心に学修する。</p> <p>生活の援助技術は、安全・安楽・自立という看護の原理原則に加え、個別性が大きく問われてくる技術でもある。また、1つの援助技術で完結することもあるが、複合的に組み合わせられ実施される技術でもある。そこで本授業では、各自が清潔の援助技術を中心に心地よさや個性の追求に向け、援助に課題を見出し、課題解決学習をおこなう。グループで課題解決のための演習や話し合いの時間を設け、心地よさの追求や個別性について学んだことをクラスで共有する時間を設ける。複合的な援助については、事例にあわせて1年次に学修した援助内容を組み合わせるグループで援助計画書を立案し、実施することをおこなっていく。これにより、より実践的に援助することができるように学修をしていく。</p>						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
			ディプロマ・ポリシー			
			①	②	③	
1 日常生活援助技術を実施するために必要な知識と方法を説明することができる。				○	○	
2 日常生活援助技術を安全・安楽・自立に基づき実施することができる。			○	○	○	
3 看護師、患者の役割体験から学んだ内容を述べるができる。			○		○	
4 自己の看護技術を振り返り、課題を述べるができる。			○	○	○	
5						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1・2	<p>ガイダンス:本時の学習方法・進め方(演習の進行、評価について)</p> <p>1. 観察の技術 一般状態のアセスメント① :バイタルサイン測定</p> <p>【講義】バイタルサインに関する基礎知識(体温・脈拍・呼吸に関する基礎知識)</p>	天野	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):授業内容を振り返り、整理する</p> <p>授業で確認した動脈を必ず自宅で触れてくる(触知してくる)</p>			
3・4	<p>1. 観察の技術 一般状態のアセスメント② :バイタルサイン測定</p> <p>バイタルサインの測定・観察方法</p> <p>【演習】バイタルサイン測定① 体温・脈拍・呼吸・血圧(触診法)</p>	天野他	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>血圧計のコックのおろし方を練習する</p>			
5・6	<p>1. 観察の技術 一般状態のアセスメント③ :バイタルサイン測定</p> <p>バイタルサインの測定・観察方法</p> <p>【演習】バイタルサイン測定 血圧(触診法)→聴診法</p> <p>一連の流れで測定する</p>	天野他	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>事後演習課題に取り組む</p>			
7・8	<p>2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ①</p> <p>【講義】衣生活の援助に関する基礎知識/衣生活を整える方法</p> <p>清潔援助に関する基礎知識</p> <p>清潔を整える方法(入浴・シャワー浴・足浴・清拭・陰部洗浄・口腔ケア)</p> <p>整容</p>	高山	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):授業内容・確認テストを振り返り、整理する</p>			
9・10	<p>2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ②</p> <p>【演習】足浴</p> <p>臥床、座位</p>	高山他	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):援助計画書の作成</p> <p>授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>援助計画書の修正</p>			
11・12	<p>2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ③</p> <p>【演習】洗髪</p> <p>クレーパッド、洗髪台、洗髪車</p>	高山他	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):援助計画書の作成</p> <p>授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>援助計画書の修正</p>			
13・14	<p>2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ④</p> <p>【演習】寝衣交換</p>	高山他	<p>予習・復習(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>援助計画書の作成(浴衣タイプ→甚平タイプ)</p> <p>授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>援助計画書の修正</p>			
15・16 17	<p>2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑤</p> <p>【演習】寝衣交換・清拭②</p>	高山他	<p>予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む</p> <p>復習(各30分):援助計画書の作成(浴衣タイプ→甚平タイプ)</p> <p>授業内容を振り返り、課題の整理</p> <p>【課題・提出】</p> <p>演習に関するワークに取り組む</p> <p>援助計画書の修正</p>			
18	<p>【技術の統合/課題学習】</p> <p>事例:Aさん22歳 39.3℃ 背部に発汗がみられ、軽度息切れが見られる。軽度の頭痛がある。体の向きは声をかければ変えることはできるが、座位はできないという。「背中がべたべたして気持ち悪い。シーツも湿っている感じがする。暑いし、頭痛も痛い」とナースコールで訴えてきた。</p> <p>※Aさんは、1時間ほど前に悪寒戦慄があったため、足元に湯たんぽを使用し、毛布をかけていた。現在も掛物は先程のままであった。</p> <p>事例を読んで、必要な援助をグループで考え、文献を使って援助の根拠をふまえて援助計画を立案する。</p> <p>29・30回目に発表する。</p>	天野他	<p>予習(60分):</p> <p>① 既習学修の振り返り(援助計画書の見直し含む)</p> <p>② Aさんにどんな援助が必要なのか、考えてくる</p> <p>③ Aさんに必要な援助の根拠となる文献を探す</p> <p>復習(60分以上):グループ</p> <p>① グループメンバーが持ち寄った文献を各自がしっかりと読み、理解する。</p> <p>② グループで話し合ったAさんへの援助計画書を立案する(グループで立案する)</p> <p>→ 後日提出(評価対象)</p> <p>③ ②にしたがってAさんへ援助を実施する(グループごとに練習する)</p> <p>→ 後日実施(評価対象)</p>			

19	3.「食べる」と「排泄すること」の援助 ① 3-1) 食事の援助(経口的栄養摂取)① 【講義】 食事・栄養状態に関する基礎知識 食事の援助方法	天野	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 復習(30分):授業内容・確認テストを振り返り、整理する
20	3.「食べる」と「排泄すること」の援助 ② 3-2) 排泄の援助① 【講義】 排泄に関する基礎知識 / 自然排泄を促す援助 / 床上排泄の援助方法 / オムツ交換	天野	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 復習(30分):授業内容・確認テストを振り返り、整理する
21・22	【技術の統合/課題学習】 事例:Aさん22歳 39.3℃ 背部に発汗がみられ、軽度息切れが見られる。 軽度の頭痛がある。体の向きは声をかければ変えることはできるが、 座位はできないという。 「背中がべたべたして気持ち悪い。シーツも湿っている感じがする。 暑いし、頭も痛い」とナースコールで訴えてきた。 ※Aさんは、1時間ほど前に悪寒戦慄があったため、足元に湯たんぽを使用し、毛布 をかけていた。現在も掛物は先程のままであった。 立案した援助計画をもとに患者に実施する。 29・30回目に発表する。	天野他	予習(各30分):グループで話し合ったAさんへの援助計画書をもとにグループメンバーでAさんへの援助 を実施する 復習(各30分):根拠をもとに援助が組み立てられているかどうかを確認し、援助計画書に修正を加える 援助計画書をもとに、援助ができるように練習を重ねる 発表会に向けた準備を行なう。
23	3.「食べる」と「排泄すること」の援助 ③ 3-1) 食事の援助(経口的栄養摂取)② 【演習】 食事援助と口腔ケア	天野他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前 復習(30分):課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
24・25 26	3.「食べる」と「排泄すること」の援助 ④ 3-2) 排泄の援助② 【演習】 便器・尿器を使用した排泄の援助 オムツ交換排泄の援助(便・尿器・オムツ交換)	天野他	予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前 復習(各30分):課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
27・28	3.「食べる」と「排泄すること」の援助 ⑤ 3-2) 排泄の援助③ 2. 清潔にし、身だしなみを整える技術 ⑥ 【演習】 陰部洗浄	天野他	予習(各30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前 復習(各30分):課題に取り組む 援助計画書の作成 授業内容を振り返り、課題の整理 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の修正
29・30	生活援助技術まとめ① 【事例演習発表会】技術の統合 実際の発表に加え、留意点や工夫点をプレゼンテーションする。 【インベントリ】 【授業評価アンケート】	天野他	予習(各30分):18・21・22回で取り組んできた内容のグループ発表会 復習(各30分):他のグループ発表を見て、また自身のグループ発表を終えて、自分たちの立案した計画 は妥当だったのか振り返りをする。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫 をする。 事例に合わせて、援助を統合させて実施する視点を学ぶ。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】 事前課題は、講義・演習に使用し、適宜フィードバックをおこなう			
【成績の評価方法】 筆記試験70% 事例演習発表会・取り組み20% 課題学習・取り組み10% 合計100% 【ルーブリック評価(無)】評価視点は、授業内に配布する。			
【履修申請上の条件】 特になし			
【教科書】 茂野 香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I, 医学書院, 2023. 任 和子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【3】 基礎看護技術 II, 医学書院, 2023. 医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア, 2018.			
【参考書】 適宜、講義・演習時に紹介する			

【オープンな教育リソース】 特になし（動画コンテンツを紹介することがある。）
【担当教員の実務経験】 看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する
【オフィスアワー】 事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。 ▶ メール受付時間 : 平日 9:00～19:00 ▶ メールタイトル(件名) : ①科目名「生活援助技術」 ②学籍番号 ③氏名を記載する。 ▶ 宛名とメール内容 : ④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。 ※課題の提出確認は、原則自己管理とする
【教員連絡先】 天野mamano@g.t-junshin.ac.jp、高山:ytakayama@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 1年後期の基礎看護技術実習に向けて、本科目を履修しておくことが望ましい。 演習における準備品は、授業内もしくはWeb上のGoogleクラスルームで伝達する。 Webサイトへの登録・入室の方法は、初回ガイダンス時に説明するため、事前に大学のGmailに登録しておくこと。

授業科目名	診療援助技術	担当教員名	安藤幸枝・天野雅美・本田智子・高山由利江					
コード	22NPR304	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
本科目では、看護を必要としている人々に的確な看護判断のもとで確実に実践できる、基礎的能力を身につける上で基盤となる看護技術力を養うものである。1年次に学修した生活援助技術を基本に、健康問題を持つ対象が外来や入院中に体験する検査や治療に伴う基礎的看護技術について、患者・看護者体験やモデルを活用しながら援助の必要性と援助方法について学ぶ。対象者の安全・安楽に配慮しながら科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。また、看護技術の習得のみならず、医療事故の事例と危険を排除する考え方から、検査や治療に携わる看護者としての役割についても学びを深める。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 治療・検査を受ける対象の理解と看護の役割について述べるができる。					○			
2 検査・治療に関連する援助の方法とその根拠を説明でき、かつ主な援助技術を実施できる。					○			
3 身体的侵襲を伴う検査・治療に伴うリスクおよびリスク回避の方法について述べるができる。					○			
4 看護師、患者の役割体験から学んだ内容を表現できる。						○		
【授業計画】								
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1・2	ガイダンス:本時の学習方法・進め方(演習の進行、評価について) <講義> 1. 感染予防の技術 スタンダードプリコーション・無菌操作・洗浄・消毒・滅菌に関する基礎知識 感染性廃棄物の取り扱い <講義> 2. 検査に伴う看護技術(生体検査全般)SpO2モニター 治療・検査時の看護者の役割	安藤	予習各(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する。 テキストリーディング1 (感染予防) p. 64-p.101 2 (診察・検査・処置) p.436-p.455 <※テキストリーディング: 下段の「教科書」参照>					
3・4	【演習①】感染予防と無菌操作 滅菌手袋の装着とガウンテクニック 滅菌物の取り扱い	安藤他	予習各(60分):演習に該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(60分)					
5・6	<講義> 3. 食事援助技術 ① 非経口的栄養法/中心静脈栄養法 非経口栄養法で食事を摂取する対象への援助 経鼻チューブによる栄養摂取の援助技術 <講義> 4. 排泄援助技術 ① 排尿障害・排便障害に関する基礎的知識 排尿障害・排便障害に対する具体的な援助方法(浣腸・導尿)	安藤	予習各(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 テキストリーディング3.(食事) p.29-p.61 4. (排泄) p.65-p.102 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(60分)					
7・8	3. 食事援助技術 ② 【演習】 ・経鼻胃チューブ挿入の確認方法 ・経鼻胃チューブの固定 経管栄養中の姿勢、留意すること(注入速度含む)	安藤他	予習各(60分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)					
9・10	4. 排泄援助技術 ② 【演習】 ・一時的導尿	安藤他	予習各(60分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)					
11・12	4. 排泄することに関連した治療的な看護技術 ③ 【演習】 ・浣腸	安藤他	予習各(60分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)					
13・14	<講義> 5. 与薬の技術 ① 薬物療法を受ける対象への基礎知識(経口・経皮・点眼・吸入・注射) 薬物投与の具体的な援助方法/与薬の6R 薬効と副作用(有害事象)の観察	安藤	予習各(60分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分) テキストリーディング 5-①.(与薬) p.310-367					

15・16	<p><講義> 5. 与薬の技術 ② <輸血管理></p> <p><講義> 6. 症状・生体機能管理技術 検体検査 SpO₂モニター 静脈血採血法</p>	安藤	<p>予習各(60分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り込む。 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する</p> <p>テキストリーディング 5-②.(輸血) p.369-370 6. (検査) p. 406-434</p>
17・18	<p>5. 与薬 ③ a.注射法(皮下注射) 【演習】 薬物の確認方法/注射器で薬液を吸う 腕モデルを使用した皮下注射 (部位の選定) 患者確認/実施</p>	安藤他	<p>予習各(60分):演習の該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み(30分)</p>
19・20	<p>7. 呼吸を整える看護技術 ①</p> <p><講義> 呼吸を整えるための基礎的知識 排痰法(体位ドレナージ、ハフニング、吸引) 酸素療法・吸入療法</p>	安藤	<p>予習各(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み テキストリーディング 7. p.234-278 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み(30分)</p>
21・22	<p>*技術確認 与薬 <皮下注射> (6R、薬剤確認、無菌操作、準備)</p>	安藤他	<p>予習各(60分):与薬に関する単元の知識や技術を再確認する。提出課題に取り組み、技術確認の準備を行う。 復習各(60分):演習内容・技術の振り返り、理解できた技術や自己の課題を明確にしておく。 技術確認の詳細に関しては、別途「要項」を配布する。</p>
23・24	<p>7. 呼吸を整える看護技術 ② 【演習】 酸素療法(酸素ボンベ・マスク&カヌラの取り扱い) 中央配管による酸素療法 一時的吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引)</p>	安藤他	<p>予習各(60分):演習の該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み各(30分)</p>
25・26	<p>5. 与薬 ④ b.注射法(点滴) 【演習】 薬物の確認方法/点滴準備 腕モデルを使用した部位 (静脈)の選定 患者確認/刺入/固定&ラインの適切な取り扱い 滴下調整</p>	安藤他	<p>予習各(60分):演習の該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み各(30分)</p>
27・28	<p>【演習】 5. 生体検査<静脈血採血></p> <p>【技術試験】のまとめと振り返り 診療の補助に関する技術の振り返りと習熟度の確認</p>	安藤他	<p>予習各(60分):演習の該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み各(30分)</p>
29・30	<p>8. 創傷管理技術 <講義> 創傷管理・包帯法に関する基礎知識 褥瘡の予防と処置</p> <p>【演習】 包帯法(巻軸包帯の取り扱い・環行帯・らせん帯)</p> <p>診療の補助技術 まとめ</p>	安藤他	<p>予習各(60分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組み テキストリーディング 8 p.280-306 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組み(30分)</p>
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
・事前課題、演習での振り返り内容、確認テストなどに関して、講義・演習時に、原則フィードバックを行う。 また、Google classroomに掲示も行う。			
【成績の評価方法】			
総合評価は、筆記試験70% 技術確認<ループリック評価>10% 事前課題(根拠の提示)10% 参加態度10%とする。			
技術確認については、演習計画書や評価表を持参し、自己の目標や課題を明らかにしたうえで参加する。 事前課題(演習計画書を含む)については、文献を活用し、根拠(エビデンス)を必ず明記すること。 参加態度は、身だしなみをはじめ、演習への取り組みやメンバーとの協働、演習記録の提出状況、課題提出期限を含む。			
※再試験は総合評価で60%を満たさない場合に実施する。			
【ループリック評価:有<技術確認時>】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
①茂野香おる他著(2020). 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I. 医学書院 1年次と同様 ②任和子他著(2020). 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II. 医学書院			
・医療情報科学研究所編(2018):看護がみえるVol.2 臨床看護技術, メディックメディア.			

<p>【参考書】</p> <p>・医療情報科学研究所編(2018):看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア.</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>看護roo! 動画でわかる看護技術 https://www.kango-roo.com/mv/</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>12:10～13時、必ずアポイントを取ってください。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>yando@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>演習に備えて、必ず事前課題に取り組む。 前週の演習・学習内容について、課題をWeb上で実施する。 演習は、身支度を整え、手洗いを済ませた状態で開始とする(昨年度と同様)。 演習は、準備から片付けまでが一連の学習である(準備・片付け等で演習室に入室する場合は、規定の演習室の使用 방법에準じる)。 演習にあたり、準備する物品がある場合は授業内もしくはWeb上(Google classroom)で伝達する。 Webサイトへの登録・入室の仕方については、初回ガイダンス時に説明する(事前に大学のGmailに登録しておく)。 (※旧カリキュラム「看護技術演習Ⅱ」を未修得の学生は、本科目を読み替える。また、旧カリキュラム生の場合、この科目が「基礎看護学実習Ⅱ」の先修要件となっている)</p>

授業科目名	看護とコミュニケーション	担当教員名	天野雅美					
コード	22NPR305	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
<p>本科目は、コミュニケーション論や基本援助技術で学修した基本的知識に基づき、看護実践に必要なコミュニケーションの理論と方法について学ぶ。また、特に、対象—看護者関係に焦点を当て、信頼関係を構築するための基本的な内容を学び、さらに援助的コミュニケーションについて学修する。看護者が用いる質問の方法や誠実な対応、共感的理解に焦点を当て、沈黙の意味やコミュニケーションの時間帯などを学ぶ。看護者に求められるコミュニケーションは、相互作用であること、挨拶や身だしなみなどの基本的態度が求められること、コミュニケーションの成立から関係性の構築が必要であること、コミュニケーションに障害を持つ患者には様々な状態があり、それらの障がいに応じてコミュニケーションの対応の特徴があること、などを含めて一連の内容がコミュニケーションスキルに繋がることを学修する。ロールプレイングを実施し、その体験を逐語録にして、自分のコミュニケーションの過程を振り返り、よりよいコミュニケーションを考える。</p>								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1	コミュニケーションの目的を想起できる。			○			○	
2	接近的コミュニケーションの原理を説明できる。			○		○		
3	効果的なコミュニケーションの技術を説明できる。					○	○	
4	コミュニケーション障害がある人への対応を考えることができる。					○		
5	ロールプレイングにより自己の特徴を述べるができる。			○		○		
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	【ガイダンス】 1. コミュニケーションの目的の想起 1) 看護や医療におけるコミュニケーションの目的・特徴 2) 対人関係プロセスとしての看護 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト第1章A.コミュニケーションの意義と目的、B.コミュニケーションの構成要素と成立過程を復習する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
2	1. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 1) ケアリングの概念と今日の意味 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):看護学概論第1章B.看護の役割と機能を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
3	1. 関係構築のためのコミュニケーション__① 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
4	1. 関係構築のためのコミュニケーション__② 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
5	1. 効果的なコミュニケーションの実際__① 1) 傾聴 2) 情報収集 3) 説明 4) アサーティブネス 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
6	1. 効果的なコミュニケーションの実際__② 1) 傾聴 2) 情報収集 3) 説明 4) アサーティブネス 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
7	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__① 1) コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング	天野	予習(60分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					
8	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__② 1) コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング 3. まとめ 授業評価アンケート	天野	予習(60分):テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		•Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、Google formsにより学修の理解度を確認する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
<ul style="list-style-type: none"> •課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 •フィードバックとして、毎回の課題にコメントを入れて返却する。 		
【成績の評価方法】		
課題レポートや毎回の課題とロールプレイングの取り組み:100%(提示された課題に折り組んでいない場合、減点対象となる。課題の取り組み内容が6割に満たない場合は、再提出を課す。) 合計:100% 【ルーブリック評価の活用(有)】		
【履修申請上の条件】		
•特になし。		
【教科書】		
1. 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I, 医学書院, 2023. (1年前期に購入済み) 2. 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]基礎看護学概論, 医学書院, 2023. (1年前期に購入済み)		
【参考書】		
1. 宮脇美保子編:新体系看護学全書 基礎看護学[1] 看護学概論, メヂカルフレンド社. 2. 松木光子編著:看護学概論, ヌーベルヒロカワ.		
【オープンな教育リソース】		
•特になし。		
【担当教員の実務経験】		
•看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。		
【オフィスアワー】		
•B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00		
【教員連絡先】		
•mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること		
【備考】		
•特になし。		

授業科目名	看護展開論	担当教員名	天野雅美					
コード	22NPR306	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
本科目は、これまでの看護学概論、共通援助技術・生活援助技術、フィジカルアセスメントでの学修を統合し、形態機能学や疾病治療論の知識を加えて、看護を系統的に実践するための思考過程に沿った看護過程のツールを学修し、看護を展開する基礎を学ぶ。看護過程が、対象の健康の保持・増進、健康上の問題・課題を解決するための道筋を示し、科学的に看護実践を進めるための問題解決方法であることを理解する。健康が障がいされた対象の個別的状態の身体的・精神的・社会的側面に応じた看護を実践できるようになることを目指している。看護過程を効果的・効率的に展開するための5つのステップであるアセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価について学習する。紙上事例を通して、V.ヘンダーソンの考えに基づき、看護過程を展開する。更に、計画に基づき対象の安全・安楽・自立に配慮しながら実習室で援助を実施し、援助の評価を行うまでの過程を学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 看護実践における看護過程の必要性を説明できる。				○				
2 看護過程の構造およびアセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のステップを説明できる。						○		
3 紙上事例を通して、ヘンダーソンの考えに基づく看護過程を展開できる。					○			
4 事例の個別性に合わせて、安全・安楽・自立の視点から援助を実施できる。					○	○		
5 看護過程の学修を通して、自己の課題を述べることができる。					○			
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	【ガイダンス】 1. 授業目標:授業の展開方法、評価 2. 事前に提示した課題の提出:グループ担当教員による確認 3. 看護過程の意義、看護過程と問題解決法・クリティカルシンキング・看護理論の関係、(振り返り) 4. 事例の生活情報の共有(グループワーク):入院前に自身でできたこと、入院後困っていること、予測される退院後の生活像 5. 事例の病態共有(グループワーク):疾患の原因、症状の発生機序、合併症 6. ヘンダーソンの看護論:看護の基本概念(振り返り)	天野	予習(各30分):メジカルフレンド社の基礎看護技術 I 第2章「看護過程の構成要素」を熟読し、要点をまとめる。 【事前課題】①事前に提示した事例を熟読し、解剖生理、疾患の特徴や症状の機序、薬の作用・副反応、発達課題、看護援助を具体的に調べてノートに記載する。 ②ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を熟読し、要約する。 復習(各45分):授業内容及び、グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。					
2	【アセスメント】 1. 情報の意味、情報の種類、情報収集の方法 2. 情報の整理、分析・解釈の意味、分析・解釈の方法 3. 「データベースシート」:患者の基本情報の記載 4. 「1. 正常に呼吸する」:情報の整理、分析・解釈 5. まとめ、次回の課題	天野						
3	【アセスメントー基本的欲求項目2. 3. 4】(グループワーク・発表): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント2. 3. 4の情報整理、分析・解釈 2. 基本的欲求の充足・未充足を判断するための根拠をグループで述べ、意見の統合によりグループのアセスメントを資料へ記載する。	天野	予習(各30分): 【事前課題】アセスメント2. 3. 4を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(各45分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。					
4	3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、意見を参考にする。 4. まとめ、次回の課題	天野						
5	【アセスメントー基本的欲求項目5. 6. 7. 8】(グループワーク・発表): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント5. 6. 7. 8の情報整理、分析・解釈 2. 基本的欲求の充足・未充足を判断するための根拠をグループで述べ、意見の統合によりグループのアセスメントを資料へ記載する。	天野	予習(各30分): 【事前課題】アセスメント5. 6. 7. 8を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(各45分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。					
6	3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、意見を参考にする。 4. まとめ、次回の課題	天野						
7	【アセスメント9. 10・11・12・13・14】(グループワーク・発表): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント. 9. 10・11・12・13・14の情報整理、分析・解釈 2. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、意見を参考にする。	天野	予習(各30分): 【事前課題】アセスメント9・10・11・12・13・14を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を明らかにし、援助の方向性までを記載する。 ・グループでの発表内容をアセスメント資料へ記載して準備する。 復習(各45分):グループワーク及び授業内容を振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。					
8	【全体像】 1. 全体像を描く意味:健康課題の誘因・原因の因果関係を明らかにする。 2. 描き方のルール:常在条件・病理的状态・充足状態から看護課題を導き出す。 3. まとめ、次回の課題	天野						
9	【全体像】(グループワーク・発表) 1. 個人の事前課題の確認:全体像 2. 病態、アセスメントを振り返り、グループの全体像を資料へ記載する	天野						
10	【看護問題の明確化】(グループワーク・発表) 1. 全体像から基本的欲求の未充足状態を導き、看護課題を抽出し、資料へ記載する。 2. 看護課題の優先順位の決定とその根拠を検討し、資料へ記載する。 3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、意見を参考にする。 【看護計画】 1. 看護計画立案のプロセス:優先順位の決定、看護目標の設定、看護計画の立案、評価	天野	予習(各30分): 【事前課題】個人のアセスメント結果より全体像を記載し、看護問題を抽出する。 復習(各45分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。					

11	【看護計画】(グループワーク・発表) 1. 個人の事前課題の確認:看護計画 2. グループ内で最も優先度の高い看護問題を決定し、その根拠を明確にする。	天野	
12	3. 2. で決定した看護問題1つの看護目標・看護計画・評価日程を検討し、資料へ記載する。 4. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、意見を参考にする。 5. まとめ、次回の課題 【行動計画】 1. 本日の目標、行動計画の項目、援助の留意点や根拠・評価、本日の目標の振り返り 2. まとめ、次回の課題	天野	予習(各30分): 【事前課題】個人の最も優先度の高い看護問題について、根拠を記載し、看護計画を立案する。 復習(各45分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
13	【行動計画】(グループワーク) 1. 個人の事前課題の確認:行動計画表 2. 行動計画の目標に到達できるよう、援助の目的・準備・手順・留意点などを話し合う。 ・提供するケア:例)バイタルサイン測定を含むフィジカルアセスメント、環境整備、シーツ交換、寝衣交換、移動・移送、湯水を使用せずに足浴・上半身清拭 他 ・役割決定:患者役、看護師役2名、観察者・記録役	天野 安藤 本田 高山	予習(各30分): ・アセスメントした事例の状態から行動計画を立案する。 ・事例の看護過程を全体的に見直し、加筆・修正をする。 復習(各45分): ・実施した援助の経過記録を見直す。 ・記録類の最終提出に向けて、演習事例の看護過程を全体的に見直す。
14	【援助の実施】(実習室へ移動しグループで実施) 1. 援助の準備 2. 援助の実施 ・1グループ1ベッドを使用して、看護師役2名は患者役に援助を実施する。 ・観察者・記録役は、S情報・O情報を観察・記録する。 ・学生・教員からの意見や助言をフィードバックする。 【評価・計画修正】 1. 評価の意味・時期・進め方・実施者・記載 2. まとめ、次回の課題	天野 安藤 本田 高山	
15	【記録・報告、評価・計画修正】(グループワーク・発表) 1. 実施した援助の報告、看護計画の評価・修正 2. まとめ 3. 提出物 1)個人課題…演習事例の看護過程の展開(実習記録用紙を用いる) 2)評価表…評価項目に沿った自己評価・自己課題の記載	天野	予習(30分): ・評価表に基づいて自己評価表を行う。 ・全体を振り返り、基礎看護学実習Ⅱに向けた自己課題をまとめる。 復習(45分): ・最終提出に向けて、演習事例の看護過程を全体的に見直し、必要時、加筆・修正をする。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	・各自が事前課題に取り組み、学習の準備をすることにより、グループワーク内での意見交換を活発にする。更に、グループ発表を通じて、学習効果を高める工夫をする。 ・Google classroomを活用して、課題の送受信や記載例の提示などを行うことがある。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。 ・フィードバックとして、レポート・リアクションペーパーにコメントを入れて返却する。			
【成績の評価方法】			
・2/3以上の出席をもって、評価を受けることができる。個人課題の提出(80%)、グループ課題・グループワーク参加状況(20%)によって総合的に評価する。 ・評価の視点は、初回授業時に提示する。 ・提示された課題に取り組んでいない場合、遅れた場合は、減点対象となる。			
【履修申請上の条件】			
・基礎看護展開実習とリンクする演習のため、本科目を履修登録していることが必要である。 ・毎回、演習開始時に事前課題の結果を提出し、確認を受ける。			
【教科書】			
・深井喜代子編:新体系 看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, メジカルフレンド社。(1年次に購入済み) ・各自で、これまでに使用した看護技術・事例展開等に関する書籍や資料などを持参する。			
【参考書】			
・看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメントで使用したテキストを使用する。 ・ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版。(1年次に購入済み)			
【オープンな教育リソース】			
・特になし			
【担当教員の実務経験】			
・看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした9年間の看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。			
【オフィスアワー】			
・B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00			
【教員連絡先】			
mamano@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
毎回の演習が連続し関連した内容であるため、個人学習した内容をグループメンバー全員で共通理解し、活発な意見交換を行い、学修を発展させていく。 また、計画した援助について発表し、学生相互で援助を評価することにより、援助の多様性を理解する機会とし、各自が看護過程を展開できることを到達目標とする。 ・基礎看護展開実習の先修要件となっている。			

授業科目名	フィジカルアセスメント	担当教員名	安藤幸枝・天野雅美・本田智子・高山由利江 ほか				
コード	22NPR307	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
本科目は、看護におけるヘルスアセスメントの意義や活用方法を学び、実践する。また個人を対象としたフィジカルアセスメントの具体的技法である、フィジカルイグザミネーション(視診・触診・打診・聴診)を用いて、生活者の視点から、客観的かつ正確にアセスメントするための知識・技術・態度を修得することを目的とする。形態機能学の知識を活かし、身体各部位のアセスメントとしての正常とは何か、また健康から逸脱した状態とは何かについて根拠をもとに明確に表現し、結果について評価ができるよう講義と演習を通して学修する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を説明できる。							○
2 フィジカルアセスメントに必要な基本的知識・技術について説明できる。				○			
3 系統別のフィジカルアセスメントの方法と留意点について、看護者、対象者の両方の視点で説明できる。					○		
4 フィジカルイグザミネーションの基本技術を、正確かつ安全に実施し評価ができる。				○			
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	<講義>「ガイダンス:講義・演習の進め方、評価の説明」 ・看護におけるヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーションの基本技術、 ・問診・視診・触診・打診・聴診の方法と留意点 面接・インタビュー	安藤	予習(30分):シラバスを熟読し、授業の概要を理解する。 テキスト:p1-p47を熟読し、要点をまとめる。 復習(45分):テキスト・講義資料を再読し、疑問点や不明なところを明確にする。				
2	<講義>:「腹部・消化器系のフィジカルアセスメント」 ・腹部・消化器系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの方法 ・フィジカルアセスメント結果の判断と看護への活用	安藤	予習(30分):テキスト:p129 -p147を熟読し、腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習(45分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、「技術確認」にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
3	<講義>:「胸部・呼吸器系のフィジカルアセスメント」 ・呼吸器系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの方法 ・フィジカルアセスメント結果の判断と看護への活用	安藤	予習(30分):テキスト:p85-p103(呼吸器)を熟読し、呼吸器のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習(45分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、演習にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
4	<講義>:「循環系のフィジカルアセスメント」 ・循環系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・循環系のフィジカルイグザミネーションの方法 ・フィジカルアセスメント結果の判断と看護への活用	安藤	予習各(30分):テキスト:p105-p127(循環系)を熟読し、循環系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習各(45分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、演習にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
5	【演習①】: 腹部フィジカルアセスメント 腹部:問診・視診・触診・打診・聴診の方法と留意点 腹部の4区分<視診、聴診、打診、触診(浅い触診・深い触診)の実施>	安藤他	予習(30分):テキスト:腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの知識の再確認と要点をまとめる。 復習(45分):技術の振り返りと、達成できたところ、疑問点や不明なところの明確化、「技術確認」にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
6	【演習】:消化器系に関するフィジカルイグザミネーションの実際	安藤他					
7	【演習②】: 呼吸器系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 肺尖部、肺底部の位置の確認、肋骨の数え方(前胸部、背部)、肺音の聴取 担当:安藤ほか	安藤他	予習(30分):テキスト:呼吸器・循環系のフィジカルイグザミネーションの知識の再確認と要点をまとめる。 復習(45分):技術の振り返りと、達成できたところ、疑問点や不明なところの明確化、フィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
8	【演習③】: 循環系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 心基部、心尖部の確認、各弁の領域の特定、心尖拍動の見方、I音、II音の聴取 担当:安藤ほか	安藤他					
9	<講義>:「脳・神経系のフィジカルアセスメント」 ・脳・神経系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント <視覚、嗅覚、聴覚、味覚 各障害と生活への影響> ・フィジカルアセスメント結果の判断と看護への活用	安藤	予習(30分):テキスト:p169-p195(脳神経系)を熟読し、脳神経系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習(45分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、演習にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
10	<講義>:「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」 ・筋・骨格系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの方法 ・フィジカルアセスメント結果の判断と看護への活用	安藤	予習(30分):テキスト:p149-168(筋骨格系)を熟読し、筋骨格系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習(45分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、演習にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。				
11	【演習④】: 脳・神経系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 12脳神経の観察(瞳孔の観察、音叉を使用した聴力など)、小脳機能検査	安藤他	予習各(30分):テキスト:脳神経系・筋骨格系のフィジカルイグザミネーションの知識の再確認と要点をまとめる。				
12	【演習⑤】: 筋・骨格系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 ROM検査、MMT検査	安藤他	復習各(45分):技術の振り返りと、達成できたところ、疑問点や不明なところの明確化、フィジカルイグザミネーション技術の振り返りを行う。				
13	【技術確認】:	安藤他	予習(30分):技術試験に向けたフィジカルイグザミネーションの知識の再確認と要点をまとめる。				
14	・腹部フィジカルアセスメント/シミュレーション演習に向けた自己課題	安藤他	復習(45分):技術の振り返りと、達成できたところ、疑問点や課題の明確化、フィジカルイグザミネーションの振り返りと再学修をする。				
15	【総合演習⑥】シミュレーション演習: 既往歴に心房細動があり、外来受診をしてきた患者へのアセスメントについてグループで展開、発表する。 腹部のフィードバック/まとめ	安藤他	予習(30分):これまでの学びについて、復習と疑問点について再学修しておく。 復習(45分):グループワークを振り返り、情報を共有し理解したこと、疑問点や不明なところを再学習する。				

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
・事前課題、演習での振り返り内容、確認テストなどに関して、講義・演習時に、原則フィードバックを行う。 また、Google classroomに掲示も行う。		
【成績の評価方法】		
・筆記試験60% ルーブリック評価(技術確認(腹部アセスメント)>10% 課題などの提出物(留意点・根拠の提示)20% 参加態度10%とする。 ※事前課題は、テキストをそのまま写すのではなく、エビデンス(根拠)を示すこと。 参加態度は、身だしなみをはじめ、演習への取り組みやメンバーとの協働、演習記録類の提出状況、課題提出期限を含む。 ※再試験は総合評価で60%を満たさない場合に実施する。		
【ルーブリック評価:有(技術確認)】		
【履修申請上の条件】		
・特になし		
【教科書】		
□横山美樹(2020). はじめてのフィジカルアセスメント. メヂカルフレンド社.		
【参考書】		
・茂野香おる他著(2021). 系統看護学講座 基礎看護学 I 基礎看護技術2. 医学書院. (1年次と同様)		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
・看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえてフィジカルイグザミネーションの実際について教授する。		
【オフィスアワー】		
<月曜日～木曜日>12:10～13時、必ずアポイントメントを取ってください。		
【教員連絡先】		
yando@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
・毎回、聴診器(講義・演習)を持参すること。 ・講義に先立ち既習科目(解剖生理等)の復習に取り組んだうえで出席すること。また、演習に備え事前に提示する課題に取り組むこと。 ・演習は、学生同士での実施や模擬患者を想定したシミュレーション学習を実施するため、積極的な参加を期待する。フィジカルイグザミネーションは、他者に触れること、触れられること、診ること、診られることが必要となるため、何らかの配慮が必要となる学生は、事前に教員に申し出ること。必要時、Google classroomを活用して授業の連絡等を行う。		

授業科目名	暮らしの理解	担当教員名	戸塚智美 南幸子					
コード	22NPR308	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
人々には様々な暮らしがある。「暮らし」とは、日々を過ごしていくこと、生活の方法や様式、ライフスタイルという意味がある。この科目では、地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響について学修する。人の一生には、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病気を治す」、「老いとともに生きる(定年後の生活)」、「最期を迎える」等、様々な暮らしがあることを理解する。また、地域で暮らす人々は、「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」の中で支えあって生きていることを理解する。さらに、地域の生活環境(文化的環境・社会的環境・自然環境)が健康に及ぼす影響について学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 「暮らし」と「生活」の意味を述べるができる。						○		
2 様々な人々の暮らしを述べるができる。				○		○		
3 生活環境が健康に与える影響を述べるができる。						○		
4 人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病を治す」、「人生の最終段階」の意味を述べるができる。				○		○		○
5 地域で暮らす人々は、「家族」、「仲間」、「近隣の人々」、「学校や職場」の中で支えあって生きていることを述べるができる。				○		○		○
6 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの概要が述べられる。						○		○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	授業オリエンテーション 【「暮らし」・「生活」の概念】 ①「暮らし」・「生活」の意味 ②地域のとらえ方 ③地域、生活と健康の関係性	戸塚(智)	予習(15分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 復習(30分): 『課題ノート』に以下をまとめる。 ①「暮らし」と「生活」の意味 ②自分自身の食生活・生活習慣・生活環境					
2	【「暮らし」・「生活」の概念】 ①生活環境が健康に与える影響についてディスカッションをする。 ・「食生活指針」(平成28年6月)に則り、自身の食生活を考える ・生活習慣(運動・睡眠・学習・趣味・買物等)と健康を考える ・生活環境(居住環境・家族等)と健康を考える ・経済面と生活を考える	戸塚(智)	予習(15分):食生活指針の目的と特徴を整理し、その意味を考える。 復習(30分):課題①「生活環境が健康に与える影響」についてまとめる。					
3	【人の一生の中の暮らしを考える】 「学ぶ」・「働く」意味についてディスカッションをする。 ①「学ぶ」意味を考える(小学校⇒中学校⇒高等学校⇒大学⇒生涯学習) ②「働く」意味を考える(アルバイト⇒看護師・一般企業等)	戸塚(智)	予習(30分): ①人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「学ぶ」、「働く」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(15分):「学ぶ」「働く」意味について『課題ノート』に追記する。					
4	【人の一生の中の暮らしを考える】 「学ぶ」・「働く」意味についての発表会と全体討論	戸塚(智)	予習(15分):「学ぶ」「働く」意味についての発表原稿をまとめる。 復習(30分):課題②人の一生の中で、「学ぶ」、「働く」ことの意味についてまとめる。					
5	【人の一生の中の暮らしを考える】 ③「子どもを産み育てる」意味についてディスカッションをする。	戸塚(智)	予習(30分): ①人の一生の中で、「子どもを産み育てる」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「子どもを産み育てる」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(15分):「子どもを産み育てる」意味について『課題ノート』に追記する。					
6	【人の一生の中の暮らしを考える】 ③「子どもを産み育てる」意味についての発表会と全体討論	戸塚(智)	予習(15分):「子どもを産み育てる」意味についての発表原稿をまとめる。 復習(30分):課題③人の一生の中で、「子どもを産み育てる」ことの意味についてまとめる。					
7	【人の一生の中の暮らしを考える】 ④「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」意味についてディスカッションをする。	戸塚(智)	予習(30分): ①人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(15分):「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」意味について『課題ノート』に追記する。					
8	【人の一生の中の暮らしを考える】 ④「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」意味の発表会と全体討論	戸塚(智)	予習(15分):「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」意味についての発表原稿をまとめる。 復習(30分):課題④人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことの意味についてまとめる。					
9	【人の一生の中の暮らしを考える】 ⑤「定年後の生活を考える」意味についてディスカッションをする。	南	予習(30分): ①人の一生の中で、「定年後の生活」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「定年後の生活を考える」ことについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(15分):「定年後の生活を考える」意味について『課題ノート』に追記する。					
10	【人の一生の中の暮らしを考える】 ⑤「定年後の生活を考える」意味の発表会と全体討論	南	予習(15分):「定年後の生活を考える」意味についての発表原稿をまとめる。 復習(30分):課題⑤人の一生の中で、「定年後の生活を考える」ことの意味についてまとめる。					
11	【地域における暮らしの理解】 ①地域の人々との暮らし ②「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の中で支えあって生きていることについてディスカッションをする。 【地域包括ケアシステム】 ①地域包括ケアシステムとは	戸塚(智)	予習(30分): ①「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の中で支えあって生きていることについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の中で支えあって生きていることについてインタビューをして、『課題ノート』にまとめる。 復習(15分):「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の中で支えあって生きていることについて『課題ノート』に追記する。					

12	【地域包括ケアシステム】 ①地域で暮らす:八王子市左入地区を理解する ②地域包括ケアシステムの概要 ③地域包括支援センターとは ④地域包括支援センター左入の取り組み事例	外部講師	予習(15分): ①厚生労働省ホームページの地域包括ケアシステムを熟読し、疑問点を課題ノートに記述する。 ②八王子左入地区についてホームページ等で調べる。 ③地域包括支援センター左入の事業内容を調べる。 復習(60分): ①地域包括ケアシステム・地域包括支援センターについてまとめる。 ②地域包括支援センター左入の取り組み事例をまとめる
13	【障害をもちながら地域で暮らす】 ①障害の分類 ②障害者認定 ③障害者の生活と心理	戸塚(智)	予習(15分):テキストp.164～167を熟読し、わからないことをノートに記述する。 復習(30分):「障害をもちながら地域で暮らすこと」について、『課題ノート』に追記する。
14	【障害をもちながら地域で暮らす】 ①「地域生活」が意味するもの ②「地域生活」には何が必要か ③住まいの工夫 ④社会とのかかわり	戸塚(智)	予習(15分):「障害をもちながら地域で暮らす」意味についてイメージする。 復習(30分):課題⑥「障害をもちながら地域で暮らすこと」の意味についてまとめる。
15	【暮らしの理解】 ①人々の暮らしと健康について ②地域で暮らすことについて	戸塚(智)	予習(30分):『課題ノート』に暮らしや健康に関する内容を追記する。 復習(60分):次のテーマ①②をレポートする。 ○課題レポート ①人々の暮らしと健康について ②地域で暮らすことについて
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。			
【成績の評価方法】			
課題:『課題ノート』30% ※課題ノートは第1回～第15回までの予習・復習に活用し、記述内容の具体性を評価基準とする。 課題①～⑥はそれぞれ5%、計30% 最終の課題レポートは40% ※課題レポートは「①人々の暮らしと健康について、②地域で暮らすことについて考察できること」を評価基準とする。 合計:100%			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①:地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 2022年			
【参考書】			
・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 2021年 ・五十嵐隆:はじめてママ&パパの育児—0～3才赤ちゃんとの暮らし 気がかりがスッキリ 主婦の友社 2014 ・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録 文春文庫 2009 ・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ 2021 ・岩名礼介 新版 地域包括ケア サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する メディカ出版 2020 ・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場 日本看護協会出版会 2021 ・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100年時代の人生戦略 東洋経済新聞社 2016 ・長谷川和夫:僕はやっとなんか認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言 KADOKAWA 2019年			
【オープンな教育リソース】			
記載事項なし			
【担当教員の実務経験】			
戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。 南幸子: 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。			
【オフィスアワー】			
戸塚智美:月～金12:10～13:00 南幸子:月～金12:10～13:00			
【教員連絡先】			
戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp 南幸子:sminami@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	地域・在宅看護学概論	担当教員名	戸塚智美 南幸子			
コード	22NPR309	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
 地域・在宅看護学は、健康問題や障害を抱える在宅療養者とその家族の「その人らしい生活」を支える看護を考える学問である。講義では、地域・在宅看護が必要とされる社会背景や法・制度、社会資源、在宅療養者とその家族の特徴、在宅で行われている看護について学修する。さらに、在宅療養移行における継続看護、多職種連携を理解し、地域包括ケアシステムの一員としての看護職の役割について学修する。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域・在宅看護の変遷とその社会背景について述べるができる。				○	
2 地域・在宅看護の目的、倫理と基本理念について述べるができる。		○	○	○	
3 地域・在宅看護の特徴、対象者、活動の場と看護活動の実際について述べるができる。		○	○	○	
4 地域・在宅看護を支える法・制度と社会資源について述べるができる。		○	○	○	
5 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の特徴と看護職の役割について述べるができる。		○	○	○	
6 地域・在宅看護過程の特徴を理解し、ICFの概念に則った情報の整理を行い、アセスメントが記述できる。		○	○	○	
7 在宅という環境において、地域・在宅看護の対象者の「生きること」を支える看護について説明できる。		○	○	○	

【授業計画】	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業オリエンテーション 【地域・在宅看護の概念】 ①地域・在宅看護の背景 ②地域・在宅看護の基盤 ③地域療養を支える在宅看護の役割・機能	戸塚(智)	予習(90分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 復習(90分):地域療養を支える地域・在宅看護の役割・機能をまとめる。
2	【地域・在宅看護の概念】 ①地域・在宅看護を展開するための基本理念 ②地域・在宅看護における倫理	戸塚(智)	予習(90分):地域・在宅看護における倫理について臨床との共通点と相違点をまとめる。 復習(90分):地域・在宅看護を展開するための基本理念についてまとめる。
3	【在宅療養者と家族の支援】 ①地域・在宅看護の対象者と特徴 ②在宅看護の対象者と在宅療養の成立条件	南	予習(90分):地域・在宅看護の対象者の該当箇所を読み、対象者の特徴をまとめる。 復習(90分):地域・在宅看護の対象者についてまとめる。
4	【在宅療養者と家族の支援】 ①在宅療養の場における家族のとらえ方 ②家族の介護ストレス ③在宅療養者の家族への看護	戸塚(智)	予習(90分):地域・在宅看護の対象者(家族)の該当箇所を読み、家族の特徴をまとめる。 復習(90分):家族の介護ストレスについてまとめる。
5	【地域包括ケアシステムにおける多様な生活の場における看護】 ①地域包括ケアシステム ②療養の場の移行に伴う看護	戸塚(智)	予習(90分):地域包括ケアシステムの該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):地域包括ケアシステムと退院調整についてまとめる。
6	【地域包括ケアシステムにおける多様な生活の場における看護】 ①地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 ②地域・在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	南	予習(90分):地域包括ケアシステムにおける多職種連携の該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):地域包括ケアシステムにおける多職種連携についてまとめる。
7	【地域療養を支える制度】 ①社会資源の活用 ②医療保険制度 ③後期高齢者医療制度と高齢者施策 ④障害者に関する法律 ⑤難病法 ⑥権利擁護と成年後見制度	戸塚(智)	予習(90分):地域医療を支える制度の該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):制度に関する問題を解き、誤ったところをノートにまとめる。
8	【地域療養を支える制度】 ①介護保険制度 ②訪問看護の制度	南	予習(90分):地域医療を支える制度の該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):介護保険制度と訪問看護の制度についてまとめる。
9	【在宅療養を支える訪問看護】 ①訪問看護の特徴 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーション ③在宅看護における安全と健康危機管理	戸塚(智)	予習(90分):訪問看護の特徴の該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの業務についてまとめる。
10	【在宅療養を支える訪問看護】 ①訪問看護サービスの展開 ②訪問看護過程	戸塚(智)	予習(90分):①訪問看護サービスの展開、②訪問看護過程の該当箇所を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):訪問看護における看護過程の特徴についてまとめる。
11	地域・在宅看護過程の展開(1) ①ICFの概念 ②地域・在宅看護過程の展開方法～情報収集と情報の整理～	戸塚(智) 南	予習(90分):ICF(国際生活機能分類)の理解と活用のICFの概念と構成要素を読み、疑問点をノートに記述する。 復習(90分):事例を熟読し、ICFの分類に則って情報を整理する。
12	地域・在宅看護過程の展開(2) ①地域・在宅看護過程の展開方法～情報の整理:全体像～	戸塚(智) 南	予習(90分):事例を熟読し、ICFの分類に則って情報を整理し、全体像を考える。 復習(90分):記録用紙(全体像)に必要な事項を記述する。
13	地域・在宅看護過程の展開(3) ①地域・在宅看護過程の展開方法～アセスメントと看護問題の抽出・多職種連携～	戸塚(智) 南	予習(90分):情報と全体像からアセスメントの内容をメモする。 復習(90分):記録用紙(アセスメント・多職種連携)に必要な事項を記述する。
14	地域・在宅看護過程の展開(4) ①地域・在宅看護過程の展開方法～看護問題の抽出、長期・短期目標～	戸塚(智) 南	予習(90分):看護問題の優先順位を考える。 復習(90分):療養者・家族の看護問題と、長期・短期目標を整理する。
15	地域・在宅看護過程の展開(5) ①地域・在宅看護過程の展開方法～看護計画OP/TP/EP～	戸塚(智) 南	予習(90分):看護計画を立案する。 復習(90分):必要な看護計画を記述する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。		
【成績の評価方法】		
課題 : 地域・在宅看護過程の展開20% 定期試験:80% 合計 :100% 1. 定期試験は筆記用具以外の持込みは認めない。 2. 地域・在宅看護過程はルーブリックで評価する。提出期限は定期試験日とする。 地域・在宅看護過程の合格水準に満たない場合は再指導、再提出とする。		
【ルーブリック評価の活用(有)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①:地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 2022年 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②:在宅療養を支える技術 第2版 メディカ出版 2022年 上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか(第2版)入門編、きょうされん 2021年		
【参考書】		
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版 医学書院		
【オープンな教育リソース】		
記載事項なし		
【担当教員の実務経験】		
戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。 南幸子 : 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。		
【オフィスアワー】		
戸塚智美: 月～金12:10～13:00 南幸子 : 月～金12:10～13:00		
【教員連絡先】		
戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp 南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
時間外学修時間は45時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること		

授業科目名	地域・在宅看護学(生活援助技術)	担当教員名	南 幸子・戸塚智美			
コード	22NPR310	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】 この科目では、在宅療養者とその家族の日々の暮らしについて理解を深めると同時に、在宅における日常生活動作の「食事」「排泄」「移動」「清潔」「更衣」「睡眠」を支える看護技術について修得する。また、在宅療養者の健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、在宅療養者とその家族の生活に合わせた援助方法について学ぶ。さらに、在宅における療養生活の中で、日常にある物品の工夫や福祉用具の活用や住宅改修について学修する。□						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
			ディプロマ・ポリシー			
			①	②	③	④
1 健康障害が生活に及ぼす影響や、在宅療養者とその家族に対する日常生活援助について述べる事ができる。			○	○	○	○
2 訪問看護師として、また社会人としてマナーを意識しながら行動することができる。			○	○	○	○
3 自宅にある物品の工夫や福祉用具の活用について述べる事ができる。			○	○	○	○
4 在宅における療養環境整備や福祉用具の活用について述べる事ができる。			○	○	○	○
5 在宅療養者とその家族が住み慣れた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護について述べる事ができる。			○	○	○	○
【授業計画】						
1 (9/19)	【講義】地域・在宅看護学(生活援助技術)オリエンテーション(南)	南幸子	予習(90分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。			
2 (9/19)	予習でメディアARの動画を視聴し授業に臨むよう学生に説明を行う。 脳出血再発防止のための在宅看護	戸塚智美	予習(90分):脳出血再発防止の看護について調べ、疑問点を抽出する。 在宅看護②在宅療養における看護過程の展開技術 p.22~p.30を精読する。 ICFの理解と活用を精読する。 復習(90分):脳出血再発防止の看護計画についてまとめる。			
3 (9/26)	在宅における援助技術:食事の援助 【講義】食生活・嚥下に関する在宅看護技術 療養者の嚥下・消化・吸収能力に合った食事内容の選択、食事摂取量低下時の摂食 【演習】食生活・嚥下に関する在宅看護技術の実践	南幸子 戸塚智美 (若林)	予習(90分):テキスト在宅看護①地域療養を支えるケア p.256~p.257、②在宅療養を支える技術の「食生活」p.70~p.77を読み、事前課題に取り組む。基礎看護技術演習で学んだ「食事介助」を復習すること。演習が実施できるように事例から食事の援助方法を考案する。 復習(90分):「食事」に関する振り返り 演習後の学びのレポート①			
4 (9/26)	【講義】訪問看護師としてのマナーの実践	戸塚智美	予習(90分):在宅看護①在宅療養を支える技術の②「訪問技術」訪問マナーの資料を熟読し、予行練習をすること。在宅看護②家庭訪問・初回訪問 p.18~p.22を精読する。 復習(90分):訪問マナーをまとめておくこと。 演習後の学びのレポート②			
5 (10/3)	【演習】訪問マナー	戸塚智美 南幸子 (若林)				
6 (10/10)	【講義】在宅における援助技術:排泄の援助 (1)在宅で行う排泄ケアマネジメントと援助 (2)排泄のアセスメントと援助 【演習】排泄の実践	戸塚智美 南幸子 (若林)	予習(90分):在宅看護①地域療養を支えるケア p.255~p.256、在宅看護②在宅療養を支える技術 p.78~p.83、p.173~p.141を精読する。 復習(90分):「排泄の援助」に関する振り返り 演習後の学びのレポート③			
7 (10/10)	在宅における援助技術:清潔のアセスメントと援助方法の実践 【講義】在宅における清潔ケア (1)家庭にある物品でできる在宅における清潔ケアの援助方法 【演習】清潔の援助の実践(入浴・手浴・足浴・洗髪)	南幸子 戸塚智美 (若林)	予習(90分):①地域療養を支えるケア p.258②在宅療養を支える技術「清潔」p.84~p.87を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディアAR」の「住宅環境(動画)」「移動に関する機能のアセスメント(動画)」を視聴する。基礎看護技術演習で学習した「清潔援助」を復習すること。 復習(90分):「清潔」に関する振り返り			
8 (10/17)	在宅における援助技術:移動のアセスメントと援助方法 【講義】在宅における環境・移動・安全・環境整備/転倒予防 福祉用具の選定基準と活用方法 1)物品の種類とコスト、2)物品と環境と利用目的の関係 3)人の自然な体の動きと介助方法 (1)座位から立位、(2)歩行、(3)台を使った方法、(4)持ち上げない介助方法 【演習】移動の援助の実践 (1)移動補助具の利用、生活に密着した移動 (2)対象に応じた物品の選定	南幸子 戸塚智美 (若林)	予習(90分):在宅看護①在宅療養を支える技術p.259~p.260 ②在宅療養を支える技術の在宅看護を展開する上で検討すべきポイントと移動の援助の該当箇所p.46~p.50を読み、事前課題に取り組む。テキストの「メディアAR」の「住宅環境(動画)」「移動に関する機能のアセスメント(動画)」を視聴する。基礎看護技術・高齢看護学演習で学習した「移動」を復習する。 復習(90分):移動に関するアセスメントの振り返り 演習後の学びのレポート⑤			
9 (10/17)	在宅における援助技術:睡眠 【講義】睡眠 睡眠障害の援助	戸塚智美	予習(90分):在宅看護②在宅療養を支える技術「睡眠」p.96~p.98を読み、事前課題に取り組む。 復習(90分):睡眠に関するアセスメントの振り返り			
10 (10/30)	在宅における援助技術:足病変のケア 【講義】足病変のケア意義・目的・アセスメント	南幸子	予習(90分):在宅看護②在宅療養を支える技術「足病変のケア」p.159~p.165を読み、事前課題に取り組む。 復習(90分):「足病変のケア」に関するアセスメントの振り返り			
11 (10/24)	介護保険制度と社会資源の活用・調整・多職種連携 1)介護予防に対する援助技術 2)自立支援 3)身近な道具を使った移動方法と福祉用具の活用	南幸子	予習(90分):在宅看護②在宅療養を支える技術「生活支援における福祉用具・社会資源」p.49~p.53、p.88~p.92を読み、事前課題に取り組む。 復習(90分):「生活支援における福祉用具・社会資源」に関する振り返り			
12 (10/24)	【演習】移動の援助の実践 (1)移動補助具の利用、生活に密着した移動 (2)対象に応じた物品の選定	南幸子 戸塚智美 (若林)				
13 (10/30)	在宅における援助技術:睡眠 【講義】睡眠 睡眠障害の援助	戸塚智美				
14 (10/30)	在宅における援助技術:足病変のケア 【講義】足病変のケア意義・目的・アセスメント	南幸子				
15 (11/7)	介護保険制度と社会資源の活用・調整・多職種連携 1)介護予防に対する援助技術 2)自立支援 3)身近な道具を使った移動方法と福祉用具の活用	南幸子				
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)				記載事項なし		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク			○			
【課題のフィードバック】 演習後の課題レポートへのフィードバックは、次の講義の中で実施する。						
【成績の評価方法】 定期試験70%、課題レポート・演習後レポート30%として評価する。ルーブリック評価基準無し						
【履修申請上の条件】 地域・在宅看護学編論の単位を取得していること。						
【教科書】 ナーシング・グラフィカ 在宅看護①地域療養を支えるケア、在宅看護②在宅療養を支える技術 メディカ出版 上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか第2版入門編、きょうざい						
【参考書】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディア 実践できる在宅看護技術ガイド GakKen 在宅看護実習ガイド 照林社 根拠がわかる在宅看護技術 第2版 メヂカルフレンド社 上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか第2版入門編、きょうざい						
【オープンな教育リソース】 記載事項なし						
【担当教員の業務経験】 南幸子:臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。 戸塚智美:臨床看護、訪問看護の経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に指導する。						
【オフィスアワー】 南幸子:月~金12:10~13:00 戸塚智美:月~金12:10~13:00						
【教員連絡先】 南幸子:sminami@g.t-junshin.ac.jp 戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.jp						
【備考】 時間外学修時間は45時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること						

授業科目名	精神看護学概論	担当教員名	福永ひとみ					
コード	22NPR326	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
精神の健康・不健康について生物的・心理的・社会的側面から多面的に捉え、精神のバランスを崩しやすい状況とストレス対処、現代社会の精神的健康問題と精神保健(メンタルヘルス)活動について予防的観点から学修する。また、精神の危機的状況にある人や精神障害をもつ人とその家族を援助するための精神看護の基本的概念と活用する理論やモデルについて学修する。さらに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史の変遷を体系的に学び、精神障害者の権利擁護の考え方を学修する。□								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 精神の健康について多面的に説明できる。					○			
2 心と体のバランスや関連性および人の成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機状況を知り、看護介入の意義について説明できる。					○			
3 精神看護の定義や目的・機能、対象および看護師の役割を説明できる。							○	
4 精神看護で有用な諸理論およびモデルの特徴を説明できる。					○			
5 精神障害者の人権擁護について説明できる。						○		
6 精神保健医療をめぐる社会状況の変遷と法体制の関連および処遇の課題を説明できる。						○		
7 リエゾン精神医学・精神看護の機能とチーム医療について説明できる。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	イントロダクション 授業の内容と進め方、課題の内容と提出について、成績評価について 精神の健康・不健康と心身相関	福永	予習(60分):シラバスを読む、指定教科書3冊の目次・全体に目を通し持参する。 教科書1 序章 p6-8、第1章 p30-46、第5章 p153-157を読む。 課題1「①わたしが考える精神の健康とは何か、②心身相関について」 復習(120分):配布資料を見直し、授業ノートの整理 課題の不足点を振り返る。					
2	精神の発達段階の特徴と危機状況に応じた看護介入 ライフサイクルにおける各期の発達危機と不応問題について	福永	予習(60分):教科書1 第2章 p76-101、第5章 p150-165を読む。 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理。					
3	ストレスとマネジメント ストレスとコーピング リラクゼーション法の体験	福永	予習(60分):教科書1 序章 p10-12、第3章 p104-125、第5章 p165-173 第6章 p176-232、教科書2 第8章 p487-505を読む。 課題2「わたしのストレスとストレスマネジメント」 復習(120分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、リラクゼーション法を実践してみる。					
4	精神保健医療福祉歴史的背景と法制度・施策の動向 精神障害者の権利擁護	福永	予習(60分):教科書1 第7章 p234-280を読む。 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理。					
5	精神障害者と家族の理解 精神障害者のイメージ、精神障がい者の体験記、精神障がい者の家族の心情	福永	予習(60分):教科書2 第1章 p4-19、第7章 p428-429、p439-448 課題3「わたしがもつ精神障がい者のイメージ、体験記の感想」 復習(180分):配布資料を見直し、授業ノートの整理 課題の不足点を振り返る。					
6	リエゾン精神看護とチーム医療 精神看護専門看護師の役割・機能	ゲストスピーカー 佐藤	予習(60分):教科書1 序章 p22-24、教科書2 第8章 p452-467 課題4「精神看護専門看護師の講義を受けて学んだこと、疑問点」 復習(100分):配布資料を見直し、授業ノートの整理 課題の不足点を振り返る。					
7	精神看護における対人関係論 ペプロウ 患者-看護師関係の発展と看護師の多様な役割、自己の治療的活用	福永	予習(60分):初回講義時に提示する。 最終課題の提示 復習(180分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、最終課題作成。					
8	精神看護における諸理論とモデルの理解 ①オレム・アンダーウツのセルフケア理論 対象の自己決定とセルフケアを促す看護 ②ストレンクス理論	福永	予習(60分):初回講義時に提示する。 最終課題の提出 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)				リラクゼーション法の体験				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
<ul style="list-style-type: none"> 提出された課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義内で行う フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する 随時試験に対するフィードバックは、次回の講義内で解答の解説を行う 								

<p>【成績の評価方法】</p> <p>1 課題(40%)、最終課題(20%)、随時試験(40%) 合計100%</p> <p>2 評価基準 課題1～4は、1)提出期限と体裁、2)記載方法の理解 3)課題に応じた内容の記載 について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要 の基準で評価する 最終課題は、1)提出期限と体裁 2)文章表現力 3)自己意見 4)具体性 5) 文献引用明記 について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要 の基準で評価する</p> <p>【ルーブリック評価の活用(有)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>1 岩崎弥生編：新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 2021 2 〃：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社 2021 3 ヒルデガード・E・ペプロウ著 稲田八重子他訳：人間関係の看護論 医学書院 1973</p>
<p>【参考書】</p> <p>1 浦河べてるの家：べてるの家の「非」援助論 そのままでいいと思えるための25章 医学書院 2002</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師資格を持ち、精神科看護の実務経験を有す リエゾン精神看護を担当するゲストスピーカーは、精神看護専門看護師の資格と実務経験を有す</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火、水、金曜日 昼休み時間(12:10～13:00)</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>福永研究室 3号館 3階 3417号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取る(代理不可)</p>

授業科目名	精神看護学援助論	担当教員名	福永ひとみ					
コード	22NPR327	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
精神疾患の定義・病因・主要な症状と診断、治療に関する基礎知識を活用し、代表的な精神疾患患者に対する看護の方法について学修する。具体的な学修内容として、精神病理が生活に及ぼす影響、主な検査と治療の特性に応じた看護、代表的な精神疾患患者の回復過程に応じた看護、主要な精神症状に応じた看護、精神科医療における治療環境と生活環境の特徴、リスクマネジメントを含む。精神障害者のリハビリを支援するための看護の役割を学修する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 精神科医療における治療環境と生活環境、リスクマネジメントについて説明できる。						○		
2 主な精神疾患の定義・病因・症状と治療、回復過程に応じた看護について説明できる。					○			
3 精神科医療における治療の特徴や必要な検査に応じた看護について説明できる。					○			
4 精神障害者のリハビリを支援するための看護の役割について説明できる。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	精神科治療環境とリスクマネジメント 入院形態、鍵の管理、治療的環境、精神保健福祉法、精神科救急、行動制限、危険物管理、CVPPP、入院患者の処遇、保護室	福永	予習(60分):教科書1第7章p245-266、教科書2第7章p253-270を読む。 課題1「入院形態、保護室入室中の患者への安全対策についてまとめる」 復習(120分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
2	精神科における主な検査と看護、不安障害/強迫性障害/ストレス関連障害をもつ人への看護、フィジカルアセスメント、問診、医学的検査、心理検査、不安のレベル、パニック発作、強迫観念、強迫行為、トラウマ、急性ストレス障害、PTSD	福永	予習(60分):教科書2第2章p42-59、第3章p87-103、第7章p324-329を読む。 課題2「強迫性障害をもつ人の事例についてまとめる」 復習(120分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
3	統合失調症をもつ人への看護 ストレス脆弱性モデル、陽性症状、陰性症状、知覚障害、思考障害、感情障害、自我意識の障害、急性期、消耗期、慢性期、意欲・行動の障害、認知機能障害、生活基盤の拡大、自己決定、総合支援制度、退院支援、地域移行支援、ストレングスモデルの活用、安全保障、衝動行為、幻覚・妄想、自傷他害予防、現実吟味	福永	予習(60分):教科書2第3章p71-76、第7章p270-284を読む。 復習(90分):教科書と配布資料を見直し、授業ノートの整理。					
4	精神科における薬物療法・電気けいれん療法と看護 アドヒアランス、コンコーダンス、向精神薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、抗てんかん薬、睡眠薬、錐体外路症状、ジストニア、ジスキネジア、アカシジア、悪性症候群、抗コリン作用、水中毒、離脱症状、拒薬、修正型電気けいれん療法	福永	予習(60分):教科書2第4章p147-162を読む。 課題3「シナプスを拡大し化学物質が電気信号に変化するしくみがわかるように神経細胞を描く」 A4 1枚 手書き カラー 復習(120分):課題に抗精神病薬・SSRIの作用する場所を追加する。					
5	リハビリテーション療法・精神療法と看護 精神療法、転移・逆転移、集団精神療法、家族心理療法、社会(生活)療法、リハビリ、包括的リハビリテーション、作業療法、SST、レクリエーション療法、リワーク、WRAP、多職種アプローチ	福永	予習(60分):教科書2第1章p15-20、第2章p42-59、第4章p163-187を読む。 復習(90分):教科書と配布資料を見直し、授業ノートの整理。					
6	物質関連障害/摂食障害/パーソナリティ障害をもつ人への看護 アディクション、中毒症状、離脱症状、アルコール精神病、身体依存、耐性、精神依存、ARP、AA、イネイブラー、共依存、拒食、過食、自己誘発性嘔吐、無月経、低カリウム血症、行動化、対人操作、転移・逆転移、見捨てられ不安、衝動性コントロール、限界設定、自己責任、認知行動療法、家族心理療法	福永	予習(60分):教科書2第3章p110-117、p121-137、第7章p300-306、p329-333を読む。 課題4「アルコール依存症をもつ人の家族支援についてまとめる」 復習(120分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
7	発達障害をもつ人への看護/身体合併症をもつ人への看護 自閉症スペクトラム、注意欠如/多動障害、発達障害支援法、学習障害、社会的相互交渉障害、コミュニケーション障害、想像力障害、感覚過敏、代替コミュニケーション、障がい者差別解消法、心身症状、妄想により表現する身体感覚、抗精神病薬による身体症状、窒息、爪・皮膚トラブル、口腔のトラブル	福永	予習(60分):教科書2第3章p64-71、第7章p312-323、p333-350を読む。 復習(90分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
8	地域における精神看護 精神科訪問看護の実際	ゲストスピーカー 吐師 秀典	予習(60分):教科書2第3章p64-71、第7章p312-323、p333-350を読む。 課題5「地域における精神看護について学んだこと、疑問点」 復習(120分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る。					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
・提出された課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義内で行う ・フィードバックとして、レポートにコメントを入れて返却する								

<p>【成績の評価方法】</p> <p>1 定期試験60%、課題40% 合計100% 2 課題レポートの評価基準: 1)提出期限と体裁 2) 課題の理解 3) 課題に応じた内容の記載 について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要な基準で評価する</p> <p>【ルーブリック評価の活用(有)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>精神看護学概論を履修していることが望ましい</p>
<p>【教科書】</p> <p>1 岩崎弥生編:新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論/精神保健 メヂカルフレンド社(精神看護学 I で使用した教科書) 2 岩崎弥生編:新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社(精神看護学 I で使用した教科書)</p>
<p>【参考書】</p> <p>1 萱間真美編:パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版 照林社 2015 2 ドナルドW.フラック,ナンシーC.アントリアセン,澤 明監訳:DSM-5を使いこなすための臨床精神医学テキスト 医学書院 2015</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師資格を持ち、精神科病院での実務経験を有す</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火、水、木曜日 昼休み時間 (12:10～13:00)</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>福永研究室 3号館 3階 3417号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取る(代理不可)</p>

授業科目名	基礎看護技術実習	担当教員名	天野雅美 ・ 安藤幸枝 ・ 本田智子 ・ 高山由利江 他				
コード	22NPR338	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30 時間／実習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
<p>本科目では、療養生活の場に出向き、患者とのコミュニケーションや環境調整や清潔の援助など看護援助場面の一部実施を通して、患者におこなわれている日常生活の援助について学ぶ。主な実習の目的は、対象との関わりと看護実践の場への参加を通して、療養生活をしている対象を理解することである。学生は、看護師のシャドーイングや実際に看護実践を一部援助することで療養環境や看護援助を理解し、患者と接することにより、看護者としてふさわしい行動や看護について考え、理解を深める。</p> <p>本科目は、医療施設において看護学生としての学習方法を学ぶ最初の実習である。実習では、他者と関わることで自己を振り返り、看護学生としての自覚と責任ある行動をとることが求められる。今後の看護の学修への動機づけにもなる科目でもあり、臨床で学生が計画性をもって行動すること、チームの一員であるという自覚をもって行動できることに繋がる。</p>							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 患者の療養環境と療養生活を述べるができる。					○		
2 看護の実際を説明することができる。				○	○		
3 患者を尊重しながら、会話をすることができる。					○		
4 自己の振り返りや他者との情報共有を通して、学びを深めることができる。						○	
5 看護学生として自覚と責任ある行動をとり、主体的に実習に取り組むことができる。						○	
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	詳細は基礎看護学実習 I 要項を参照	天野雅美	<p>【実習1日目】 予習(90分): ・実習目標を理解し、各自の実習目標を立てる。 ・実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・実習に向けた事前課題を準備する。 ・必要な援助技術の練習を行う。 復習(30分): ・本日の目標を評価し、明日の行動計画を立案する。</p> <p>【実習2日目・4日目】 予習(各60分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(各90分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・見学・実施した看護援助について振り返り、翌日の行動計画に活用する。</p> <p>【実習3日目 水曜日】 学内 実習1日目・2日目で学んだ内容をグループで共有する。 実習1日目・2日目で学んだ内容を記録用紙を使用して整理する。 教員による指導を受ける。 病棟で実施している援助、患者に実施されている看護援助を練習する。(環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動／移送の援助) 復習(60分) 学内で指導を受けた内容をもとに記録用紙の整理をする。</p> <p>【実習5日目】 予習(60分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 ・実習の学びについてまとめておく ・実習評価表をもとに自己評価をする。</p>				
2	実習期間:2023年12月11日(月)ー12月15日(金)	安藤幸枝					
3	実習時間:原則として8:00～16:30	本田智子					
4	実習施設:聖マリアンナ医科大学病院 ほか	高山由利江					
5	実習方法:	他					
6	・学生は5～7名でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う。						
7	・病院・病棟オリエンテーションを受ける。						
8	・看護師とともに患者に行われている看護援助を見学する。						
9	・看護師とともに患者に行われている看護援助を一部実施する。						
10	(スタンダードプリコーション・環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動／移送の援助)						
11	・療養環境を観察する。						
12	・患者と会話をする。						
13	・実習の翌週に個別面接を行い、自身の学びを客観的に評価する。						
14							
15							
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			<p>・基礎看護技術実習前に、グループを中心に実習室を有効活用して、看護技術の復習をする。</p>				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート							
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク		○					
【課題のフィードバック】							
・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。							

<p>【成績の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、評価表の評価項目(100%)に沿って総合的に評価する。 ・実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。 <p>合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用(無)】 評価表は、実習要項に掲載する。</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護学概論」「基本援助技術」の単位修得が望ましい。 ・「生活援助技術」の履修中が望ましい。
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学概論、基本援助技術、生活援助技術で使用したテキスト 茂野 香おる他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】 基礎看護技術 I, 医学書院. 任 和子他:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【3】 基礎看護技術 II, 医学書院. 医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア.
<p>【オープンな教育リソース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に使用しない
<p>【担当教員の実務経験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師として臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。
<p>【オフィスアワー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員…実習病院で実習時間内に行う。
<p>【教員連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担当教員の連絡方法は、別途説明する。(Gmailもしくは、実習用携帯)
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションでは、事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・基礎看護技術実習の翌週には、評価面接と記録提出日を設けるため、出席すること。 ・健康管理に十分留意して実習に臨むこと。

授業科目名	公衆衛生看護学概論	担当教員名	戸塚恵子・渡辺羊子・上田修代			
コード	22NPR333	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修 ○	選択	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理のかつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
地域で生活する人々の健康に関する課題やニーズは、多様化、複雑化してきている。本講座では、個人・家族の状況も踏まえつつ、地域及び地域を構成する人々の心身の健康の維持・増進、疾病・障害の予防、回復・改善させるための保健活動について基本的な知識・技術を学ぶ。具体的には、母子保健では、育児不安の対応や虐待予防等、子ども・育児を取り巻く健康課題と支援について、成人・高齢保健では、生活習慣病や介護・認知症予防を学ぶ。また、こころの健康づくりや自殺予防、障害者(児)や難病患者への支援、ライフステージに合わせた歯科保健活動、地域における感染症対策について学修する。地域で生活する人々の健康に関する課題やニーズは、多様化、複雑化してきている。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
ディプロマ・ポリシー						
① ② ③ ④ ⑤						
1 公衆衛生看護の定義、目的、対象、方法が説明できる。						
2 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて説明できる。						
3 公衆衛生看護における予防の重要性を説明できる。						
4 公衆衛生看護における健康の維持・増進、改善を目指す活動方法について説明できる。						
5 母子、成人、高齢者、障害者(児)、精神、歯科、感染症対策の各分野における法制度・施策を説明できる。						
6 地域の人々と協働し、地域の健康課題を改善するための保健師・看護師の役割を考察できる。						
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション 公衆衛生システムと政策 1) 保健所の役割・機能、保健所保健師の役割・保健活動 2) 市町村保健センターの役割・機能、市町村保健師の役割・保健活動	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第1部 総論「2」P-32～51を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第1部 P-29の重要用語をまとめておくこと。			
2	公衆衛生看護の定義・目的・対象・活動の場 1) 公衆衛生の定義・目的・対象 2) プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションと最近の動向 3) 公衆衛生活動のプロセス	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第1部 総論「3」P-54～66を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第1部 P-66の重要用語をまとめておくこと。			
3	母子(親子)保健 1) 母子保健統計の動向 2) 母子保健の活動理念 3) 母子保健活動の実際と課題	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 各論「7」P-170を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 自分が住んでいる自治体の母子保健施策を調べておくこと。 【復習】(60分):			
4	母子(親子)保健 1) 育児支援のための母子保健活動 2) 広報誌を見てみよう	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 P-137の動画を視聴し、学びをノートに記載しておくこと。 【復習】(60分): 母子保健に関する新聞記事を読み、感想を書いておくこと。			
5	児童虐待の予防と対策1 1) 児童虐待の現状と課題 2) 児童虐待防止に関わる法制度 3) 児童虐待予防のための保健活動(関係機関・多職種との連携)	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「7」P-159～170を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 児童虐待に関する新聞記事を読み、感想を書いておくこと。			
6	児童虐待の予防と対策2 1) 地域における児童虐待対応の実際 2) グループワークにより学びの共有・看護師・保健師の役割について	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 児童虐待に関する基本的な知識を確認しておくこと。 【復習】(60分): グループワークにより気がついたこと、学んだこと、印象に残ったことなどをまとめておく。			
7	高齢者保健福祉1 1) 高齢者を支えるシステム・制度 2) 地域包括ケアシステムの構築 3) 地域住民との協働、関係機関・多職種との連携 4) 地域における活動の実際	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「8」P-171～178を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「8」P-178の重要用語をまとめておくこと。			
8	高齢者保健福祉2 1) 認知症予防(社会資源の活用と住民との協働) 2) 介護者の健康維持・改善 3) 高齢者虐待予防	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 認知症の基本的な原因・症状や看護をまとめておくこと。 【復習】(60分): 高齢者虐待の新聞記事を読み、考察したことをまとめておくこと。			
9	成人保健 1) 日本人の健康と課題 2) 生活習慣病の現状と対策 3) 健康日本21(第2次)	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「6」P-123～145を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「6」P-145の重要用語をまとめておくこと。			

10	産業保健 1) 産業保健の目的と特徴 2) 労働衛生関係法令 3) 特定健康診査・特定保健指導	戸塚(恵) 渡辺 上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「15」P-284～309を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「15」P-309の重要用語をまとめておくこと。
11	精神保健福祉 1) 精神保健福祉の目的と意義 2) 精神障害者の地域生活を支えるシステムと制度 3) 主な疾患の特徴と保健活動のポイント	戸塚(恵)・ 渡辺・上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「10」P-192～216を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「10」P-216の重要用語をまとめておくこと。
12	難病保健 1) システム・制度 2) 地域における難病患者の支援	戸塚(恵)・ 渡辺・上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「11」P-218～229を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「11」P-229の重要用語をまとめておくこと。
13	感染症と対策 1) 感染症とその予防に関する基礎知識 2) わが国の感染症予防対策・予防接種 3) 重要な感染症とその対策(結核・HIV感染症・食中毒等)	戸塚(恵)・ 渡辺・上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「13」P-244～264を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「13」P-264の重要用語をまとめておくこと。
14	学校保健 1) 児童生徒期の健康状態 2) 学校保健の概要	戸塚(恵)・ 渡辺・上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「14」P-266～281を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「14」P-281の重要用語をまとめておくこと。
15	歯科保健 1) 歯科保健の重要性 2) 歯科保健の法的根拠 3) ライフステージにおける歯科・口腔保健 まとめ	戸塚(恵)・ 渡辺・上田	【予習】(30分): 教科書 第3部 総論「9」P-180～189を熟読しておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第3部 総論「9」P-189の重要用語をまとめておくこと。 * 授業外学習時間は、30時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。
【アクティブラーニング】			チェック欄
①:PBL(課題解決型学習)			その他の工夫
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
課題や質問のフィードバックは、授業もしくは個別に行う。			
【成績の評価方法】			
定期試験:80%			
レポート課題:20%			
合計:100%			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
1. ナーシンググラフィカ「公衆衛生」メディカ出版 2. 図説 国民衛生の動向(2022/2023)厚生労働統計協会			
【参考書】			
1. ナーシンググラフィカ「社会福祉と社会保障」メディカ出版 2. 小規模多機能の意味論 岩下清子 佐藤義夫 島田千穂 雲母書房			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
戸塚恵子:看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神障害者、難病患者への支援と地域づくり、感染症対策、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。 渡辺羊子:大学病院の看護師の実務経験、地域保健(保健所・市保健センター)と学校保健(大学保健室)における多様な場で保健師として、実務経験を活かした授業を展開する。 上田修代:保健所、市町村保健センター保健師として従事し、母子、精神、成人・高齢者、難病などの分野で健康課題を抱える住民への支援、新型コロナ感染症などの感染症対策の実務経験を活かし講義を行う。			
【オフィスアワー】			
戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00 渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 上田修代:未定			
【教員連絡先】			
戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp 渡辺羊子:ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 上田修代:未定			
【備考】			
特になし			

授業科目名	成人の生活と健康	担当教員名	小濱優子 田中結花子			
コード	22NPR313	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	<p>本科目では、成人看護学概論で学修した、成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、現代社会における成人を取り巻く環境と生活習慣の特徴について生活者の視点から学修する。青年期から向老期まで長期にわたる成人の「生活」について、学習者自身や周囲の人々の生活の実際を振り返り、考察を深めていく。成人期に多い生活習慣病を中心とした様々な健康障害との関連についても学修する。さらに、急性期、慢性期、終末期など病期別の健康障害の特徴と、健康障害に対応した看護の特徴について学修する。授業後半では、「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを学修し、成人の健康状態におけるアセスメントの方法、看護診断を用いた看護過程の展開方法の基本について学ぶ。</p>					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					①	②
1 成人の生活スタイルと生活習慣病との関連について考察し、記述することができる。					○	
2 成人の健康レベル、健康障害に対応した看護の概要について説明できる。						○
3 成人看護の対象となる人々の全体像の把握と看護実践のための看護過程の展開のあり方を学ぶ。					○	○
4 「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを学習し、看護診断を用いた看護過程の展開ができる。					○	○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	オリエンテーション (授業概要、課題について) 成人の健康レベルに対応した看護(1) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護(急性期にある人の特徴と看護)	小濱	予習(60分):テキスト第6章を読み、急性期にある人の特徴を整理する。 復習(90分):本時の授業について復習する。課題:「成人の生活スタイルと生活習慣病の関連について」調べ、レポート作成の準備を行う。			
2	成人の健康レベルに対応した看護(2) 慢性病との共存を支える看護 (慢性期にある人の特徴と看護)	小濱	予習(60分):テキスト第7章を読み、慢性期にある人の特徴を整理する。 復習(90分):本時の授業について復習する。			
3	成人の健康レベルに対応した看護(3) 障害がある人の生活とリハビリテーション (リハビリテーションと看護)	小濱	予習(60分):テキスト第8章を読み、障害とは何か調べてまとめる。 復習(90分):本時の授業について復習する。			
4	グループワークおよび発表会 (成人の生活スタイルと生活習慣病の関連)	小濱	予習(90分):課題「成人の生活スタイルと生活習慣病の関連」のレポート提出の準備をする。 復習(90分):他のグループワークの発表内容から共有した学びについてレポートにまとめる。			
5	ヘルスケア、看護ケアを必要としている対象者に的確に応えるために、どのような看護計画・看護援助が望ましいかを系統的に考えることの必要性について理解する。 看護診断の背景となる理論とその関係について学ぶ	田中	予習(60分):NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(90分):本日の講義の復習をする。			
6	「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを学習し理解する	田中	予習(60分):NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(90分):本日の講義の復習をする。			
7	看護診断の歴史、看護診断(NANDA-1) 看護診断ハンドブックの読み方	田中	予習(60分):NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(90分):本日の講義の復習をする。			
8	事例①胸腔ドレナージ治療中の自然気胸患者の看護過程	田中	予習(60分):NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断p168～232 復習(90分):本日の講義の復習をする。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL (課題解決型学習)				特になし		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】	講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入。次回以降の講義でフィードバックを行う。					
【成績の評価方法】	定期試験:40%(成人の健康レベル、健康障害に対応した看護)、10%(課題レポート)、50%(ゴードンの機能的健康パターン) 合計:100%					
【ルーブリック評価の活用(無)】						

<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 看護がみえるVol.4看護過程の展開 メディクメディア NAND-1看護診断定義と分類2021-2023原書第12版 医学書院</p>
<p>【参考書】</p> <p>服部祥子:生涯人間発達論 医学書院 厚生労働統計協会編:国民衛生の動向 (最新版)</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての臨床経験年や成人看護学の教育経験のある教員が実務経験をもとに講義をする。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>小濱優子:ykohama@g.t-junshin.ac.jp 田中結花子:ytanaka@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

授業科目名	成人慢性期看護学	担当教員名	田中結花子 宗定水奈子				
コード	22NPR314	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】 本科目では、慢性的な健康課題を抱え、社会で生活する成人とその家族を総合的に理解し、疾病と共存しながら生活するための看護援助を講義と演習を通して学修する。慢性期看護の概念や慢性期看護に応用する理論を学び、疾病による機能障害が及ぼす看護課題を学ぶ。具体的には、病気の進行を予防することで、最適な健康の維持・増進を図り、質の高い生活を営めるように、生活をセルフマネジメントし再構築に必要な看護援助を学ぶ。 また、慢性期にある成人の事例を通して、身体・精神・社会面から統合して対象を捉え、健康に関わる課題を解決できるように、看護過程の展開方法を学ぶ。 さらに、多職種連携、チーム医療における看護師の役割についても学修する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 慢性疾患の特徴とその看護について理解することができる。				○	○	○	
2 慢性的な健康障害をもつ成人を対象とした援助方法を学ぶ。				○	○	○	
3 具体的には慢性期看護の特徴を踏まえ、患者及び家族が最適な生活を営み、QOL向上を目指すための援助方法と必要な技術を学ぶ。				○	○	○	
4 健康回復および健康を維持するための治療、検査の目的、方法、看護について理解する。				○	○	○	
5 演習では紙上事例を元に患者指導の体験をする。				○	○	○	○
6 多職種連携、チーム医療における看護師の役割についても学修する。				○	○	○	○
【授業計画】							
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1・2	授業ガイダンス 授業展開、評価、学修のすすめ方について(田中) I. 慢性期看護学概論 1. 慢性疾患とその治療の特徴 2. 慢性期にある患者への看護(セルフマネジメント支援) 3. 慢性期看護に用いられる概念・理論 患者理解(病みの軌跡) ケアの概念・理論(セルフケア) 社会的学習理論(自己効力、アンドラゴジー) 行動変容理論(行動変容ステージモデル)	田中	予習(45分):事前にシラバスを読み、疑問点を明らかにしておく。慢性疾患患者の理解のための諸理論について整理する。 復習(45分):教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。 ①慢性的な健康障害の特徴を述べられる。②慢性疾患患者がたどる「病みの軌跡」を説明できる。セルフケア、セルフマネジメントのための援助方法について要点を講義ノートにまとめて整理する。				
3・4	II. 慢性期療養生活援助論 1. 消化器系に健康障害を持つ患者の看護 食道・胃・十二指腸潰瘍患者の看護、潰瘍性大腸炎、クローン病患者の看護 2. 消化器系(膵臓・胆嚢・肝臓)に健康障害を持つ患者の看護	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器」を活用し、該当する疾患の形態機能、病態・検査・治療を復習する。 復習(45分):教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。 上部消化管(食道・十二指腸潰瘍)(膵臓・胆嚢・肝臓)(疾患患者のアセスメントと援助について学習し講義ノートにまとめて整理する。				
5・6	3.呼吸器系(気管支喘息・COPD・自然気胸・肺がん)に健康障害を持つ患者の看護	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学②呼吸器」を活用し、呼吸器の形態機能、COPDの病態・検査・治療、気管支喘息・肺がん・自然気胸について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し呼吸器(気管支喘息・COPD・肺がん)疾患患者のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
7・8	4.循環器系(狭心症・心筋梗塞・心不全)に健康障害を持つ患者の看護	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学③循環器」を活用し、循環器の形態機能、心不全と高血圧の病態・検査・治療について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し虚血系心(狭心症・心筋梗塞)循環器(心不全)疾患患者のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
9・10	5.血液系(再生不良性貧血、白血病患者)に健康障害を持つ患者の看護	宗定	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器」を活用し、血液の機能と造血のしくみ、再生不良性貧血・白血物の病態・検査・治療について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し血液疾患のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
11・12	6.腎臓系(慢性腎不全、透析療法、腎移植後)に健康障害を持つ患者の看護	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学⑧ 腎・泌尿器」を活用し、腎・泌尿器の形態機能、腎不全の病態・検査・治療について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し腎臓機能障害患者のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
13・14	7. 内分泌系(甲状腺 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)に健康障害をもつ患者の看護 8. 身体防御機能障害をもつ患者の看護 (田中) アレルギー性疾患(アレルギー疾患、アナフィラキシーショック)患者の看護 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデス、関節リウマチ)、HIV患者の看護。	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝」を活用し、甲状腺の形態機能、甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症の病態・検査・治療を予習する。 「系統看護学講座 成人看護学⑩ アレルギー・膠原病・感染症」を活用し、免疫機能とアレルギーについて、アレルギー疾患・自己免疫性疾患の病態・検査・治療について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し内分泌系・アレルギー疾患、自己免疫疾患患者のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
15・16	9. 内部環境調節機能障害をもつ患者の看護 ①糖尿病患者の看護	田中	予習(45分):「系統看護学講座 成人看護学⑥ 内分泌・代謝」を活用し、内分泌系の形態機能、糖尿病の病態・検査・治療を予習する。 復習(45分):教科書・配布資料を見直し糖尿病患者のアセスメントと援助について教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。				
17・18	10.糖尿病患者の教育計画の立案、指導パンフレット作成 成人教育の原理を踏まえて、事例患者(糖尿病)の教育計画を立案し、指導パンフレットを作成できる(G・W)	田中	予習(45分):15・16の授業をもとに、課題を仕上げて、グループで意見交換ができるように準備する。 復習(45分):講義、グループワークの意見交換をもとに次回授業までに成人教育の原理を踏まえて、事例患者(糖尿病)の教育計画を立案し、指導パンフレットを作成する。				
19・20	11.事例患者への食事指導(演習) 患者指導用パンフレットを完成し、予行演習ができる 作成したパンフレットを用いて患者指導ができる	田中	予習(45分):前回の授業をもとに、課題を仕上げて、プレゼンテーションできるように準備する。17・18の授業をもとに、課題を仕上げて、グループで意見交換できるように準備する。 復習(45分):演習後に作成したパンフレットや記録物提出の準備を行う。				
21・22	12.事例を用いた看護過程の展開 ・看護診断、看護過程の書き方について学ぶ ・慢性期によく使用する看護診断 ・事例を通して看護過程の演習 ・関連図の作成	田中	予習(45分):前回の授業をもとに、課題を仕上げてグループで意見交換できるように準備する。 NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(45分):講義、グループワークをもとに、次回授業までに課題を行う。				
23・24	12.事例を用いた看護過程の展開 事例を通して看護過程の演習 グループワーク・個人ワーク「問題の明確化・看護計画の立案」	田中	予習(45分):前回の授業をもとに、課題を仕上げてグループで意見交換できるように準備する。 NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(45分):講義、グループワークをもとに、次回授業までに課題を行う。				

25・26	12.事例を用いた看護過程の展開まとめ (田中) 看護過程の実施・評価の実際・看護サマリー	田中	予習(45分):前回の授業をもとに、課題を仕上げてグループで意見交換できるように準備する。 NANDA-1看護診断定義と分類、看護がみえる4、基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 復習(45分):一連の看護過程の展開の記録を提出できるようにする
27・28	13多職種連携、チーム医療における看護師の役割 1.多職種連携 2.チームアプローチ、チーム医療の必要性 3.多職種によるチームアプローチモデル 4.チームアプローチのための情報共有 5.チームにおける看護師の役割	田中	予習(45分):多職種連携、チーム医療における看護師の役割について予習をする。 復習:(45分):教科書・配布資料を見直しノートに整理する。
29・30	14.がん看護 1.がん医療の現在 2.がんの病態と臨床経過、がん患者の看護 3.がん患者の生活支援	宗定	予習(45分):がんの病理・病態・検査・治療について予習をする。 復習(45分):教科書・配布資料を見直しノート整理を行う。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
授業終了時、感想、質問など書いてもらい次回授業でフィードバックする。また、学生の理解度を確認しながら、個人指導をおこなう。			
【成績の評価方法】			
定期試験:筆記試験80% 看護過程10%(全記録物・グループワークの参加・課題への取り組み)で評価する。10%糖尿病指導案作成 合計:100%			
【ルーブリック評価の活用(有)】			
【履修申請上の条件】			
成人看護学概論、成人の生活と健康			
【教科書】			
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1「成人看護学総論」医学書院(1年次購入済) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2,3,5,6,8,15 医学書院(1年次購入済) 3. 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編 4. NANDA-I看護診断定義と分類2021-2023原書第12版 医学書院(2年次前期に購入済) 5. 看護がみえるVol.4 看護過程の展開メデックスメディア(2年次前期に購入済)			
【参考書】			
1. 松田ら(最新版):系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1-15, 医学書院 2. 鈴木久美ほか(2019):成人看護学 慢性期看護 改訂第3版, 南江堂 3. Strauss,A. L et al. ,南裕子監訳(1987):慢性疾患を生きるケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院 4. 野川道子他(2010):看護実践に活かす中範囲理論, メヂカルフレンド社 5. 鈴木志津枝 編集(最新版):成人看護学 慢性期看護論, ヌーヴェルヒロカワ 6. 三上れつ著『看護過程と看護診断』ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開(廣川書店)			
【オープンな教育リソース】			
http://www.jds.or.jp/ 一般社団法人日本糖尿病学会 https://ganjoho.jp/public/index.html 国立がん研究センターがん情報サービス 看護診断YouTube看護がみえる編集部【メディックメディア】			
【担当教員の実務経験】			
看護師としての臨床経験9年や成人看護学の教育経験のある教員が実務経験をもとに講義をする。がん看護の講義担当教員は、がん看護専門看護師の資格を有している。			
【オフィスアワー】			
平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。			
【教員連絡先】			
田中 結花子:ytanaka@g.t-junshin.ac.jp 宗定 水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	小濱優子				
コード	22NPR316	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
○	② 倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
本科目では、成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴について、生涯発達の見点からさまざまな発達理論をもとに学修する。成人各期の特徴について自己学修した内容をレポートにまとめ、グループディスカッションを行い、グループ毎のプレゼンテーションによる学びを共有する。成人期である学生自身も成人として、大人として自身の生涯発達の課題について考察を深め、多角的視点で成人期を捉えていく。さらに、成人を取り巻く最新の成人保健の動向について学び、成人の健康の維持・増進および疾病予防のための看護師の役割についても学ぶ。成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度との関連についても学ぶ。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1	成人とは何か、大人とは何か、自分の考えを記述できる、		○				
2	生涯発達論からみた成人各期の分類について説明できる。		○				
3	成人各期の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。		○		○		
4	成人保健の動向について説明できる。			○			
5	成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割について説明できる。			○	○		
6	成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度との関連について説明できる。				○		
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション(授業の概要・目標、スケジュール、評価基準等) I. 成人とは、大人とは何か、考えてみよう II. 生涯発達論からみた成人各期の特徴	小濱	予習(60分):テキスト第1章-A-①を読み、成人とは、大人とは何かについて考えておく。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。「成人とは、大人とは」について自己学習を行い、課題レポート①にまとめる。				
2	II. 生涯発達論からみた成人各期の特徴 1. エリクソン 2. ハヴィガースト 3. 生涯発達論	小濱	予習(60分):テキスト第1章-A-②を読み、成人各期の分類について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。成人期の発達危機の特徴について復習する。				
3	III.成人各期の各発達段階における特徴(1) 1. 身体的特徴 2. 精神的特徴 3. 社会的特徴	小濱	予習(60分):テキスト第1章-A-②、-Bを読み、成人の各発達段階の特徴を予習する。 復習(90分):「成人前期」の特徴についてノートに整理する。				
4	III.成人各期の各発達段階における特徴(2) 1. 身体的特徴 2. 精神的特徴 3. 社会的特徴 IV.成人保健の動向	小濱	予習(60分):テキスト第1章-A-②、-B、第2章-A、Bを読み、成人の各発達段階の特徴、成人保健の動向について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
5	V.成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割	小濱	予習(60分):テキスト第4章を読み、成人の健康の維持・増進および疾病の予防のための看護の役割について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
6	VI.成人への看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度	小濱	予習(60分):テキスト第3章を読み、看護実践に必要な支援体制と保健医療福祉制度について予習する。 復習(90分):本時の授業目標についてノートに整理する。				
7	VII.グループワーク (成人とは何か、成人の看護について)	小濱	予習(60分):「成人とは、大人とは何か」について自己の考えをまとめておく。 復習(90分):「成人とは、大人とは何か」についてグループでまとめたことを整理し、発表に向けて準備を行う。				
8	VII. グループワーク発表会 (成人とは何か、成人の看護について)	小濱	予習(90分):「成人とは、大人とは何か」についてグループでまとめ、発表の準備を行う。 復習(90分):他のグループワークの発表内容から学びを共有し、課題レポート②にまとめる。				
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			特になし				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション		○					
⑥:実習・フィールドワーク							
【課題のフィードバック】							
講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入し、各々の課題については次回以降の講義でフィードバックを行う。							
【成績の評価方法】							
到達目標に明示している項目を定期試験の評価基準とする。 定期試験:80%、課題レポート①:10%、グループワーク後の課題レポート②:10%とする。 合計:100%							
【ルーブリック評価の活用(無)】							
【履修申請上の条件】							
特になし							

【教科書】 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院
【参考書】 服部祥子:生涯人間発達論 医学書院 厚生労働統計協会編:国民衛生の動向 (最新版)
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 担当教員の実務経験(臨床・成人看護学教育)を取り入れ、教授する。
【オフィスアワー】 平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。
【教員連絡先】 ykohama@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 各回の授業前の予習、授業後に復習を行うこと。

授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	塚本 都子			
コード	22NPR317	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次/期間	1年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
本科目は、ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的な特徴を疑似的な生活体験をもとに学ぶ。具体的には、避けることのできない生理的な老いについて、高齢者疑似体験をとおし、筋力・視力・聴力低下など身体的変化や心理面への影響を明らかにし、理解を深める。また、フレイルやサルコペニアにつながる視点から、高齢者個々の日常生活への影響について考察する。少子超高齢社会がすすむ現在、我が国の老年人口の推移と将来推計の特徴をふまえ、世帯構成や要介護者の増加要因を理解し、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題について学ぶ。さらに、自己のエイジズムの傾向を知り、老年看護を支える理論・概念をおさえ、高齢者の権利擁護を基盤とした老年看護の役割と目標を学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
			ディプロマ・ポリシー			
			①	②	③	
1 ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。			○			
2 高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題を述べることができる。					○	
3 高齢者の権利擁護について説明できる。			○		○	
4 老年看護の理論と概念について述べることができる。			○		○	
5 高齢者の健康障害の特徴をふまえ、看護の原則と目標を説明できる。			○		○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	イントロダクション 1) 老いのイメージ 2) 高齢者の健康 3) 加齢と老化 4) フレイルとサルコペニア	塚本	予習(30分):老いのイメージについて、自分自身の考えをまとめる。 復習(30分):講義後、「老いる」ことの自分自身の考えをまとめる。			
2	老年期にある対象の身体的特徴 1) 老化の疑似的生活体験 【グループ演習】 (1) 視力低下、視覚障害 (2) 手指の巧緻性の低下 (3) 聴覚低下 (4) 全身の筋力や関節可動域の変化	塚本 小林 大津山	予習(60分):老化にともなう高齢者の身体的変化についてテキストを読みまとめる。 復習(60分):演習を振り返り、器官別に身体的機能の変化の特徴をまとめる。			
3	2) 臓器・器官別の加齢性変化 (1) 脳・神経系 (2) 心・血管系 (3) 呼吸器系 (4) 消化器系 (5) 腎・泌尿器系 (6) 骨・筋・運動器系 (7) 造血器・生殖器系		課題①(300分):「老化が心身と生活に及ぼす影響について」のレポートを提出する。 提出期間:1週間後。(成績評価15%)			
4	老化による日常生活への影響 1) 身体的側面の変化 2) 知的・認知的側面の変化 3) 心理的側面の変化 4) 社会的側面の変化	塚本	予習(30分):テキストの該当するページを読み、分からない用語を調べる。 復習(30分):講義を振り返り、高齢者の生活のなかで注意が必要な場面について、根拠とともにまとめる。			
5	老年期の発達課題 1) 発達理論と発達課題 2) 老年期の発達課題 3) スピリチュアリティ	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):老年期の発達課題、死生観についてまとめる。			
6	人口学的指標からの老年期の理解および医療のしくみ 1) 高齢化と高齢者世帯 2) 高齢者の健康状態、平均寿命、健康寿命、死亡の動向 3) 高齢者と家族機能 4) 介護家族の課題 5) 高齢者の医療のしくみ	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):介護家族に対して、どのような対策が必要かを考えまとめる。各自在住する地域の介護保険サービス提供施設について調べる。			
7	老年看護の原則と目標【1】 1) 高齢者に対するスティグマ、エイジズム 2) アドボカシー、アドボケート 3) ノーマライゼーション 4) 自立支援	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、看護師を目指す自己の課題を明らかにする。 復習(30分):自立支援についてまとめる。			
8	老年看護の原則・目標【2】 1) 高齢者虐待/身体拘束 2) 権利擁護のための制度 3) 老年看護における看護理論 ・エンパワメント ・ストレングスマodel ・ライフレビュー ・コンフォート理論 4) 高齢者のための国連原則 5) まとめ	塚本	予習(30分):新聞記事の検索システムを活用し、高齢者虐待や身体拘束に関連した報道をとりあげ、自己の考えをまとめる。 復習(30分):高齢者の権利を擁護するために、必要な対策について考えをまとめる。 課題②(360分) 1回～8回までの授業を振り返り、レポートを提出する。 タイトル「近年の高齢者を取り巻く問題・課題と看護職を目指す自分の考え」 表紙に、タイトルを書き、文字のフォントは、12ポイント・明朝体・太文字とする。 表紙以外の本文は、フォント10.5ポイント・明朝体とする。 用紙は、A4、横書き、上下・左右余白ともに20mmとし、1ページ40字×40行とする。 提出期間:1週間後。(成績評価15%)			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		IBL(Inquiry Based Learning) タブレット端末を活用した身体機能チェック 高齢者生活行動疑似体験
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。		
【成績の評価方法】		
課題①レポート15点、課題②レポート15点、筆記試験70点とし、総合評価する。 レポートの課題と評価は、事前ガイダンスをおこない、5つの観点に対して評価基準3段階で作成したルーブリック表を用いておこなう。 評価と到達目標との関係については、到達目標1は課題①と筆記試験で評価する。到達目標2・3・5は、課題②と筆記試験で評価する。到達目標4は、筆記試験で評価する。		
【ルーブリック評価の活用(有)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
亀井智子:老年看護学①老年看護学概論/老年保健 第5版、/メヂカルフレンド社。		
【参考書】		
1.百瀬 由美子, 奥野 茂代ほか:老年看護学 第6版 一 概論と看護の実践一, ヌーベルヒロカワ。 2.北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 9版, 医学書院。 3.佐々木英忠ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 5版, 医学書院。		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動のある教員が、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族を支える看護の原則、目標・理論について教授する。		
【オフィスアワー】		
塚本は、火・木の12:00～13:00、16:30～17:30である。研究室への訪室やe-mailでの質問に対応する。		
【教員連絡先】		
mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
この科目は、2年次の必修科目である老年生活機能援助論・老年健康回復援助論につながる重要な学修内容となっています。 予習、復習は、必ず教科書を活用し、丁寧に行ってください。授業を受けることで、老年看護学への学問的な関心が高まります。		

授業科目名	老年生活機能援助論	担当教員名	塚本都子 小林美智子 大津山優葵			
コード	22NPR318	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
本科目は、1年次の必修科目である老年看護学概論で学修した高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴を踏まえて、発展的な学修内容である。老化、病、障害を合わせ持つ高齢者と家族に対して、個々の生活史を踏まえ、健康や生活に関する意思を尊重した看護について学ぶ。前半においては、避けることのできない生理的な老いに影響を受ける生活リズムに焦点をあてた学修内容である。生活リズムの構成要素である食事、排泄、清潔、睡眠と覚醒、活動と休息の視点から高齢者特有の生活機能の障害に対する本人の能力を重要視した看護の方法について学修する。後半においては、病的老化に影響を受ける生活機能に焦点をあてた学修内容である。摂食・嚥下機能の障害、認知機能の障害、コミュニケーション障害に関する代表疾患と症状を取り上げ、演習を通じて根拠のある看護の方法について学修する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
						ディプロマ・ポリシー
						① ② ③ ④ ⑤
1	高齢者の生活の場(施設・病院・居宅サービス)の変化および受療形態に応じた看護について説明することができる。					○
2	高齢者個々の生活を整える看護について、老化による生活への影響と関連づけて述べるができる。					○
3	排泄機能の障害に応じた看護方法について、明確な根拠をもとに記述できる。					○
4	摂食・嚥下機能の障害に応じた看護方法について、明確な根拠をもとに記述できる。					○
5	認知症高齢者の状況に適した看護について、明確な根拠をもとに述べるできる。					○
6	高齢者の状況に適した援助的コミュニケーションについて、明確な根拠をもとに記述できる。					○
【授業計画】						
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	老年看護の理念 ・老年看護の理念・目標・原則 高齢者の日常生活を支える基本動作と看護 ・基本動作と転倒、フレイル、サルコペニアのアセスメントと看護	塚本	予習(30分):1年次「老年看護学概論」の身体的・精神的・社会的特徴を復習する。 授業内容についてテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):講義を振り返り、転倒リスク、フレイルとサルコペニアの定義をまとめる			
2	施設・居宅サービスにおける看護 ・介護老人保健施設、介護老人福祉施設、デイケア・デイサービスの看護 受療形態に応じた高齢者の看護 ・入院時、外来時の看護(退院支援を含む) ・高齢者が受けることの多い検査と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):講義を振り返り、施設・居宅サービスの特徴をまとめる			
3	高齢者にとっての生活リズムと看護 ・生活リズムのアセスメントと看護 ・睡眠障害と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的な睡眠障害への看護に関してまとめる。			
4	薬物療法を受ける高齢者の看護 ・加齢に伴う薬物動態の変化 ・薬物療法に際しての管理とリスクマネジメント	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者の加齢に伴う生理的変化を取り上げ、薬物動態に伴う課題を整理する。			
5	高齢者にとっての排泄と看護 ① ・排泄のアセスメントと看護 ・排尿障害と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者の排泄機能の障害について性差、原因、看護をまとめる			
6	高齢者にとっての排泄と看護 ② ・排泄のアセスメントと看護 ・排便障害と看護(便失禁・便秘・下痢など)	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(31分):高齢者の排泄機能の障害について性差、原因、看護をまとめる			
7	高齢者にとっての清潔と看護 ① ・清潔のアセスメントと看護 ・オーラルフレイルと看護【演習】	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的なオーラルフレイルに関する看護をまとめる。 事後レポート(◎成績評価10%)、レポート作成期間:1週間			
8	高齢者にとっての清潔と看護 ② ・清潔のアセスメントと看護 ・皮膚障害(掻痒症、褥瘡、スキンケア)と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的な皮膚障害について、原因別に看護をまとめる。			
9	高齢者にとってのコミュニケーションと看護 ① ・コミュニケーション意義と機能低下のアセスメントと看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者の老化に伴うコミュニケーション機能の低下に応じた看護についてまとめる。			
10	高齢者にとってのコミュニケーションと看護 ② ・脳血管疾患によるコミュニケーション障害と看護【演習】	塚本 小林 大津山	予習(30分):事前の演習課題に取り組む。 復習(30分):演習を振り返り、指定のレポートを作成する。 事後レポート(◎成績評価10%)、レポート作成期間:1週間			
11	高齢者にとっての食事・水分摂取と看護① ・食事のアセスメントと看護 ・PEM(たんぱく質エネルギー低栄養状態)と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):PEMとサルコペニア、フレイルとの関係についてまとめる。			

12	高齢者の食事・水分摂取と看護② ・摂食、嚥下機能障害と看護	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(31分):授業を振り返り、摂食と嚥下機能障害への看護に対する根拠を明確にする。	
13	高齢者の食事・水分摂取と看護③ ・摂食、嚥下機能障害があるb高齢者への食事支援【演習】	塚本 小林 大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(90分):演習を振り返り、摂食と嚥下機能障害への看護に対する根拠を明確にする。 事後レポート(⑥成績評価10%)、レポート作成期間:2週間	
14	認知機能の障害をもつ高齢者の看護 ① ・認知症とは(原因疾患・症状・診断・治療・予防) ・認知症、うつ、せん妄との違い ・認知症高齢者の看護	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):認知症の原因疾患別に授業内容を振り返る。	
15	認知機能の障害をもつ高齢者の看護 ② ・コミュニケーション方法、環境づくり ・日常生活のケア、行動・心理症状への対応【グループ演習】	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(90分):認知症高齢者のBPSD誘因と予防について、環境因子の視点から看護師の関わり方をまとめる。 グループ演習課題(④成績評価10%)	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	模擬嚥下教材
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。				
【成績の評価方法】				
演習レポート30点(①②③各10点)、グループ演習課題10点(④)、定期試験60点で総合評価する。 レポートの課題の評価は、事前ガイダンスをおこない、5つの観点に対して評価基準3段階で作成したルーブリック表を用いておこなう。				
【ルーブリック評価の活用(有)】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
亀井 智子:新体系看護学全書 老年看護学 2 健康障害をもつ高齢者の看護 5版,メヂカルフレンド社.				
【参考書】				
1.百瀬 由美子, 奥野 茂代他:老年看護学—概論と看護の実践 第6版,ヌーベルヒロカワ. 2.山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院. 3.北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学9版, 医学書院. 4.佐々木英忠ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 5版, 医学書院.				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
高齢者を対象とした看護師実務経験のある教員を中心に、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族の生活機能を支える看護を教授する。				
【オフィスアワー】				
塚本は、火・木の12:00~13:00、16:30~17:30である。研究室への訪室やGmailでの質問に対応する。				
【教員連絡先】				
mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
この科目は、既習の老年看護学概論の学びをもとに発展的に学修する科目であり、老年健康回復援助論に繋がる重要な学修内容となっています。 進度は、1週間に2時間ずつ進みます。予習、復習および課題レポートに対して、教科書、関連参考書を活用し丁寧に取り組むことにより、老年看護学への学問的な関心が高まります。				

授業科目名	老年健康回復援助論		担当教員名	小林美智子 塚本都子 大津山優葵		
コード	22NPR319		区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択
年次/期間	2年次/後期		単位/時間数/形態	2単位/60時間/講義・演習		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
本科目は、健康状態の急激な変化があり生命の危機的状況や周手術期にある高齢者の特徴と看護について学修する。代表的な急性機能障害として、骨折、脳梗塞、COPD等を取りあげ、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえて、健康課題と必要となる看護を生活者の視点から多面的に思考する。演習では、片麻痺体験をふまえてADL障害に対するリハビリテーション看護技術について学ぶ。また、発災時の高齢者特有のリスク要因をもとに、避難所生活の疑似体験をとおして、高齢者の課題と支援について学修する。看護過程の展開では、手術療法を受ける高齢者の事例または慢性疾患の急性増悪の事例をもとに、急性期にある高齢者に対して入院時から退院後の生活を見据えた支援方法について理解を深める。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1	急性期・回復期にある生活機能障害を伴う高齢者への看護について根拠とともに記述することができる。				○	○
2	高齢者特有の医療事故におけるリスクマネジメントの観点から、高齢者を護るための看護の基本を記述することができる。				○	
3	周手術期において高齢者に生じやすい問題を列挙し、それぞれの看護の基本を記述することができる。				○	
4	急激な健康破綻により生命の危機的状態にある高齢者への看護について述べるることができる。				○	
5	紙上事例による看護過程の展開を通して、高齢者を尊重した個別性のある看護計画を立案することができる。				○	○
【授業計画】						
授業計画			担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1 9/15 ①限	イントロダクション 1.急性状況にある高齢者の特徴 1)急性状況にある高齢者の身体的な特徴 2)緊急入院による心理的影響 3)緊急入院に伴う合併症 2.急性状況にある高齢者への看護 1)急性期看護の特徴(入院時、入院中、在宅へつなぐ退院支援) 2)高齢者の急性期入院ケアモデル		担当:小林	予習(30分):学修内容についてテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):講義を振り返り、急性状況にある高齢者への看護をまとめる		
2 9/15 ②限	3. 高齢者と医療事故 1)高齢者特有のリスク要因 2)リスクマネジメント 3)医療事故への対応		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):講義を振り返り、高齢者の医療事故に関する特徴をまとめる		
3 9/21 ④限	4. 高齢者の救急対応と看護 1 1)脱水 2)熱中症		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):講義を振り返り、高齢者の脱水、熱中症の要因と対応をまとめる		
4 9/22 ①限	5. 高齢者と災害看護 1)高齢者特有のリスク要因 2)避難所生活における高齢者の課題と支援		担当:大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):演習を振り返り、生理的老化、病的老化をもつ高齢者の避難所生活における自己の課題をまとめる		
5 9/22 ②限	高齢者と災害看護 【演習】 3)避難所生活における高齢者の課題と支援		担当:大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(90分):講義・演習を踏まえ、指定された課題レポートをまとめる。 事後レポート(●成績評価5%)、レポート作成期間:1週間		
6 10/2 ①限	6. 高齢者の救急対応と看護 2 1)感染性胃腸炎 2)COPD 急性増悪		担当:塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
7 10/2 ②限	7. 高齢者特有の症状への看護 1)掻痒感 2)疼痛		担当:塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
8 10/11 ①限	3)眩暈 4)起立性低血圧 5)深部静脈血栓症		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
9 10/11 ②限	8. 急性期病院で治療を受ける認知症高齢者への看護 1)入院により生じやすい問題 2)倫理的課題 3)中核症状の悪化予防 4)BPSDの発症予防		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
10 10/19 ④限	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 【演習】 4)ADL障害の体験 (片麻痺・杖歩行)		担当:塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(90分):講義・演習体験を踏まえ、指定された課題レポートをまとめる。 事後レポート(●成績評価5%)、レポート作成期間:1週間		
11 10/23 ①限	9. 脳血管・神経機能障害を持つ高齢者の看護 1)出血性疾患への看護 病態と要因、診断治療、症状と生活への影響、看護 2)脳梗塞性疾患への看護 病態と要因、診断治療、症状と生活への影響、看護		担当:塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
12 10/23 ②限	3)パーキンソン病とパーキンソン症候群 病態と要因、診断、治療、症状と生活への影響、看護		担当:塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
13 10/30 ①限	10. 手術療法を受ける高齢者への看護 1)高齢者の多い手術 2)手術と麻酔に伴うリスク 3)術前看護 4)術中看護 5)術後看護		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を踏まえ、自己の課題に対してまとめる。		
14 10/30 ②限	11. 手術療法を受ける高齢者への看護 大腿骨頸部骨折で骨董全置換術を受ける患者の看護		担当:大津山	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的な避難所生活における看護をまとめる。		
15 11/13 ①限	12. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 1)高齢者のリハビリテーションの意義 2)高齢者のリハビリテーションにおける留意点		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的な避難所生活における看護をまとめる。		
16 11/13 ②限	3)リハビリテーションの実際 4)退院支援		担当:小林	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(30分):高齢者に特徴的な避難所生活における看護をまとめる。		

17 11/20 ①限	13.看護過程の展開(1)【演習】 「急性期の治療を受ける高齢者の看護」 演習オリエンテーション(ヘンダーソン)事例紹介・情報の整理	担当:小林 塚本、大津山	予習(30分):看護過程の展開(演習)に必要な既習の知識を振り返る。 17回~30回まで、演習参加度・個人課題・グループ課題(◎成績評価30%)
18 11/20 ②限	13.看護過程の展開(2)【演習】 アセスメント1・2	担当:小林 塚本、大津山	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、修正する。 次回までに指定された課題に取り組む。
19 11/27 ①限	13.看護過程の展開(3)【演習】 アセスメント3・4	担当:小林 塚本、大津山	予習(30分):各自で情報を整理し、アセスメントをする。
20 11/27 ②限	13.看護過程の展開(4)【演習】 グループ発表①ーアセスメント1~4ー	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、アセスメントの発表準備を行う。 復習(60分):プレゼンテーションからの学びを踏まえて、アセスメントを修正する。
21 11/30 ③限	13.看護過程の展開(5)【演習】 アセスメント5・6	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):各自で指定された課題に取り組む。
22 11/30 ④限	13.看護過程の展開(6)【演習】 アセスメント7・8	担当:小林 塚本、大津山	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、修正する。 次回までに指定された課題に取り組む。
23 12/4 ①限	13.看護過程の展開(7)【演習】 アセスメント9・10	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):各自で指定された課題に取り組む。
24 12/4 ②限	13.看護過程の展開(8)【演習】 グループ発表②ーアセスメント5~10ー	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、アセスメントの発表準備を行う。 復習(60分):プレゼンテーションからの学びを踏まえて、アセスメントを修正する。
25 12/11 ①限	13.看護過程の展開(9)【演習】 アセスメント11・12	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):各自で情報を整理し、アセスメントをする。
26 12/11 ②限	13.看護過程の展開(10)【演習】 アセスメント13・14 関連図	担当:小林 塚本、大津山	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、関連図を修正する。
27 12/18 ②限	13.看護過程の展開(11)【演習】 関連図・健康課題(看護問題)の明確化	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):各自で指定された課題に取り組む。 グループ発表(プレゼンテーション)に備える。
28 12/18 ③限	13.看護過程の展開(12)【演習】 グループ発表③ー関連図・健康課題ー	担当:小林 塚本、大津山	復習(60分):グループ発表、質疑応答の結果を踏まえて、修正する。
29 12/19 ①限	13.看護過程の展開(13)【演習】 看護計画の立案	担当:小林 塚本、大津山	予習(60分):グループで決定した健康課題に対して看護計画を立案してくる。
30 12/19 ②限	13.看護過程の展開(14)【演習】 グループ発表④看護計画の立案	担当:小林 塚本、大津山	復習(60分):グループ発表の結果、自己評価・他者評価を踏まえて、修正する。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		<input type="radio"/>	IBL(Inquiry Based Learning)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		<input type="radio"/>	
③:ディスカッション・ディベート		<input type="radio"/>	
④:グループワーク		<input type="radio"/>	
⑤:プレゼンテーション		<input type="radio"/>	
⑥:実習・フィールドワーク		<input type="radio"/>	
【課題のフィードバック】			
リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。			
【成績の評価方法】			
演習レポート10点(①②各5点)、看護過程演習30点、定期試験60点で総合評価する。 看護過程演習の評価は、事前ガイダンスを実施し、評価の観点と基準を示したルーブリック表を用いる。 【ルーブリック評価の活用(○有・無)】			
【履修申請上の条件】			
なし			
【教科書】			
1. 亀井智子:新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 5版,メヂカルフレンド社。			
【参考書】			
1. 池松裕子ほか:成人看護学 急性期看護論,スーベルヒロカワ。 2. 石川ふみよ:看護過程の解体新書,学研。 3. 山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院。 4. 北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学9版,医学書院。			
【オープンな教育リソース】			
なし			
【担当教員の実務経験】			
看護師の実務経験、認知症療養型施設での看護師臨床研修等の経験がある教員が中心に教授する。			
【オフィスアワー】			
小林:月~木12:00~13:00(実習期間を除く)、塚本:火・木12:00~13:00、16:30~17:30研究室への訪室やe-mailでの質問に対応 大津山:月~木12:00~13:00(実習期間を除く)			
【教員連絡先】			
mkobayashi@g.t-junshin.ac.jp mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
この科目は、老年看護学概論と老年生活機能援助論の学びをもとに発展的に学修する科目であり、3年次に位置する老年生活支援実習、老年退院支援実習に必要な学修内容となっています。進度は、1週間に2時間ずつ進みます。看護過程の展開はグループ演習形式で行います。必ず、事前課題に対して教科書、関連参考書を活用し丁寧に取り組み、演習に参加してください。			

<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 池松裕子ほか:成人看護学 急性期看護論,ヌーベルヒロカワ. 2. 石川ふみよ:看護過程の解体新書,学研. 3. 山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院. 4. 北川公子ほか:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学9版, 医学書院.
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>老年内科での看護師の実務経験、認知症療養型施設での看護師臨床研修等の経験がある教員を中心に、高齢者特有の急性期医療を受ける高齢者と家族を支える看護を教授する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>塚本は、火・木の12:00～13:00、16:30～17:30である。研究室への訪室やe-mailでの質問に対応する。</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>この科目は、老年看護学概論と老年生活機能援助論の学びをもとに発展的に学修する科目であり、3年次に位置する老年生活支援実習、老年退院支援実習に必要な学修内容となっています。進度は、1週間に2時間ずつ進みます。看護過程の展開はグループ演習形式で行います。必ず、事前課題に対して教科書、関連参考書を活用し丁寧に取り組み、演習に参加してください。</p>

授業科目名	小児看護学概論	担当教員名	荻原 康子					
コード	22NPR320	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
本科目では、小児看護学を学ぶ基盤となる子どもの特徴および小児医療・看護の変遷、子どもの成長・発達理解に必要な各理論、倫理的配慮、各発達段階の特徴、さまざまな小児看護の場における子どもとその家族および場の特徴、などについて学修する。子どもを取り巻く環境が大きく変化し、国の法律・施策の改正が行われている。とりわけ、2016年に一部改正のあった児童福祉法において「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)に則る内容である」との明示がされ、すべての子どもはその家族を含め「最善の利益を目指す」関わりを受ける権利のあることが掲げられている。看護職は、多岐に渡る看護の場において、子どもの個の特徴をふまえたうえでセルフケア能力が培われるよう働きかける役割をも担うが、このために必要な、各発達段階の特徴、発育・発達の評価などの一般的なスケールを学修する。また、あらゆる場での多職種連携・協働のなかで看護専門職の責務が果たせるよう、その場の概要と看護師の具体的な役割について学び、続く当該領域の学びの基盤と学習の動機づけの機会とする。基本となる概念理解が「子ども中心のケア」にむけ重要である。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 小児看護の理念、目的、対象について説明ができる。				○		○		
2 小児看護における倫理と、子どもの権利について説明ができる。							○	○
3 子どもの成長・発達に関連の深い理論について、その活用の意義を述べるができる。					○			○
4 子どもの一般的な各発達段階の特徴と、健やかな成長・発達のための養育および環境について説明ができる。						○		
5 健康障害をもつ子どもと家族にとっての疾病障害の受容、ストレス・コーピング、について説明ができる。							○	
6 健康障害をもつ子どもと家族への支援について説明ができる。				○				
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	ガイダンス:小児看護学の全体の学習概要、科目概要、小児看護学概論を学ぶ意義 小児看護の特徴と理念: ・小児看護の理念、目的、対象 ・小児看護の変遷と成育医療に考え方 ・小児看護における倫理と子どもの権利(インフォームドアセント、セルフケア、アドボガシーほか) ・ポウルビィ愛着理論、エリクソン自我発達理論、ピアジェの認知発達理論 ・小児医療、小児看護の課題	荻原	事前学習: 関連のシラバスをよく読み概要を理解する。講義が行われる範囲である「小児看護の特徴と理念」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、教科書および資料をもとに学んだ内容をノートにまとめる。(90分)。					
2	子どもの成長・発達 ①乳児期: ・形態的、機能的、心理社会的発達 ・授乳、離乳、栄養 ・感染予防、事故防止 ・あそび、安全な環境 ・愛着形成分離不安 ・育児支援	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「新生児期、乳児期の成長・発達」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、教科書および資料をもとに学んだ内容をノートにまとめる。(90分)。					
3	子どもの成長・発達 ②幼児期: ・形態的、機能的、心理社会的発達 ・基本的な生活習慣の自立 ・食生活、栄養、食育 ・自我発達、あそび ・事故防止と安全教育 ・育児支援	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「幼児期の成長・発達」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
4	子どもの成長・発達 ③学童・思春期: ・形態的、機能的、心理社会的発達 ・セルフケアと保健教育 ・食生活 学習と遊び ・ライフスキルの獲得、生活習慣病の予防 ・仲間、異性との関わり ・親子関係 ・アイデンティティの確率 ・第二次性徴 ・問題行動と対処	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「学童・思春期の成長・発達」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
5	子どもの成長・発達 ④ 成長・発達、発達評価、あそびの機能と発達: ・成長発達 の概念、原則、影響する因子 ・身体発育評価(パーセントイル、カウブ指数、ローレル指数、肥満度) ・精神運動機能評価(デンバー発達判定法ほか) ・認知、情緒、社会性、言語など ・あそびの意義と分類	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「子どもの成長・発達、発達評価、各発達段階の章の中のあそびに関する項目(該当ページを目次から見つけること)」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
6	健康障害をもつ子どもと家族①急性期にある子どもと家族の看護: ・病気の受け止め ・外来受診(緊急度、トリアージ) ・入院、問診、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・検査、処置 ・ストレスコーピングと支援 ・安全、安楽への援助 ・プレパレーション、ディストラクション	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「急性期にある子どもと家族の看護」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
7	健康障害をもつ子どもと家族②慢性期にある子どもと家族の看護: ・慢性疾患の特徴 ・公費助成 ・キャリアオーバー ・地域連携、調整 健康障害をもつ子どもと家族③終末期にある子どもと家族の看護: ・子どもにとっての死の概念 ・緩和ケア ・家族の反応と援助 ・死の準備教育	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「慢性期および終末期にある子どもと家族の看護」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
8	障害のある子どもと家族: ・障害の種類 ・障害の受容 ・心身障害の定義と種類 ・発達障害 ・社会資源活用と援助 子どもの虐待と看護: ・子どもの虐待とは ・不適切な養育(マルトリートメント)について ・発生へのリスク要因と発生予防、早期発見 ・児童虐待における看護(詳細は他科目に続く)	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「障害のある子どもと家族」「子どもの虐待と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(90分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(90分)。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)			毎回、パワーポイントによる講義をメインに行う。 授業資料は、事前にPDFでコンテンツサイト上にアップし、ペーパーレス化に努める。					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション								
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
疑問や質問は、オフィスアワーを活用すること。								

<p>【成績の評価方法】</p> <p>課題:20%</p> <p>定期試験:80%</p> <p>合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし。</p>
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① 医学書院 ・『小児臨床看護各論』小児看護学② 医学書院
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『小児看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド)』(2019)照林社 ・『新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論』(2021)メジカルフレンド社 ・その他適宜紹介する。
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>看護師としての臨床経験のある教員が、小児期のさまざまな年齢や健康レベルにある小児の特徴と、子どもが育まれる環境や社会的資源の重要性について教授する。また、さまざまな状況にある子どもへの日常生活援助の在るべき方向性について、ケアの実際のイメージがしやすいよう、画像、動画、エピソード等を用いて指導する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>木曜日、金曜日、昼休み時間</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>yogihara@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし。</p>

授業科目名	小児看護学援助論	担当教員名	荻原康子			
コード	22NPR321	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			

【ディプロマ・ポリシー】

- ① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
- ② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
- ③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
- ④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
- ⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では、疾病・障害のある子どもと家族、および、さまざまな状況にある子どもと家族に対する看護援助について学ぶ。学修内容は例えば、既に小児看護学概論で学んだ「子どもの権利の擁護」が、実際の看護援助において何をどう実践することなのかという疑問と関心が持てるよう、わかりやすく看護の視点での疾患や状況について講義を行う。病態や症状について知識を得て推論することが、根拠をもった看護につながることを理解ができるよう学修を進める。看護基礎教育における積極的な知識の積み重ねが、やがて出会う子どもに対する看護援助につながることを念頭に、子どもの疾患、障害、検査、治療について学修する。子どもは常に成長・発達する存在であり、いかなる健康段階にあっても、成長と発達への促しは必須である。「教育を受ける」「遊ぶ」といった、子ども特有の権利を行使できるよう、具体的な支援を学ぶ。また、小児期にみられやすい疾患は数多くあり、同じ疾患としても個人差は大きい。よって、「その子どもと家族」にのっての「最善の利益」が考えられるよう、これまでに得た知識を統合し看護援助に活かせるよう、柔軟に想起し思考できることを目指し学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】

	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康障害を持つ子どもと家族の特性について述べるができる。			○		
2 子どもにみられる疾患の病態、症状、診断、治療、予後に関する知識を統合し、患児に応じた看護について述べるができる。		○			
3 健康障害をもちながら成長・発達する「子どもの権利」について、医療を受ける上での擁護を具体的に述べるができる。				○	
4 障がいの受容と、医療的ケア児の課題、小児看護の役割と責務について説明することができる。			○		
5 障がいのある子どもの「療育」に関連する多職種の、それぞれの役割をふまえたチームアプローチについて説明することができる。				○	
6 虐待を受けている子どもと家族の看護が説明できる。		○			
7 災害時の子どもと家族の看護が説明できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	●ガイダンス: ・科目の概要 ・科目を学ぶ意義について ●症状を示す子どもの看護①: ・病期の始まり ・子どもにみられやすい症状と看護 ・家族のホームケアへの支援 ・病児保育について ・主要症状のケア(発熱・下痢・嘔吐・脱水)	荻原	事前学習: 関連のシラバスをよく読み概要を理解する。講義が行われる範囲である「子どもにみられやすい症状と看護」「主要症状のケア(発熱・下痢・嘔吐・脱水)」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
2	●症状を示す子どもの看護②: ・主要症状のケア(痙攣・呼吸困難・出血)	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「主要症状のケア(痙攣・呼吸困難・出血)」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
3	●検査・処置を受ける子どもの看護: ・採血 ・採尿 ・骨髄穿刺 ・腰椎穿刺 ・与薬 ・注射 ・輸液療法 ・吸引 ・酸素療法 ・経管栄養	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「検査・処置を受ける子どもの看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(3時間)。
4	●子どもの健康障害と看護① 染色体異常と先天異常への看護: ・先天異常の種類と特徴 ・子どもの疾患に対する家族の受容 ・常染色体異常(ダウン症候群、ほか)、性染色体異常、胎芽病と胎児病 ・先天代謝異常症(フェニルケトン尿症、ほか) ・新生児マススクリーニング	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「染色体異常と先天異常への看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
5	●子どもの健康障害と看護② 新生児の看護: ・低出生体重児 ・低出生体重児の疾患 ・新生児の疾患	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「新生児の看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
6	●子どもの健康障害と看護③ 代謝性疾患と看護: ・1型糖尿病 ・慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 ・発達に応じたセルフケア能力の獲得	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「代謝性疾患と看護・1型糖尿病の看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
7	●子どもの健康障害と看護④ 免疫・アレルギー性疾患と看護: ・免疫のしくみ(復習) ・気管支喘息 ・食物アレルギー ・急性増悪の予防(コントロール)に向けたセルフケアと家族 ・小児慢性特定疾患治療研究事業	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「免疫・アレルギー性疾患と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
8	●子どもの健康障害と看護⑤ 小児期にみられやすい感染症と看護: ・ウイルス感染症(麻疹、風疹、水痘、ムンプス、RSウイルス感染症、ロタウイルス感染症) ・細菌感染症(溶血性レンサ球菌感染症、細菌性髄膜炎、結核) ・隔離、感染予防、予防接種(小児期の接種スケジュール)	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「小児期にみられやすい感染症と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
9	●子どもの健康障害と看護⑥ 循環器疾患と看護: ・フロー四徴症 ・心室中隔欠損症 ・心房中隔欠損症 ・動脈管開存症 ・各病期の特徴(出生前診断、養育・日常生活管理、手術の前後、経過観察と検査・治療、成人期へのキャリアオーバー) ・川崎病	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「循環器疾患と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
10	●子どもの健康障害と看護⑦ 血液・造血器疾患と看護: ・貧血、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「血液・造血器疾患と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。
11	●子どもの健康障害と看護⑧ 悪性新生物と看護: ・小児がん総論、白血病 ・中心静脈点滴 ・化学療法(骨髄抑制ほか副作用、晩期障害) ・造血幹細胞移植	荻原	事前学習: 講義が行われる範囲である「悪性新生物と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習: 講義を振り返り、まとめる(30分)。

12	●子どもの健康障害と看護⑨腎泌尿器疾患と看護: ・腎不全および腎代替療法 ・糸球体疾患(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群) ・尿道下裂	荻原	事前学習:講義が行われる範囲である「腎泌尿器疾患と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習:講義を振り返り、まとめる(30分)。
13	●さまざまな状況にある子どもと家族の看護 ①消化器・外科疾患をもつ子ども、手術を受ける子ども: ・肥厚性幽門狭窄症 ・鎖肛 ・ヒルシュスプルング症 ・子どもの骨折 ・周手術期の看護(手術の種類、インフォームドアセント、プレパレーション、術前術後の看護、家族への説明、退院指導) ・ストーマ、ギブス、装具に関するホームケア	荻原	事前学習:講義が行われる範囲である「免疫・アレルギー性疾患と看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習:講義を振り返り、まとめる(30分)。
14	●さまざまな状況にある子どもと家族の看護②医療的ケアを要する子ども: ・脳性麻痺 ・重症心身障がい ・超重症児 ・筋ジストロフィー ・二分脊椎症 ・医療的ケア児に関する法律と保育所学校等における看護職の役割とケアの実際	荻原	事前学習:講義が行われる範囲である「医療的ケアを要する子ども、脳性麻痺、重症心身障がい、筋ジストロフィー、二分脊椎症」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習:講義を振り返り、まとめる(30分)。
15	●特殊な状況にある子どもと家族の看護、虐待を受けている子どもと家族への看護、 災害時の子どもと家族への看護: ・子どもの虐待の特徴、不適切な養育(マルトリートメント)について、発生へのリスク要因と 発生予防、早期発見虐待のリスク要因、発生防止と早期発見、児童虐待における看護 (概論の復習) ・身体的虐待のうちの熱傷、頭部外傷について ・災害による子どもへの影響とストレス ・災害時の子どもへの影響と家族の支援 ・災害時における緊急度の把握とトリアージ	荻原	事前学習:講義が行われる範囲である「虐待を受けている子どもと家族への看護、災害時の子どもと家族への看護」に関連のある教科書内容を熟読する(60分)。 事後学習:講義を振り返り、まとめる(30分)。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			毎回、パワーポイントによる講義をメインに行う。 授業資料は、事前にPDFでコンテンツサイト上にアップする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
疑問や質問は、オフィスアワーを活用すること。			
【成績の評価方法】			
課題:20% 定期試験:80% 合計:100%			
【ルーブリック評価の活用(無)】			
【履修申請上の条件】			
特になし			
【教科書】			
・『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① 医学書院 ・『小児臨床看護各論』小児看護学② 医学書院			
【参考書】			
・『ナースがみる人体』、『ナースがみる病気』講談社 ・『発達段階からみた小児看護過程 第3版+病態関連図』医学書院 ・『小児看護ケアマニュアル』中山書店 ・『疾患別小児看護 基礎知識・関連図と実践事例』中央法規			
他の参考文献は適宜紹介する			
【オープンな教育リソース】			
特になし			
【担当教員の実務経験】			
・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、疾病障害のある子どもの看護について講義する。			
【オフィスアワー】			
木曜日、金曜日、昼休み時間			
【教員連絡先】			
yogihara@g.t-iunshin.ac.jp			
【備考】			
特になし			

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学概論	担当教員名	間中 伴子					
コード	22NPR323	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよびウィメンズヘルスの基本的かつ主要な概念を理解し、女性の身体的、心理社会的、文化的側面に着目して女性の生涯を通じた健康支援について学ぶ。女性の各ライフステージである思春期・成熟期・更年期・老年期における健康の特徴と健康課題および健康支援に関する看護方法について学ぶ。現代社会における女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題への看護支援について多角的な視点で議論し考察する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1	リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよびウィメンズヘルスの主要概念について説明できる。			○		○	○	○
2	女性の身体的、心理社会的、文化的側面を考慮し、女性の生涯を通じた健康支援について考えを述べることができる。			○		○	○	
3	性差医療、性差にセンシティブな女性の健康を支える医療について説明できる。				○	○	○	
4	女性の各ライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康課題とその看護について説明できる。				○	○		
5	女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題と看護について説明できる。				○	○		
6	女性とその家族に対するよりよい健康を創造する発展的な看護について考察し表現できる。				○	○	○	○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	【科目ガイダンス】 【母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷①】 A. 母子を取り巻く環境 女性の就業率 婚姻、離婚 周産期医療のシステム 在留外国人の母子支援 B. 妊娠期からの切れ目ない支援に関する法や施策 母子保健法 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律 次世代育成支援対策推進法 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律<成育基本法> 子育て世代包括支援センター<母子健康包括支援センター>	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(30分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
2	【母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷②】 C. 働く妊産婦への支援に関する法や施策: 女性の健康支援に関する法や施策: 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法> 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> 労働基準法 D. 女性の健康支援に関する法や施策: 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法> 母体保護法	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
3	【少子時代の育児をめぐる健康課題と看護・コミュニティ活動を通して】 月経タブーのインドの実情【4月25日 外部講師】 グループワーク	外部講師 間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
4	【母性看護の基盤となる概念①】 母性看護の基盤となる概念 A. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ性<セクシュアリティ> セックス、ジェンダー性の多様性	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
5	【母性看護の基盤となる概念②】 母性看護の基盤となる概念 B. 母性・父性・家族に関する概念: 母性、父性、親性 母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 家族の発達・機能 C. 女性や母子へのケアに関する概念: ヘルスプロモーションウェルネス女性を中心としたケア<Women-centered care> 家族を中心としたケア<Family-centered care> プレコンセプションケア	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
6	【女性のライフサイクル各期における看護①】 A. 思春期・成熟期女性の健康維持への看護、B. 思春期・成熟期女性の健康課題 C. 更年期・老年期女性の健康と看護	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
7	【女性のライフサイクル各期における看護②】 母性看護の基盤となる概念 B. 母性・父性・家族に関する概念: 母性、父性、親性 母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 家族の発達・機能 C. 女性や母子へのケアに関する概念: ヘルスプロモーションウェルネス女性を中心としたケア<Women-centered care> 家族を中心としたケア<Family-centered care> プレコンセプションケア D. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念、思春期・成熟期女性の健康維持への看護、女性や母子へのケアに関する概念、	間中	予習: テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(60分) 復習: 講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(120分)					
8	総括、定期試験対策、看護師国家試験出題基準について	間中	予習: 疑問、質問を整理しておく。(60分) 復習: 学習内容の整理。(60分)					

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	教員の実務経験をふまえ、できるだけ具体的なエピソードを交えて講義を行う。講義は基本的には教科書に沿って進めるが、学修がより深められるようスライドを活用する。ICTネットワーク(Googleclassroom、Gmail、課題はGoogleform、レポートはGoogle盗用チェック機能、休校の場合はGoogleMeet, zoom、視聴覚教材はヴィジュランクラウド、YouTube)を活用する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
ICTを活用したフィードバック、オフィスアワーを活用した面談によるフィードバックを行う。		
【成績の評価方法】		
定期試験(筆記):100% 合計:100%		
【ルーブリック評価の活用(無)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
シリーズ系統看護学講座-専門分野母性看護学[1]母性看護学概論 第14版. 森 恵美 他. 発行2021年01月判型:B5頁:376 ISBN 978-4-260-04225-3		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ 母性看護学①概論 ・リプロダクティブヘルスと看護 MCメディカ出版 ・女性看護学 メジカルフレンド社、 		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
助産師として大学病院産科病棟、母乳育児相談室開業、助産院、保健センター、院内助産等に勤務した。総合周産期センター院内助産では、師長として勤務した経験がある。また、助産師養成(大学院)で講師として携わった実務経験がある。		
【オフィスアワー】		
月～金 12:10～13:00		
【教員連絡先】		
研究室 3号館4階 3414号室 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
特になし		

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学援助論	担当教員名	時田純子 星野沙織			
コード	22NPR324	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	2年次/前期	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	周産期の対象は、妊婦・産婦・褥婦、胎児および新生児とその家族である。ウェルネスの観点から、周産期にある女性の妊娠・分娩・産褥期の生理的な変化に伴う健康課題、胎児・新生児期の成長発達および胎外生活への適応過程と健康課題への援助について学ぶ。また、子どもの誕生で変化する家族の適応を促進する援助について学ぶ。事例を用いた看護過程を展開し、母性看護学で必要な看護技術について体験的に学ぶ。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー					
		①	②	③	④	⑤
1 生殖(特にマタニティサイクル)に関わる身体的心理社会的な特徴と、生理的な機序について説明できる。		○	○			
2 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児、その家族の特徴について説明できる。			○			
3 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児、家族に対する看護の方法について説明できる。			○			
4 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児の健康問題および、健康課題について説明できる。			○	○	○	○
5 妊娠および出産に関わる倫理的問題を理解し、看護の役割について説明できる。		○	○		○	
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	科目ガイダンス 生殖に関する形態機能、排卵・月経周期の復習、妊娠の定義・機序	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題①ワークブック指定箇所。			
2	妊娠期のヘルスケア① 妊娠による母体の変化、妊娠によるマナートラブル、胎児の成長・発達	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題②ワークブック指定箇所。			
3	妊娠期のヘルスケア② 妊婦健康診査、妊婦保健指導、妊婦とその家族への健康支援	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題③ワークブック指定箇所。			
4	妊娠期のヘルスケア③ 超音波診断法、胎児心拍数モニタリング 妊娠期の異常と看護(不育症、流産、早産、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、妊娠糖尿病、妊娠貧血、妊娠悪阻、高年妊娠、若年妊娠、胎児発育不全)	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題④ワークブック指定箇所。			
5	分娩期のヘルスケア① 分娩の定義・機序、分娩の4要素	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑤ワークブック指定箇所。			
6	分娩期のヘルスケア② 分娩経過と看護	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑥ワークブック指定箇所。			
7	分娩期のヘルスケア③ 分娩経過と看護	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑦ワークブック指定箇所。			
8	分娩期のヘルスケア④ 分娩期の異常と看護(異常出血、胎児機能不全、陣痛異常、回旋異常)	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑧ワークブック指定箇所。			
9	産褥期のヘルスケア① 産褥の定義・生理・経過	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑨ワークブック指定箇所。			
10	産褥期のヘルスケア② 産褥期の看護、メンタルヘルス	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑩ワークブック指定箇所。			
11	産褥期のヘルスケア③ 母乳栄養の確立	星野	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑪ワークブック指定箇所。			
12	産褥期のヘルスケア④ 家族の看護、産褥期の異常と看護(子宮復古不全、産褥精神障害、死産、産褥熱、尿路感染症)	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑫ワークブック指定箇所。			
13	新生児期のヘルスケア① 胎外生活への適応過程	星野	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑬ワークブック指定箇所。			
14	新生児期のヘルスケア② 新生児の生理的変化と適応	星野	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑭ワークブック指定箇所。			
15	新生児期のヘルスケア③ 看護の原則と成長発達を促すケア、新生児の異常と看護(先天代謝異常、早産児・低出生体重児、新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、高ビリルビン血症、新生児ビタミン欠乏症、低血糖)	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):ホームワーク課題⑮ワークブック指定箇所。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】	リアクションペーパー、課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。					

<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験:100% 合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>1. 事前課題、事後展開にまじめに取り組むこと。 2. 担当教員が作成したワークブックを事前課題として活用すること。 3. 私語を慎み、グループワークに能動的に関わること。 4. 期限内に求められる体裁、内容の課題レポートを提出すること。</p>
<p>【教科書】</p> <p>・系統看護学講座専門25 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 MCメディカ出版 最新版</p>
<p>【参考書】</p> <p>・ナーシンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 MCメディカ出版 最新版 ・母性看護学1 妊娠・分娩 医歯薬出版KK、 ・母性看護学2 産褥・新生児 医歯薬出版KK、 ・助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア、 ・新生児学入門 医学書院 他 最新版 講義時に適宜紹介</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>【時田】助産師として、総合周産期センター(NICU、GCU、分娩棟)や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。 【星野】助産師として、総合病院の外来、病棟で勤務経験がある。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>月～金 12:10～13:00(時田・星野)</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>・時田研究室 3号館4階 3422-2号室 jtokita@g.t-junshin.ac.jp ・星野研究室 C棟3階 3304号室 shoshino@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>マタニティサイクルにある女性と胎児・新生児およびその家族の支援について、地域で生活する立場で考えることが重要である。よき市民として、健康的に生活し、自治体におけるよりQOLの高い母子保健サービスのあり方について考えて頂きたい。</p>

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学演習	担当教員名	間中伴子・時田純子・星野沙織					
コード	22NPR325	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択			
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
リプロダクティブヘルス看護学概論、リプロダクティブヘルス看護学援助論で学んだ知識を基盤として、周産期にある女性とその家族の具体的な事例を用いた看護過程の演習を行う。その演習の中に、妊婦・産婦・褥婦、胎児・新生児のフィジカルアセスメント演習および沐浴・育児技術を組み合わせ、科学的思考力に支えられた臨床診断に基づく、リプロダクティブヘルス看護実践に必要な技術演習を行う。対象女性とその家族の個性やライフスタイルを尊重した、科学的思考に基づいた看護支援ができる能力を修得する。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】								
				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 技術演習を通して、基礎的なフィジカルアセスメントおよび沐浴・育児技術が実践できる。						○		
2 マタニティサイクルにある女性と新生児、その家族の健康レベル・発達過程を考慮した看護過程の展開について説明できる。					○	○		
3 マタニティサイクルの各期(妊娠期・分娩期・新生児期・産褥期)における健康課題とその看護について説明できる。				○	○	○		
4 マタニティサイクルの多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題と看護について説明できる。				○	○	○	○	
5 マタニティサイクルにある女性とその家族に対するよりよい健康を創造する発展的な看護について説明できる。					○	○	○	○
6 個人・グループワークを通して、マタニティサイクルにある女性とその家族への看護について看護専門職として議論ができる。				○	○	○		○
【授業計画】								
授業計画		担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	■科目ガイダンス 1) 科目の位置づけ 2) 授業の概要	間中	予習:技術演習項目について、テキストをよく読み疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。指摘した動画を視聴する。(30分)					
2	■技術演習ガイダンス	時田 星野						
3	■技術演習 妊産褥婦および新生児のフィジカルアセスメント	時田 間中 星野	予習:技術演習項目について、テキストをよく読み、演習について整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(60分)					
4								
5	■技術演習 沐浴演習	時田 間中 星野	予習:技術演習項目について、テキストを読み、演習について整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(60分)					
6								
7	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開①	間中	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)					
8	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開②	間中	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)					
9	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開③	間中	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)					
10	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開④	間中	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)					
11	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開⑤	間中	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)					
12	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開⑦	間中	予習:発表についてのまとめ、準備をする。(45分) 復習:次回のグループワークに向けて、ワークの内容をまとめる。(30分)					
13	■事例演習 模擬患者の看護過程の展開⑧	間中						
14	■総合周産期母子医療センターにおける医療と看護 帝王切開術時の看護	【聖マリアンナ医 科大学病院産科 病棟師長】	予習::テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(30分) 復習::講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。(30分)					
15								
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)		○	この科目では、ICTネットワーク(Googleclassroom、Googleform、GoogleMeet、gmail、Zoomミーティング、視聴覚教材としてヴィジュアルクラウド、YouTubeなど)を活用する。それらを使用して教員と各グループ成員との情報交換を行い、学生個人、各グループ成員の学習の到達度を確認しながら、次回のグループワークに臨むようにする。					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	また、教員の実務経験をふまえ、できるだけ具体的なエピソードを交えて講義を行う。					
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション		○						
⑥:実習・フィールドワーク								

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>ICTネットワークを活用し授業毎の課題と併せて授業に対する意見、質問など受け付ける。それに対してフィードバックを行う。オフィスアワーを活用した対面によるフィードバックも希望に応じて行う。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>定期試験(筆記):100% 合計:100%</p>
<p>【ルーブリック評価の活用(有)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>1.シリーズ系統看護学講座-専門分野母性看護学母性看護学概論 第14版 [1]森 恵美 他 発行2021年01月判型:ISBN978-4-260-04225-3 2.シリーズ系統看護学講座-専門分野母性看護学母性看護学各論 第14版 [2]森 恵美 他 発行2021年02月判型:ISBN978-4-260-04223-9</p>
<p>【参考書】</p> <p>ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程 第3版. 太田操 編著. 発行年月:2017年2月. ISBN978-4-263-23687-1</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>特になし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>【間中】助産師として大学病院産科病棟、母乳育児相談室開業、助産院、保健センター、院内助産等に勤務した。総合周産期センター院内助産では、師長として勤務した経験がある。また、助産師養成(大学院)に携わった実務経験がある。 【時田】助産師として、総合周産期センター(NICU、GCU、分娩棟)や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。 【星野】助産師として、総合病院の外来、病棟で勤務経験がある。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>【間中】月～金 12:10～13:00 事前に希望日時等の相談をGメールにて連絡すること。 【時田】同上 【星野】同上</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>【間中】研究室 3号館4階 3414号室 tmanaka@g.t-junshin.ac.jp 【時田】研究室 3号館4階 3422-2号室 jtokita@g.t-junshin.ac.jp 【星野】研究室 C棟3階3304号館2階 shoshino@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>1. 課題や提出物の期限は厳守すること。 2. グループワークや演習では、能動的に行動すること。</p>

授業科目名	基礎看護展開実習	担当教員名	安藤幸枝・天野雅美・本田智子・高山由利江 他				
コード	22NPR339	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択		
年次/期間	2年次/後期	単位/時間数/形態	2単位/60時間/実習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。						
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。						
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。						
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。						
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。						
【授業の概要】							
本科目では、看護過程の展開方法を活用し、日常生活上の問題解決に向けた看護援助を計画・実施・評価する基礎的能力を身につけることを目指している。看護の問題解決力を修得し、疾患や障がい対象の日常生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解する。また、既習の知識・技術・態度を統合し、看護過程の展開方法を用いて、病院で療養生活を送る対象の日常生活上の問題解決に向けた看護援助を実施・評価する。また実習を振り返り、自己の看護観についても考察する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							
			ディプロマ・ポリシー				
			①	②	③	④	⑤
1 患者を尊重してコミュニケーションをとることができる。					○		
2 患者の状態を把握するために行う援助計画を立案できる。				○			
3 安全・安楽の視点に合わせて患者の援助を実施・評価できる。				○			
4 患者の入院前後の生活を把握し、生活行動をアセスメントできる。						○	
5 実習の評価により、看護学生として自己研鑽するための課題を挙げることができる。						○	
【授業計画】							
授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
<p>詳細は、基礎看護展開実習要項参照のこと</p> <p>実習期間:2023年8月28日(月)~9月8日(金) オリエンテーション:7月25日、8月24、25日 3日間の予定とする</p> <p>実習時間:原則として9:30-15:30(初日は10:30病棟到着) 学内 9:00-16:00予定</p> <p>実習施設:聖マリアンナ医科大学病院他</p> <p>1日~10日目の実習全般において: ・患者の状態を把握するために、看護援助を計画・実施・評価し、看護過程の展開方法を活用しながら対象をアセスメントする基礎的能力を身につける。</p> <p>実習方法:・学生は6~7名程度でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う ・病棟オリエンテーションを受ける。 ・原則として患者を1名受け持つ。</p> <p>具体的なねらい: 1日目~2日目:患者と接する。病棟の構造を知る。患者の生活を知る。 3日目~4日目:患者の生活を知る。患者の課題を明らかにし、原則に基づく援助を実施する。(アセスメント)</p> <p>5日目~7日目:患者の生活を理解する。患者の課題を明確にし、個別的生活援助を実施する。(看護診断)</p> <p>8日目~9日目:課題(看護診断)に対する結果、評価、修正を行う。 重要点を中心に、簡潔明瞭に報告を行う。</p> <p>1週目、2週目の水曜日に学内日を設ける。</p> <p>・実習最終日は学内とする。評価面接、実習のまとめを行う。 【目標の達成状況について、評価面談を行う】</p>	安藤他	<p>【病院実習 1日目】 予習(90分): ・実習目標を理解し、自分の目標を設定する。実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・事前に行う実習オリエンテーションの課題:実習に向けて事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・必要な援助技術の練習を行う。 ・病棟の特性から、入院患者の疾患を理解するための学修を行う。 復習(90分): ・オリエンテーション内容を整理し、援助計画書をファイリングする。</p> <p>【実習2日目~3日目】 予習(各90分) ・受け持ち患者の身体面・心理面・社会面を捉えるために、必要な知識を学修する。 ・受け持ち患者を理解するために、事前学習した援助計画書を参考にしながら、看護技術のシミュレーションおよび知識の再確認をする。 ・情報の整理を行いながら、受け持ち患者はどのような状態にあるのか、どのような援助を必要としているのかを考え、患者の全体像を作成する。 復習(各90分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・実施した看護技術について振り返り、翌日の援助に活用する。 *学内日:記録のまとめ、不足している情報について明確にしておく。</p> <p>【実習4日目~5日目】 予習(各90分) ・アセスメントに必要な情報をあらかじめ、選定しておく。 ・復習(各90分) ・患者のアセスメントをまとめる。</p> <p>【実習5日目~7日目】 予習(各90分) ・患者の課題となりうるものについてアセスメントからまとめておく。 復習(各90分) ・アセスメントに基づく課題と個別性を考えた援助の計画をまとめる。</p> <p>【実習8日目~10日目】 予習(90分): ・看護診断に対する結果、評価、修正についてまとめる。 ・実習の学びや自己評価についてまとめておく。 *学内日:看護過程の展開を振り返り、修正点や再計画についてまとめる。 復習(90分): ・自己の看護観についてまとめる。 ・グループメンバー間での意見交換を行い学びを共有する。</p>					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			・基礎看護展開実習前に、看護技術の事前課題を提示するため、グループを中心に実習室を有効活用する。				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)							
③:ディスカッション・ディベート		○					
④:グループワーク		○					
⑤:プレゼンテーション							
⑥:実習・フィールドワーク		○					
【課題のフィードバック】							
・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や臨地実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。							

<p>【成績の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/5(48時間/60時間)以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・実習態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、実習評価表の評価項目(100%)に沿って評価する。 ・原則として、実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。 <p>【ルーブリック評価:有くレポート】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年～2021年の学生:「基礎看護学実習Ⅰ」「看護技術演習Ⅱ」「看護過程」の単位を修得していること。
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定しない。
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本援助技術・生活援助技術・フィジカルアセスメント・看護過程で参考にしたテキストや資料など
<p>【オープンな教育リソース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【担当教員の実務経験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師としての臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。
<p>【オフィスアワー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員…実習病院で実習期間中の時間内に行く。学内実習は、学内で実習期間中の時間内に行く。
<p>【教員連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安藤:yando@g.t-junshin.ac.jp、各担当教員の連絡方法は、別途説明する。
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前に、学内で実習オリエンテーションを行う。オリエンテーションでは事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・これまでに学んだ知識・技術・態度を統合する実習であり、安全に看護を実践できるよう、十分な事前学修をして実習に臨むこと。 ・健康管理に十分留意しながら日常生活を過ごして、実習に臨むこと。 ・本科目は、専門6領域看護学実習の先修科目となっている。

授業科目名	暮らしの理解体験実習	担当教員名	戸塚智美 南 幸子			
コード	22NPR340	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択	
年次/期間	1年次/前期	単位/時間数/形態	1単位/30時間/実習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】	この科目では、「暮らしの理解」で学修した知識をもとに、地域で暮らす人々とのコミュニケーションを通して人々の暮らしと地域の人々への支援を学ぶ。体験実習では、「学ぶ」、「働く」、「子どもを産み育てる」、「病を治す」、「若いとともに生きる(定年後の生活)」のテーマを中心に地域の人々とのコミュニケーションを通して暮らしの実態を把握する。地域住民の暮らし実態は、①地域住民の生活史、②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等)、③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等)、④地域住民の健康状態、⑤地域住民の健康に対する価値観(考え)ならびに、健康と暮らしとの関連として、①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連、②地域住民の健康と社会生活との関連をまとめ、地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする。さらに、グループディスカッションを通して、地域の人々の暮らしの理解を深めるとともに、支援のあり方を考察する。					
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー					
	①	②	③	④	⑤	
1 地域住民の暮らしの実際を述べることができる。			○			
2 健康と暮らしとの関連について述べるができる。			○			
3 地域住民の暮らしのニーズ、課題を述べるができる。			○			
4 地域住民への支援のあり方を述べるができる。			○		○	
5 地域住民の方を尊重し、マナーを守って行動することができる。	○					
6 看護学生として適切に判断・行動することができる。	○					
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	1日目: 1. オリエンテーション ・実習の到達目標、実習概要の説明を受ける ・『暮らしの体験実習』の自己の目標を立案する。 2. 「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の質問事項の検討 3. 「地域の方との交流会」の進め方の作成	戸塚(智) 南	予習(90分) (1)八王子市左入・高尾地域の特徴をインターネット等で調べる。 (2)「暮らしの理解」の課題ノートを参考に高齢者と障害者の暮らしとをまとめる。 復習(45分): (1)「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の質問事項をまとめる (2)「地域の方との交流会」の進め方をまとめる			
2	2日目 1. 「障害をもちながら地域で暮らす」講座 2. 「障害をもちながら地域で暮らす」講師とともにディスカッション 3. 「障害をもちながら地域で暮らす」の学びをパワーポイントにまとめる	戸塚(智) 南	予習(45分): (1)行動目標・スケジュールを立案する。 復習(90分): (1)講座内容とディスカッションの内容、学びと考察をまとめる。			
3	3日目: 1. 介護予防教室等に参加 2. 地域の方との交流会に参加 ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え)	戸塚(智) 南	予習(45分): (1)行動目標・スケジュールを立案する。 復習(90分): (1)介護予防教室と地域の方との交流会の結果をまとめる。 (2)行動計画表(実習結果と考察、学び)をまとめる。			
4	4日目: 1. 地域の方との交流会の結果をまとめる ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活(食生活、運動、睡眠等) ③地域住民の社会生活(家族、趣味、ボランティア等) ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観(考え) 2. 健康と暮らしとの関連 ①地域住民の健康と暮らし(食生活・活動等)との関連 ②地域住民の健康と社会生活との関連 3. 地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする 4. 地域住民への支援のあり方 1)地域住民の健康に関する価値観・考え 2)地域住民の生活に関する価値観・考え 3)地域住民が考える価値観を取り入れた支援について 5. 『暮らしの体験実習』の学び ※1～5をパワーポイントにまとめる。	戸塚(智) 南	予習(45分): (1)地域の方との交流会の結果をまとめる。 (2)健康と暮らしとの関連についてまとめる。 復習(90分): (1)地域住民の暮らしのニーズ・課題と地域住民への支援のあり方をまとめる			
5	5日目: 1. 実習の学びの発表会・まとめ ①地域住民の暮らしの交流会の結果 ②健康と暮らしとの関連 ③地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする ④地域住民への支援のあり方 ⑤『暮らしの体験実習』の学び	戸塚(智) 南	予習(30分): (1)実習の学びの発表の準備 復習(105分): (1)実習記録の整理 (2)課題レポートの作成			
【アクティブラーニング】	チェック欄		その他の工夫			
①:PBL(課題解決型学習)			特になし			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)						
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク	○					
⑤:プレゼンテーション	○					
⑥:実習・フィールドワーク	○					

<p>【課題のフィードバック】</p> <p>実習翌日ならびに実習5日目の発表後に実施する。</p>
<p>【成績の評価方法】</p> <p>実習評価表に基づき評価する 合計:100%</p>
<p>【ルーブリック評価の活用（有）】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>「暮らしの理解」を履修していることが望ましい。</p>
<p>【教科書】</p> <p>・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①:地域療養を支えるケア 第7版 メディカ出版 2022年</p>
<p>【参考書】</p> <p>・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 2021年 ・五十嵐隆:はじめてママ&パパの育児—0～3才赤ちゃんとの暮らし 気がかりがスッキリ 主婦の友社 2014 ・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録 文春文庫 2009 ・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ 2021 ・岩名礼介 新版 地域包括ケア サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する メディカ出版 2020 ・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場 日本看護協会出版会 2021 ・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)—100年時代の人生戦略 東洋経済新聞社 2016 ・長谷川和夫:僕はやっとなんか認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言 KADOKAWA 2019年</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>記載事項なし</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>戸塚智美: 臨床看護・訪問看護の実務経験をもとに、疾患や障害が対象の日常生活に及ぼす影響と療養者とその家族に対する看護を総合的に教授する。 南幸子 : 臨床看護、訪問看護、特定居宅支援事業所、地域包括支援センターの勤務経験から地域・在宅で生活するために必要な看護支援を教育内容に取り入れた授業を展開する。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>戸塚智美:月～金12:10～13:00 南幸子 :月～金12:10～13:00</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>戸塚智美:stotsuka@g.t-junshin.ac.jp 南幸子 :sminami@g.t-junshin.ac.jp</p>
<p>【備考】</p> <p>特になし</p>

看護学部

授業科目名	看護叡智探究論Ⅰ(基礎)	担当教員名	山本 君子・川原 尚子
コード	22NAD410	区分 (必修・選択)	選択
年次/期間	1年次 / 通年	単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】		
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。		
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。		
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。		
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。		
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。		
【授業の概要】			
<p>本科目は、1年次より「看護師国家試験」受験に向けての意識づけを目的としている。加えて、主体的に学ぶアクティブラーニングの観点から、学習者が自らの課題を明確にし、取り組む科目である。「看護師国家試験問題」を理解するためには、読解力が必要であるため、本・新聞記事などを正確に読み、その内容を簡潔に文章で伝えること、また、その内容に対しての自分の考えを論理的に表現できる能力を身につける。</p> <p>授業ではまず、国家試験の目的・概要について、教員からレクチャーを受け看護師国家試験問題にチャレンジする。また、指定された課題に取り組み、小論文を完成させる。</p>			
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】			ディプロマ・ポリシー
			① ② ③ ④ ⑤
1 看護師国家試験に向けた学修方法を説明できる。			○ ○ ○ ○ ○
2 自主的に課題に取り組み、小論文の書き方を述べるができる。			○ ○ ○ ○ ○
3 小論文を完成させることで、今後の自己の課題を述べるができる。			○ ○ ○ ○ ○
4 看護師国家試験問題に取り組み、必修・一般問題の合格水準を満たすことができる。			○ ○ ○ ○ ○
【授業計画】			
	授業計画	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1回 7月4日(火) 3限目	「看護師国家試験」とは何か?オリエンテーション(試験問題、本学の支援体制など)卒業生による国家試験対策について伝授 (卒業生3名) 山本君子	予習:シラバスを熟読する。(30分) 復習:授業終了後の振り返りをまとめる。(30分)	
2回 7月18日(火) 3限目	400字の作文を2段構成で書く。 新聞のコラムを読み、筆者の考えと自分の考えを書き分ける。 川原尚子	予習:シラバスを読み、小論文の授業がどのようにすすめるのかを把握する。(30分) 復習:授業で取り上げたコラムを読み、自分の思ったこと、今後考えていきたいことをまとめる。(30分)	
3回 9月19日(火) 3限目	600字の小論文を3段構成で書く。 序論、本論、結論の3段構成の書き方を学ぶ。 文章を読み、自分の考えを明らかにして書く。 川原尚子	予習:文章の3段構成について、前の授業で配布されたプリントを読み理解する。(30分) 復習:返却された作文の添削を読み、誤字、不適切な表現を確認する。(15分)	
4回 10月3日(火) 3限目	800字の小論文を4段構成で書く。 起承転結の4段構成の書き方を学ぶ。 自分の考えとは反対の考えを取り上げ、なぜ反対なのかを書く。 川原尚子	予習:文章の4段構成について、前の授業配布されたプリントを読み、理解する。(30分) 復習:返却された小論文の添削を読み、誤字、段落の区切り方を理解する。(15分)	
5回 10月17日(火) 3限目	800字の小論文を4段構成で書く。 自分の考えの根拠を、明確にして述べる。 引用、参考文献の書き方を学ぶ。 川原尚子	予習:文章の4段構成を確認する。(30分) 復習:引用、参考文献の書き方を確認する。(15分)	
6回目 10月31日(火) 3限目	1000字の小論文を4、5段階で書く。 文章とデータを読み取り、分析し、傾向をまとめ、自分の考えを書く。 川原尚子	予習:返却された小論文を読み、確認する。(30分) 復習:取り上げたデータを読み取り、さらに分析したことについてまとめる。(15分)	
7回 11月21日(火) 3限目	1200字の小論文を書く。 自分で問題を提起し、今後の対策を根拠を挙げて述べる。 川原尚子	予習:配布された記事を読み、取り上げる問題について考える。(30分) 復習:取り組んだ課題に対して、今後考えたいことを整理する。(15分)	
8回 12月19日(火) 3限目	国家試験過去問題にチャレンジ 授業のまとめ 山本君子	復習:看護師国家試験問題を確認する。(60分) 課題:1回~7回までの授業を振り返りをまとめる。(480分)	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○	
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
看護師国家試験問題にチャレンジし、振り返る。 基本的に毎回の課題に取り組み、小論文を書く。授業内で小論文のフィードバックをし、読解力の確認を行う。			
【成績の評価方法】			
小論文:60%(内容の理解度、表現力、オリジナリティでルーブリック評価を実施する。) 課題への取り組み:40%			
【履修申請上の条件】			
特になし。1年次科目であるため、1年生のみ履修できる。			
【教科書】			
担当教員が資料を準備する。			
【参考書】			
1. 世界思想社編集部:大学生 学びのハンドブック[5訂版],世界思想社,2021. 2. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK,日本看護協会出版,2021. 3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、ナカニシヤ出版、2020.			

【担当教員の実務経験】

看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者、国語の知識のある者を中心に、看護叡智探究論 I (基礎)を教授する。

【オフィスアワー】

火・木の12:10～13:00

【教員連絡先】

k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、看護師国家試験の合格を目指すための、スタートラインになります。毎回の課題に取り組むことで、読解力を身につけられますので、積極的な参加が必要です。進度は、隔週で授業を進めます。毎回の課題である小論文提出後は、担当教員がフィードバックします。

授業科目名	看護叡智探究論Ⅱ(看護の基礎)		担当教員名	天野 雅美		
コード	22NAD411	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	○
年次/期間	2年次/通年		単位/時間数/形態	1単位/15時間/講義		
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
<p>本科目は、的確な看護実践能力の基盤となる科学的根拠を導く知識、思考、理解力、判断力を育成することを目的に、学修進に応じて段階的にその能力を修得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論Ⅱは、2年次後期に開講し、既習科目の薬理学、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護展開論、フィジカルアセスメントの知識をもとに、看護叡智探究論Ⅰを発展させ探究的に学修する。具体的には、看護の対象の健康を脅かす病態と検査・診断・治療による日常生活への影響をアセスメントし、健康課題に対する的確な看護の基本を科学的根拠に基づき探究する。2年次に、あらためて既習科目を再学修することにより、看護に繋がる専門基礎科目を学修する意味を理解し、知識を統合して健康問題を解決する能力を培う。学修方法は、事前学修、講義、応用問題、振り返り学修をし、国家試験問題を参考にし、専門基礎知識の想起や状況設定問題に取り組み、自己の課題を明確にして、3年次の看護叡智探究論Ⅲへと繋げる。</p>						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						
				ディプロマ・ポリシー		
				①	②	③
1	既習科目の知識を想起することができる。				○	
2	事前学修に取り組むことができる。					○
3	応用問題を解くことができる。			○	○	
4	自ら振り返り学修へ取り組むことができる。					○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
1	【ガイダンス】目標・授業展開・評価 薬理学:主な薬物の作用と副作用、薬物の管理…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
2	疾病治療論Ⅰ:疾病診断・治療、感覚器系・耳鼻咽喉頭の疾患と診断・治療、眼科系の疾患と診断・治療、皮膚科系の疾患と診断・治療、呼吸器系の疾患と診断・治療…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
3	疾病治療論Ⅱ:疾病診断・治療、上下部消化管の疾患の病態と診断・内外科的治療、肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内外科的治療、腹壁・腹膜・横隔膜の病態と診断・外科的治療…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
4	疾病治療論Ⅲ:運動機能、血液機能、免疫機能…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
5	疾病治療論Ⅳ:中枢神経系の病態と診断・治療、末梢神経系の病態と診断・治療、筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療、脳の仕組みと精神機能、精神の構造・心理学的側面、精神疾患の病態と診断・治療…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
6	看護展開論:情報の種類・収集方法、情報の分析・統合、看護問題の明確化と優先順位決定、看護目標の設定と計画、実施、評価…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
7	フィジカルアセスメント:看護におけるフィジカルアセスメントの意義、医療面接、身体診察、系統別のフィジカルアセスメント…学修内容の確認、結果の分析	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
8	学修内容の統合、解説	天野	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(90分):講義内容を整理する			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL(課題解決型学習)			○	・必要時、動画の活用をする。 ・授業資料は、Google classroomを用いて配信することができる。		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○			
③:ディスカッション・ディベート						
④:グループワーク						
⑤:プレゼンテーション						
⑥:実習・フィールドワーク						
【課題のフィードバック】						
・フィードバックは、授業内及び、次回授業時に行う。						

<p>【成績の評価方法】</p> <p>各回の学修内容:70% (10点×7回=70点) 学修内容の統合:30% 合計:100%</p> <p>【ルーブリック評価の活用(無)】</p>
<p>【履修申請上の条件】</p> <p>・特になし</p>
<p>【教科書】</p> <p>・既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること</p>
<p>【参考書】</p> <p>・適宜紹介する。</p>
<p>【オープンな教育リソース】</p> <p>・必要時、提示する。</p>
<p>【担当教員の実務経験】</p> <p>・看護師・保健師の資格を有し、内科病棟・外科病棟を中心とした看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>・B棟3428-1研究室 平日12:10-13:00</p>
<p>【教員連絡先】</p> <p>・mamano@g.t-junshin.ac.jp 事前にアポイントメントを取ること</p>
<p>【備考】</p> <p>・国家試験対策の学修支援の一環として、科学的な根拠に基づく問題解決能力を獲得することを期待する。自ら学修し、自己評価をし、積極的に学修をすすめること。</p>

授業科目名	看護研究の基礎	担当教員名	渡辺羊子・宗定水奈子						
コード	22NAD414	区分 (必修・選択)	必修 ○	保健師課程 必修	選択				
年次/期間	2年次/通年	単位/時間数/形態	2単位/30時間/講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。								
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。								
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。								
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。								
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。								
【授業の概要】									
看護研究の目的・意義について理解し、看護研究を行うための研究方法と研究プロセスに関する基礎的な知識を修得する。また、具体的な研究論文に触れつつ、看護現象を解明、説明、予想するための量的・質的研究方法の中から代表的な各種研究方法を学び、特徴を理解し、研究の可能性および看護の創造性について考察する。研究に必要な文献検索の意義や方法を学び、実際に文献検索を行い研究課題に関する文献を系統的に収集し、正しく読みまとめる力を養う。4年生の看護研究発表会を聴講し研究プロセスを学び、看護研究の探求心を深める。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1	看護研究の目的・意義・範疇について説明できる。								○
2	看護研究の分類・デザイン・研究プロセスについて説明できる。								○
3	主な研究方法(量的・質的)の特徴について説明できる。								○
4	研究計画書の構成要素ごとの必要な内容について説明できる。								○
5	研究における倫理原則に基づき倫理的配慮について説明できる。								○
6	文献検索の基本方法を理解し、文献収集ができる。								○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	科目ガイダンス 看護研究の目的・意義	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト目次・全体に目を通した上で、テキストp11～20を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
2	研究のプロセス 看護実践における研究課題の明確化、理論的枠組み	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp20～38を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
3	文献検索および検討 文献検索方法・図書館利用の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト39～49を読んでおく 復習(60分):文献検索トライアル						
4	文献検索および検討 看護研究における倫理的配慮	渡辺・宗定	予習(60分):テキスト62～81を読んでおく、関心のある論文を探しておく 復習(60分):研究における倫理的配慮についてノートにまとめる						
5	質的研究① 質的アプローチの研究デザイン	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
6	質的研究② 質的アプローチの研究手法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
7	質的研究③ 質的データ分析方法	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
8	質的研究④ 質的研究のまとめ	渡辺	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル						
9	量的研究① 量的アプローチの研究デザイン	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
10	量的研究② 量的アプローチの研究手法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
11	量的研究③ 量的データ分析方法	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り						
12	量的研究④ 量的研究のまとめ	宗定	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる 文献検索トライアル 【課題】興味関心のある原著論文を5本取り寄せ、提出(提出、期限等詳細は別途知らせる)						
13	研究課題の明確化 論文のクリティーク・発表の仕方	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp230～236を読んでおく 復習(60分):発表会参加し学んだことをノートにまとめておく						
14	研究計画書の形式と作成プロセス①	渡辺・宗定	予習(60分):テキストp206～215 復習(60分):研究課題の明確化をしノートにまとめる						
15	研究計画書の形式と作成プロセス②	渡辺・宗定	予習(60分):今までの振り返り 復習(120分):提出課題の見直し *時間外学修時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること。 【終了時課題提出】1, 授業のまとめと取り寄せた文献5本以上を綴じたファイル 2, 課題レポート(テーマ、期限等詳細は別途知らせる)						

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	国会図書館へ行き、文献調べる 4年生の看護研究発表会に参加
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
リアクションペーパー、小テスト等は次回の講義でフィードバックする。		
【成績の評価方法】		
課題:課題レポート40% 課題への取り組み・課題への提出物の総合評価 40% ファイル提出:授業で使用したプリント整理・成果をまとめたプリントをファイルし提出 20% 合計:100% 【ルーブリック評価の活用(有)】		
【履修申請上の条件】		
特になし		
【教科書】		
ナーシンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版2023		
【参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> ・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017 ・黒田裕子 看護研究 Step by Step第5版 医学書院 2017 ・早川和生 JIN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014 ・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司 楽しくなる看護研究 メジカルフレンド社 2012 ・横山美江編著 よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3班 医歯薬出版 2017 ・李節子 看護研究心得帳 医歯薬出版 2022 ・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社 ・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院 他 適宜紹介 		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
渡辺:研究教育では、大学等での保健師・看護師・福祉系の卒業研究指導あり。修士・博士課程の研究経験を踏まえ、研究の基本を中心に講義を行う。 宗定:総合病院の卒後教育において、初学者向けの看護研究概論の講師を務めた経験や、自身の研究経験から講義を行う。		
【オフィスアワー】		
渡辺羊子:火～金 12:10～13:00 宗定水奈子:月～木 12:10～13:00		
【教員連絡先】		
渡辺羊子:ywatanabe@g.t-junshin.ac.jp 宗定水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp		
【備考】		
科学的実証研究に基づいた看護実践をするために、看護学研究に関する基本的な知識を学ぶ。科学的な文献を読むためには、基本的な統計学的知識が必須であるため、自己学習をしておくことアドバイスが必要な学生は担当教員まで相談のこと。看護研究ゼミナールや看護研究の実践のベースとなる科目であり、自らの興味・関心ももてる部分から学習を進めていくを期待する。		